

小山崎遺跡群

小山崎遺跡

長野県佐久市下小田切小山崎遺跡発掘調査報告書

2023

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第298集

小山崎遺跡群

小山崎遺跡

長野県佐久市下小田切小山崎遺跡発掘調査報告書

2023

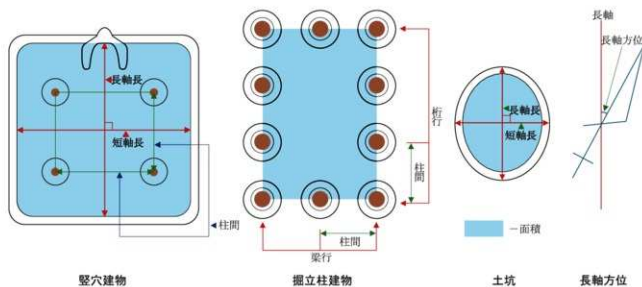
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する小山崎遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は佐久市が行う白田地区新小学校建設工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 小山崎遺跡 I (S K Z I)
佐久市下小田切 1 7 7 - 1 他
- 4 調査期間及び面積 発掘調査：令和元年 8 月 20 日～ 11 月 1 日
令和 2 年 6 月 29 日～ 8 月 7 日
整 理：令和元年 11 月 5 日～令和 5 年 3 月 17 日
調査面積：3,396㎡
- 5 本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
- 6 遺構測量は TS を用い 3 次元データを取得した。取得したデータは株式会社 CUBIC の「遺構くん」により図化した。図面トレースは「遺構くん」で行い、Adobe Illustrator で調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshop で補正等を行った。編集は Adobe InDesign で行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4（鉄器・鉄製品は 1/2）を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
- 2 海拔標高は、水系標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 3 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 4 網掛けは以下の表現である。





目次

例言

凡例

目次

I 発掘調査の経緯	2
1 経過と立地	2
2 調査体制	2
3 調査日誌	2
平成31年度・令和元年度	2
令和2年度	3
令和3年度	3
令和4年度	3
4 遺跡の歴史的環境	3
II 調査の方法	5
1 調査の方法	5
遺跡名・調査区	5
遺跡略記号・遺構略記号	5
遺構調査	5
遺構測量	5
写真	5
遺構・遺物の整理等	5
報告書	6
2 基本層序	6
3 検出遺構・遺物の概要	6
III 遺構と遺物	6
1 竪穴建物	6
H1号竪穴建物 (Fig.4)	6
H2号竪穴建物 (Fig.5)	10
H3号竪穴建物 (Fig.6)	10

H 4号竖穴建物 (Fig.7・8)	10
2 掘立柱建物	12
F 1号掘立柱建物 (Fig.9)	12
F 2号掘立柱建物 (Fig.10)	12
F 3号掘立柱建物 (Fig.11)	19
F 4号掘立柱建物 (Fig.12)	19
F 5号掘立柱建物 (Fig.13)	19
3 土坑	19
D 1号土坑 (Fig.14)	19
D 2号土坑 (Fig.14)	19
D 3号土坑 (Fig.14)	19
D 4号土坑 (Fig.14)	19
D 5号土坑 (Fig.14)	21
D 6号土坑 (Fig.14)	21
D 7号土坑 (Fig.15)	21
D 8号土坑 (Fig.15)	21
D 9号土坑 (Fig.14)	21
D 10号土坑 (Fig.15)	21
D 11号土坑 (Fig.15)	21
D 12号土坑 (Fig.15)	22
D 13号土坑 (Fig.15)	22
D 14号土坑 (Fig.15)	22
D 15号土坑 (Fig.15)	22
D 16号土坑 (Fig.15)	22
D 17号土坑 (Fig.16)	22
D 18号土坑 (Fig.16)	22
D 19号土坑 (Fig.16)	22
D 20号土坑 (Fig.16)	22
D 21号土坑 (Fig.16)	23
D 22号土坑 (Fig.16)	23
D 23号土坑 (Fig.16)	23
D 24号土坑 (Fig.16)	23
D 25号土坑 (Fig.16)	23
D 26号土坑 (Fig.17)	23
D 27号土坑 (Fig.17)	23
D 28号土坑 (Fig.17)	23
D 29号土坑 (Fig.17)	24
D 30号土坑 (Fig.17)	24
D 31号土坑 (Fig.18)	24
D 32号土坑 (Fig.18)	24
D 33号土坑 (Fig.18)	24
D 34号土坑 (Fig.18)	24
D 35号土坑 (Fig.18)	24
D 36号土坑 (Fig.18)	24

D 37号土坑 (Fig.18)	25
D 38号土坑 (Fig.18)	25
D 39号土坑 (Fig.18)	25
D 40号土坑 (Fig.19)	25
D 41号土坑 (Fig.19)	25
D 42号土坑 (Fig.19)	25
D 43号土坑 (Fig.19)	25
D 44号土坑 (Fig.19)	25
D 45号土坑 (Fig.19)	26
D 46号土坑 (Fig.20)	26
D 47号土坑 (Fig.19)	26
D 48号土坑 (Fig.19)	26
D 49号土坑 (Fig.20)	26
D 50号土坑 (Fig.20)	26
D 51号土坑 (Fig.20)	26
D 52号土坑 (Fig.20)	35
D 53号土坑 (Fig.20)	35
4 溝址	39
M 1号溝址 (Fig.21)	39
M 2号溝址 (Fig.22)	39
5 ビット (Fig.23～61)	41
6 遺構外出土遺物 (Fig.62～78)	42
縄文土器 (Fig.62)	42
弥生土器 (Fig.63)	43
土師器 (Fig.64)	44
須恵器 (Fig.65)	44
陶磁器 (Fig.66)	45
金属器 (Fig.67)	45
石器・石製品 (Fig.68～78)	45
表	69
IV 自然科学分析	91
小山崎遺跡出土遺物自然科学分析	91
はじめに	91
1. 試料	91
2. 分析方法	91
3. 結果	92
4. 考察	92
引用文献	93
V まとめ	95
写真図版	98
抄録	
奥付	

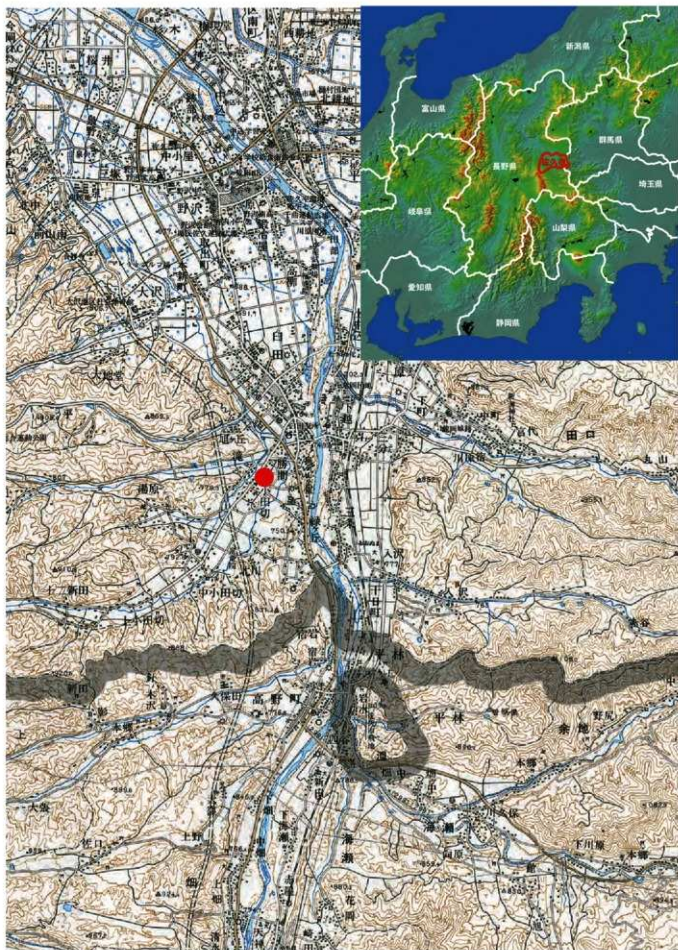


Fig.1 小山崎遺跡の位置 (1 : 50,000)

1 発掘調査の経緯

1 経過と立地

小山崎遺跡は、佐久市下小田切地区に所在する。遺跡は蓼科山から延びる尾根の末端部分に立地する。この尾根は西を中沢川に、東を片貝川に浸食され、北に向かい緩傾斜している。遺跡はこの狭小な尾根上に展開する。圃場整備あるいは河川改修工事等により、現在の片貝川は遺跡付近では細かな屈曲を呈しているが、明治初期の絵図などには僅かに東に膨らみながら南から北に向かい流れる様子が描かれている。また、米軍撮影の戦後間もない時期の航空写真からも同様な状況が見取れるとともに、今回の調査範囲が尾根中央部分の僅かな平坦地部分に展開することも確認できる。この尾根は、主に片貝川の氾濫により運ばれたと思われる礫により被覆され、その上にシルト質の粘土層が薄く堆積している。遺構はこのシルト質部分で確認された。

今回、白田地区新小田切小学校の建設が計画されたため、開発対象地域に試掘調査を実施した結果、遺跡が発見されたため、記録保存を目的とした発掘調査を令和元年度と2年度にわたり実施した。

2 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教 育 長	榎澤晴樹（令和元・2年度） 吉岡道明（令和3年5月～）
事務局	社会教育部	部 長	青木 源（令和元年度） 三浦一浩（令和2年度） 土屋 孝（令和3・4年度） 東城 洋（令和元・2年度） 平林照義（令和3年度） 吉田 晃（令和元年度） 岡部政也（令和2年度） 谷津和彦（令和3年度） 井上 剛（令和4年度）
	文化振興課	課 長	山本秀典（令和元～3、4年7月～） 井澤信子（令和4年4月～6月）
	文化財調査係	係 長	富沢一明 上原 学 羽毛田卓也（令和3年まで） 久保浩一郎 小林真寿 松下友樹（令和4年～）
		調査担当者	小林真寿
		調 査 員	甘利隆雄 岩松茂年 大矢志暮 小林喜久子 小林節子 小林敏雄 堺 益子 清水律子 副島充子 田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 山村容子 柳沢孝子 柳沢千賀子 山田叔正 油井満芳

3 調査日誌

平成31年度・令和元年度

- 4月26日 佐久市(教育施設課)より土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知。(文化財保護法94条第1項)
- 5月 7日 長野県教育委員会に副申。
- 5月 9日 長野県教育委員会から通知。

- 5月20日 試掘調査開始。
- 5月27日 試掘調査終了。
- 6月6日 教育施設課と協議。
- 7月24日 重機賃貸借業務契約（履行期間7月24日～11月29日）
- 8月1日 仮設建物賃貸借業務契約（履行期間8月1日～11月30日）
- 8月26日 重機による表土除去終了。
- 8月30日 基準点基準線設定業務契約（履行期間8月30日～9月13日）
- 9月2日 機材搬入。
- 9月3日 遺構の検出、掘り下げ開始。
- 9月12日 基準点基準線設定開始。
- 9月17日 基準点基準線設定終了。
- 10月2日 遺構測量開始。
- 11月1日 調査終了。
- 11月5日 整理作業着手。
- 3月19日 今年度の調査終了。

令和2年度

- 4月1日 整理作業再開。
- 6月26日 重機賃貸借業務契約（履行期間6月26日～8月31日）
- 6月30日 重機による表土除去終了。
- 7月1日 仮設建物賃貸借業務契約（履行期間7月1日～8月31日）
- 7月2日 機材搬入。
- 7月16日 遺構の検出、掘り下げ、記録開始。
- 8月7日 調査終了。
- 8月11日 整理作業再開。
- 8月12日 佐久警察署に埋蔵文化財の発見の届出。
- 8月14日 長野県教育委員会に発掘調査終了の報告。
- 8月24日 長野県教育委員会から文化財認定及び県帰属についての通知。
- 3月31日 今年度の調査終了。

令和3年度

- 4月1日～3月31日 整理作業継続。

令和4年度

- 4月1日～3月17日 報告書を刊行し、全ての調査を終了する。

4 遺跡の歴史的環境

遺跡が所在する旧白田町小田切地域は、平安時代末期に「海野幸氏」の子「堯元」が小田切に住み、小田切氏を名乗ったことが始まりとされる。しかし、小田切氏に関しては異なる系譜とする資料もあり、諸説が混在している。小田切という地名は小さな田切地形を表現しているようである。辞書には田切とは「濘る」に由来し、水が激しく流れる様子のことをいい、地形としては、緩斜面や台地が、河川により深く侵食され、河床の低地や急崖によって分断されたものを言うことである。小田切地域はまさしく中沢川と片貝川に東西が侵食された、蓼科山尾根端部の台地上にある。また、小田切は「一遍聖絵」に描かれた信濃国小田切の里～作野の場面、及び詞書の「小田切の里、或る武士の屋形にて聖おどりはじめ給いけるに、道俗おおくあつまりて結縁のあまねかりければ、次第に相續して、一期の行儀となれり」とあることから、小田切の里で初めて「踊り念仏」が行われたとの説でも有名である。尚、小山崎と言う字名は現在も調査区北方向に残る丘状の地形に由来する。この丘は「小山」と呼称されており、小山から地形的に下がる北方向部分に位置する一帯が、小山の「先」、小山崎となったようである。

考古学的な調査は旧白田町時代の平成年元に片貝川右岸の丸山遺跡の調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居



Fig.2 周辺の遺跡分布

址や土坑が検出されている。丸山遺跡では平成 25 年にも、平成元年の調査区の近隣で 2 次調査が実施され、弥生時代後期の遺物などが検出された。平成 18 年には小山崎遺跡の北隣で反田遺跡の調査が実施され、甲斐系の置きカマドや緑軸陶器、白磁碗、富寿神寶などの古代の希少遺物や、弥生中期中葉の土器、縄文時代中期後半の竪穴住居址とこれに伴う土器が検出された。平成 19 年には小山崎遺跡の南に展開する家浦遺跡から奈良・平安時代の土坑や溝などが検出された。同じ家浦遺跡では、平成 28 年に 2 次調査が実施され、古代の土器と共に建築材が発見された。また、方形周溝墓と思われる溝から弥生時代後期の銅鏡が検出された。中沢川左岸の尾根上標高 740 m の高地に所在する和田遺跡は平成 21 年に調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居址が検出されている。中部横断道建設に伴う、県埋蔵文化財センターの調査では上流・中流・下流遺跡から縄文・古墳・古代の竪穴住居址 21 軒が検出され、和田遺跡からは弥生時代から古墳時代前期の竪穴建物址 4 軒が検出された。流遺跡からは古墳前期、奈良時代の竪穴建物が発見されている。和田 1 号塚、田島塚、水堀塚は古墳と思われたが調査の結果、中・近世以降の塚であることが判明した。

以上のように、小田切地域及びその周辺には豊富な埋蔵文化財が存在することが明らかとなってきた。

II 調査の方法

1 調査の方法

遺跡名・調査区

佐久市詳細分布図の遺跡に照らし合わせ、「小山崎遺跡1」とした。ローマ数字は調査回数である。

調査区を網羅するように、国家座標に沿って40×40mの区画を設定し、南よりローマ数字を付した。この40mの区画を北東隅を起点に8mの各グリットに5分割しグリット名とした。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付けられている。

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| ○アルファベット3文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。 | S = 下小田切 |
| ○アルファベット3文字の2番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。 | K = こやま |
| ○アルファベット3文字の3番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。 | Z = ざき |
| ○末尾のローマ数字は発掘調査回数を表す。 | I = 1 |

遺構略記号は以下のとおりであり、佐久市共通である。

- H = 竪穴建物
- F = 掘立柱建物
- D = 土坑（墓塚、陥穴、貯蔵穴等）
- P = ビット（柱状のものを建てたと思われる、多くは小径の掘り込み）
- M = 溝（環濠、水路、道路、堀等）

遺構調査

住居址は均等に4分割し、対面する2区画を掘り下げ土層の観察・記録を行った後完掘し、床面を精査し、柱穴・炉・カマド等を適宜分割し、土層の観察・記録を行い、最終的に平面の記録を行った。遺物は4分割した各区画に取り上げ、床面上の遺物に関しては連続するNoを付け3次元の記録を行い取り上げた。

土坑は長軸方向に沿って2分割し、土層の観察・記録を行った後完掘した。遺物は分割した区画に東西南北の英語頭文字を付し取り上げた。

ビットも土坑と同様であるが、遺物は遺構Noで一括した。

溝は短辺方向に任意の場所にて区分し、土層を観察・記録した。遺物は区分毎に取り上げた。

遺構外の遺物はグリット毎に取り上げた。

遺構測量

平面図・断面図ともにトータルステーションを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構くん」により図化した。測量基準座標はグリット杭を用いた。

写真

現場での写真は、デジタル一眼レフカメラによるRAW画質モードと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルで同一カットを各々記録した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、データの状態で報告書に使用した。

遺構・遺物の整理等

遺構の図面修正は株式会社CUBICの「遺構くん」により行った。

遺物洗浄は竹ブラシを用い、手で行い、室内で自然乾燥させた。

注記は白色のポストスターカラーにより行い、薄めたラッカーをその上から塗布した。

遺物の接合はセメダインCを使用し、遺物復元の際の充当材はエポキシ樹脂XNR6504・XNH6504を用いた。

金属器については、バキュームシーラによるバックで現状保存した。

遺物実測は手取りと、デジタル一眼レフカメラで撮影した画像をAdobe社製「Photoshop」で補正した写真実測を併用して行った。

遺物の保管に際しては報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを

貼り取蔵庫に収納した。

報告書

文章は Adobe 社製「InDesign」に直接入力した。表については MS 社製「エクセル」で作成した。また、遺物実測図は Adobe 社製「Illustrator」によりデジタルトレースを行い、写真・拓本は Adobe 社製「Photoshop」により補正加工を行った。これらのデータを Adobe 社製「InDesign」でレイアウトし、印刷原稿を作成し、入稿した。

2 基本層序

基本層序は第3図のとおりである。耕作土は圃場整備時にⅢ層に及ぶ掘削により新たに作り出されたものである。Ⅰ層～Ⅲ層は部分的に残存するものであり、耕作土直下にⅣ層が見れる部分も多い。遺構はⅢ層（シルト質）が安定して堆積した部分から集中して検出されている。Ⅱ層は遺物包含層であり、遺構上部を覆っている。

耕作土。（水田床土含む）

- Ⅰ－灰褐色土層（10YR6/2）部分的に残存。
- Ⅱ－黒褐色土層（10YR3/2）遺物包含層。
- Ⅲ－ぶい黄橙色土層（10YR7/3）シルト質土。
- Ⅳ－礫層。

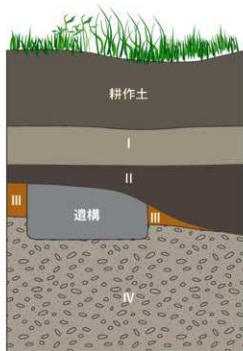


Fig.3 基本層序

3 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴建物－4軒、掘立柱建物－5棟、土坑－53基
溝－2条、ピット－365基

遺物 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器・石製品
金属器・金属製品（鉄・銅）

Ⅲ 遺構と遺物

1 竪穴建物

H1号竪穴建物 (Fig.4)

ⅣE1グリッドで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-139°-Eに主軸方位をとる。長軸長4.53m、短軸長4.18m、壁残高0.09m、面積16.53㎡の規模である。カマドは東南隅に構築されるが、掘り方状態に破壊されていた。ピットは13基検出されたが、主柱穴は判然としない。東壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、縄文土器、弥生土器、石器が出土している。縄文土器、弥生土器、砥石を除く石器は混入品である。土師器には、坏、碗、小皿、羽釜、鍋の器種が認められる。黒色処理は10の壺以外には施されず、ロクロからの切り離しはほとんどのものが回転糸切であるが、1は静止ヘラ切りの可能性が高い。鍋としたものは羽釜でもよいのかもしれないが、胎土や整形・調整が内耳鍋的であるため鍋とした。灰釉陶器、須恵器は破片資料であり、本址に帰属するか否かは判断できない。石器は砥石が本址に帰属するもの

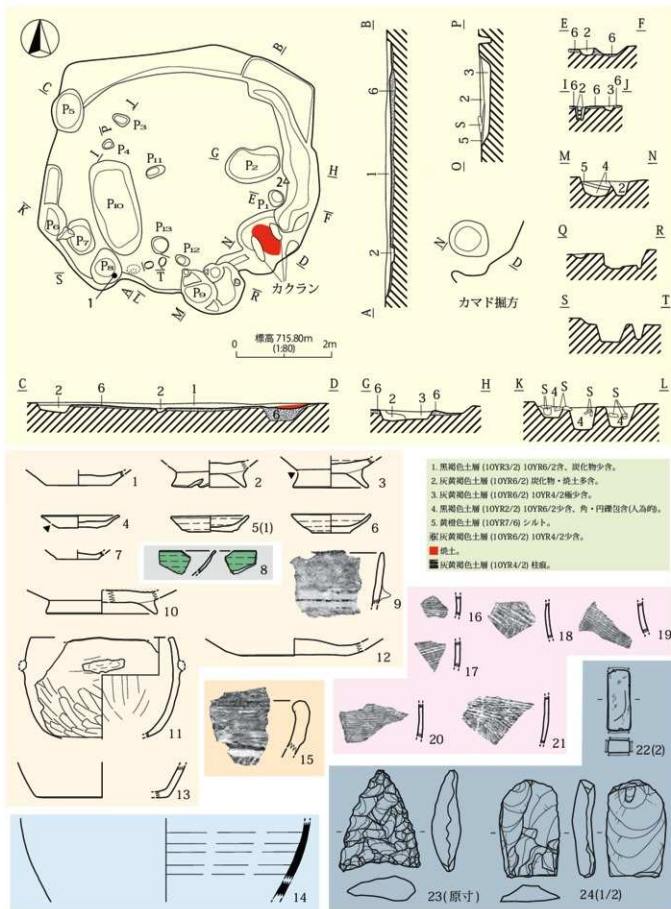


Fig.4 H1号雙穴建物

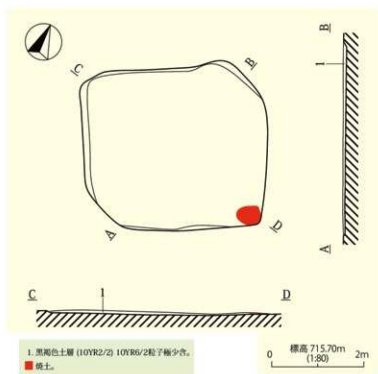


Fig.5 H 2号竪穴建物

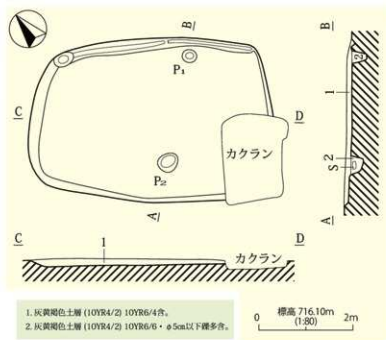


Fig.6 H 3号竪穴建物

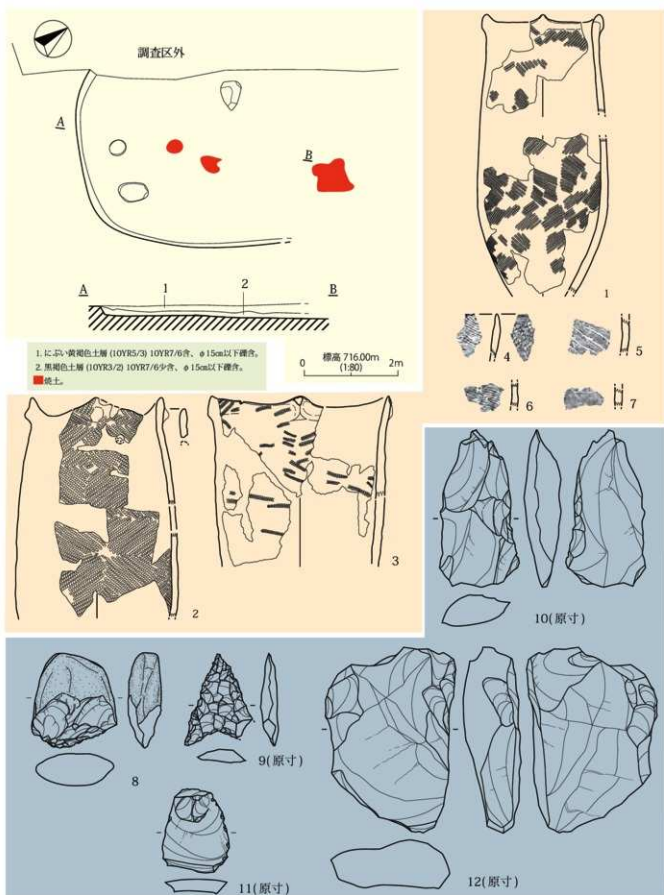


Fig.7 H4号整穴建物(1)

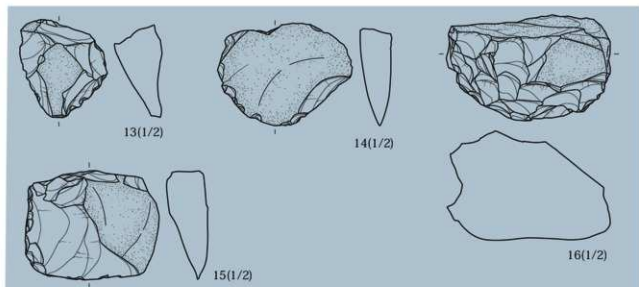


Fig. 8 H4号竪穴建物(2)

と思われる。

以上の出土遺物は古代(平安時代)から中世への転換期の様相を呈しているものと思われる。年代的には11世紀後葉～12世紀前葉という大まかな時期区分で捉えておきたい。

H2号竪穴建物 (Fig.5)

ⅡC4グリッドで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-110°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.87m、短軸長3.44m、壁残高0.07m、面積12.53㎡の規模である。カマドは東南隅に構築されるが、火床が残存していただけであった。柱穴、周溝は有さない。

遺物は土師器と灰釉陶器が出土した。土師器は2点共に坏片、灰釉陶器は碗片が1点出土している。

以上の出土遺物から本址の所産期を求めることは困難であるが、H1号竪穴建物と同時期の所産の可能性が高いものと思われる。

H3号竪穴建物 (Fig.6)

ⅡC2グリッドで検出された。カクランによる破壊を受けている。N-41°-Eに主軸方位をとる。長軸長4.85m、短軸長3.16m、壁残高0.17m、面積14.08㎡の規模である。遺構の状態が極めて悪く、床面等は判然としなかったが、床と思われる深さと遺物の出土レベルに大きな差異は認められなかった。炬は存在を確認できなかった。ピットは2基検出されたが、主柱か否かは判然としない。北壁下には周溝が確認された。

遺物は胎土に繊維を含む縄文土器深鉢1点と、磨石1点が出土した。縄文土器深鉢は、底部を欠損するが尖底と思われる。口縁部の残存率が低いため、確認はないが、波状口縁の可能性がある。口縁部に隆帯や所謂肥厚は認められない。全面にL[R2]の縄文が整わない菱形構成に施文されている。

以上の縄文土器の特徴から、本址は縄文時代前期初頭「塚田式」期の所産と考えられる。

H4号竪穴建物 (Fig.7・8)

ⅡC1グリッドで検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.19mの規模である。床面は所謂貼床状に堅固である。床面上に3カ所焼土が認められた。北側の大きな広がりか炬址と思われる。ピットは確認できなかったが、床面上には川原石が3個置かれていた。北側は圃場整備時に削平され残存していなかった。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は全て胎土に繊維を含み、器種的には深鉢である。文様は縄文、単軸絡条体、条痕であり、口縁部が残存する1～3は波状口縁で口縁部が肥厚し、波頂部は瘤状に盛り上がる。4は外面条痕、内面には縄文が施されている。底部は残存しないが、尖底を呈するものと思われ、体部下半が膨らむ砲弾形状である。縄文、単軸絡条体共に、整わない菱形構成に施文されている。2は口縁下に焼成後の穿孔

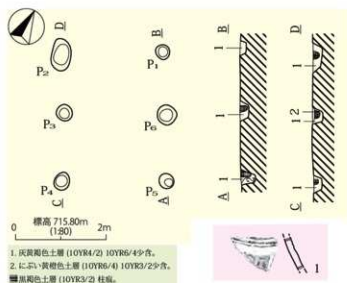


Fig.9 F 1号掘立柱建物

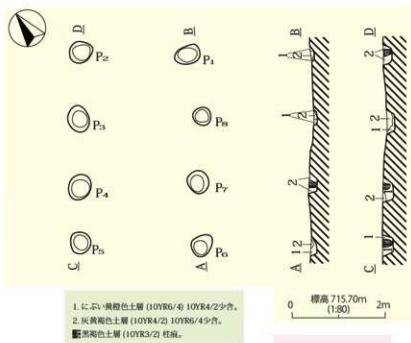


Fig.11 F 3号掘立柱建物

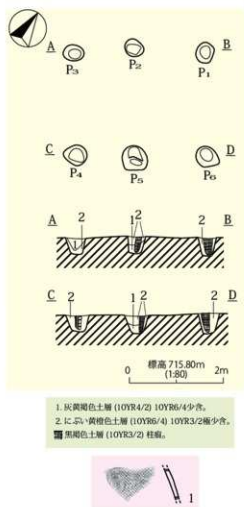


Fig.10 F 2号掘立柱建物

が認められる。石器は打製石斧、石鏃、石鏃未製品、使用痕のある剥片、石核の器種が認められる。打製石斧は定型化した打製石斧とは異なり、礫の一端に刃部を作出している。刃部の摩滅状態が打製石斧と同様であることから打製石斧とした。12の剥片は石核かもしれない。使用痕のある剥片とした14、15は横刃型石器としてよいのかもしれない。

以上の縄文土器の特徴から、本址は縄文時代前期初頭「塚田式」期の所産と考えられる。

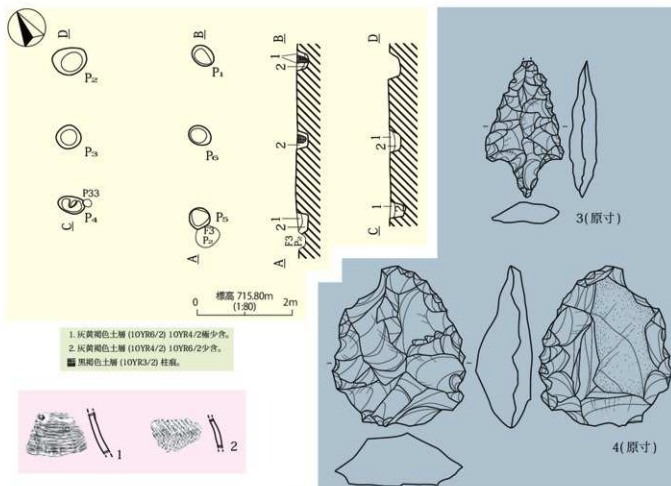


Fig.12 F 4号掘立柱建物

2 掘立柱建物

F 1号掘立柱建物 (Fig.9)

I D 5グリットで検出された。D14・15、P62を切る。1間×2間の側柱の形態で、N-25°-Wに長軸方位をとり、桁行長3.01m、梁間長2.29m、面積6.85㎡、桁行柱間寸法1.46～1.51m、柱根径φ16cmの規模である。

遺物は、P2から沈線文が施される弥生土器の壺片が1点出土しただけであり本址の時期は不明である。

F 2号掘立柱建物 (Fig.10)

I E 5グリットで検出された。D2を切る。1間×2間の側柱の形態で、N-56°-Eに長軸方位をとり、桁行長2.80m、梁間長2.22m、面積6.21㎡、桁行柱間寸法1.27～1.51m、柱根径φ16cmの規模である。

遺物はP5から条痕文が施される弥生土器の壺片が1点出土した。雲母を多量に含む特徴的な胎土である。

以上の1点の遺物から本址の年代を確定することは困難であり、時期は不明である。

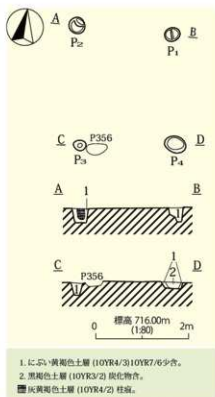
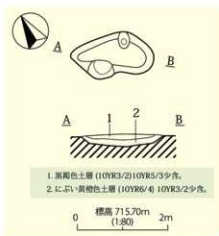
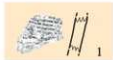
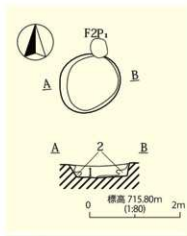


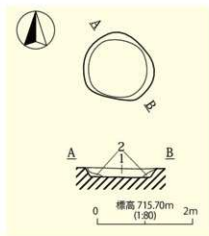
Fig.13 F 5号掘立柱建物



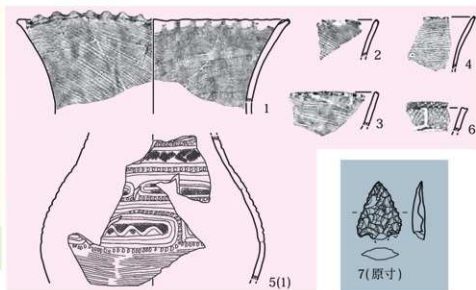
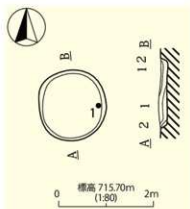
D 1



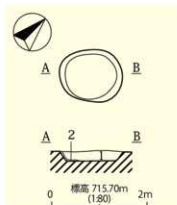
D 2



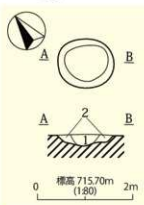
D 3



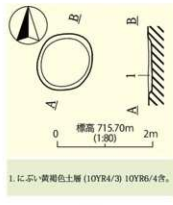
D 4



D 5

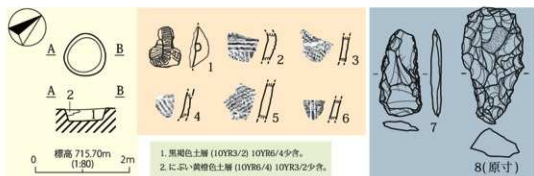


D 6

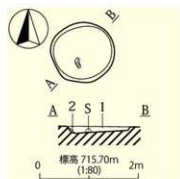
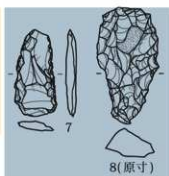


D 9

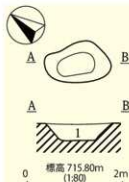
Fig.14 土坑 (1)



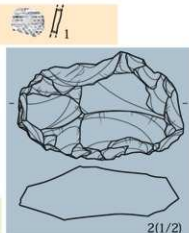
D 7



D 8



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/4多含。



D 10



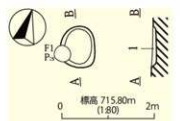
D 12



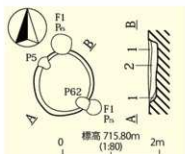
D 13

1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 炭土多含、炭土粒子少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) 10YR4/2少含。

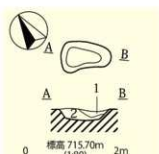
D 11



D 14



D 15



D 16

Fig.15 土坑(2)

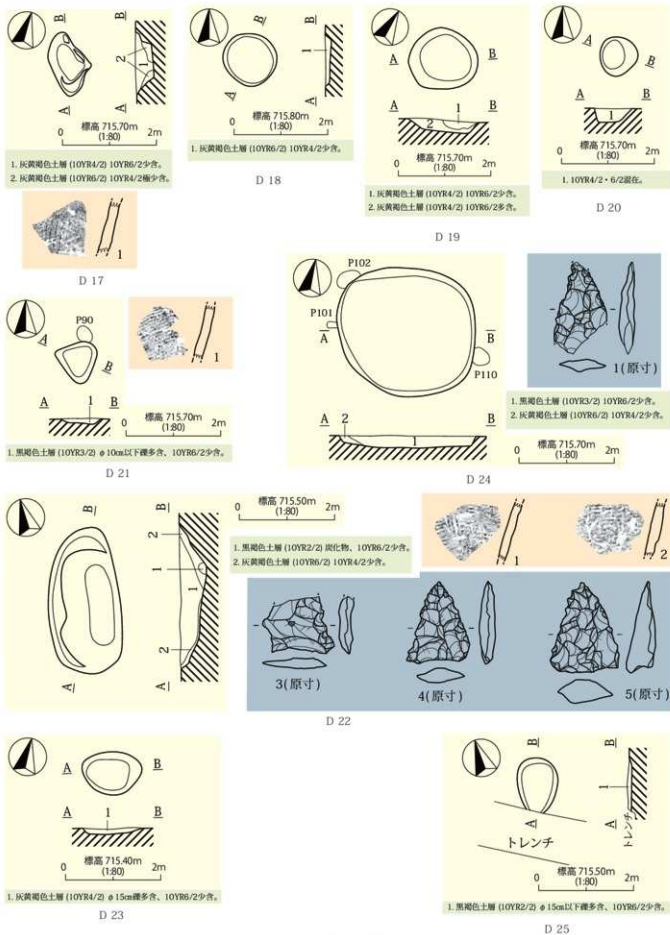
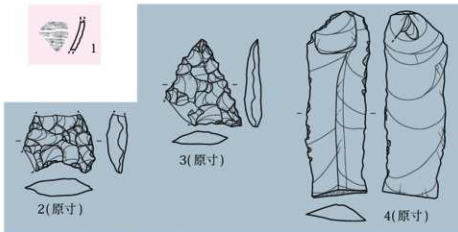
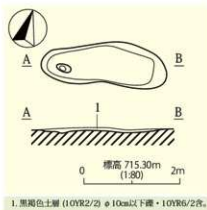
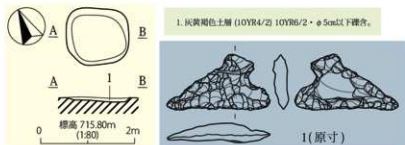


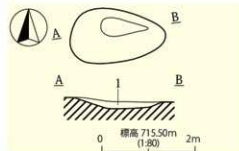
Fig.16 土坑 (3)



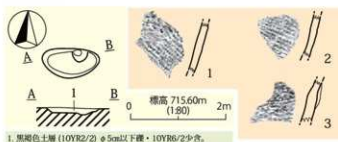
D 26



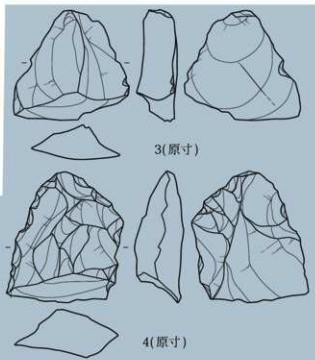
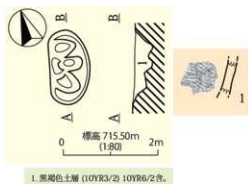
D 27



D 29

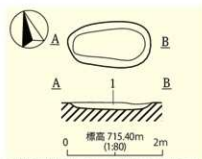


D 28



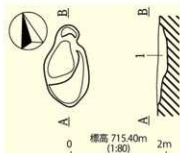
D 30

Fig.17 土坑 (4)



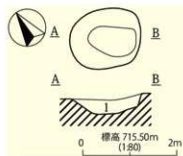
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ϕ 20cm以下層・10YR6/2多含。

D 31



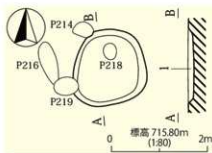
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) ϕ 20cm以下層・10YR6/2多含。

D 33

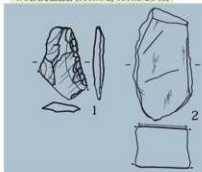


1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ϕ 20cm大層・10YR6/2多含。

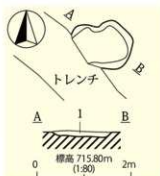
D 35



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/2多含。

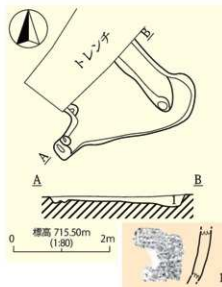


D 32



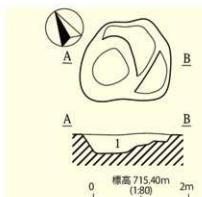
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR6/2多含。

D 34



1. 正赤・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR6/2含、炭化物概少含。

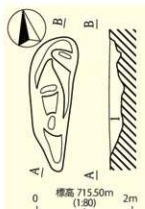
D 36



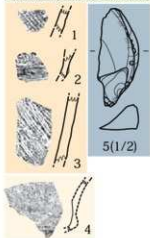
1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) ϕ 20cm以下層・10YR6/2多含。



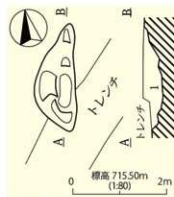
D 37



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR6/2少含。



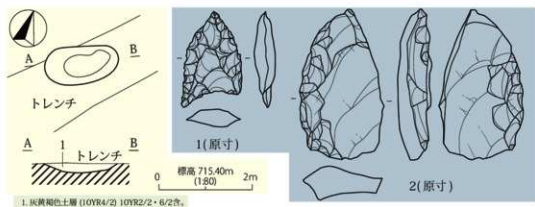
D 38



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR6/2少含。

D 39

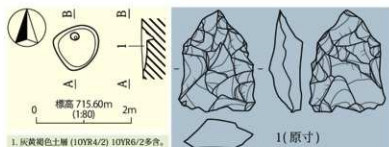
Fig.18 土坑(5)



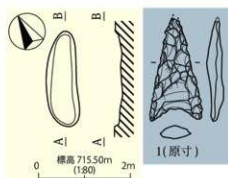
D 40



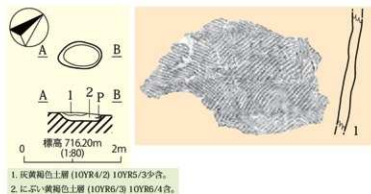
D 41



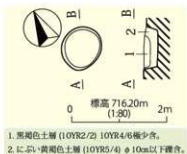
D 42



D 43



D 45



D 44



D 47



D 48

Fig.19 土坑(6)

F 3号掘立柱建物 (Fig.11)

II A 5グリットで検出された。F4、P237を切る。1間×3間の側柱の形態で、N-38°-Eに長軸方位をとり、桁行長4.18m、梁間長2.48m、面積10.35㎡、桁行柱間寸法1.22～1.47m、柱根径φ16cmの規模である。遺物はP6から沈線文(地紋R(L2)縄文、赤彩の弥生土器の壺片が1点出土した。以上の1点の遺物から本址の年代を確定することは困難であり、時期は不明である。

F 4号掘立柱建物 (Fig.12)

II A 4グリットで検出された。F3、P33を切る。1間×2間の側柱の形態で、N-32°-Eに長軸方位をとり、桁行長3.22m、梁間長2.47m、面積8.81㎡、桁行柱間寸法1.54～1.60m、柱根径φ16cmの規模である。遺物は土器と石器が出土した。土器はP4・6から条痕文が施される弥生土器の壺片が各1点出土した。P6出土のものには円形貼付文が認められる。石器はすべてP6から出土している。2点共に黒曜石製で、1点が石鏃、もう1点は石鏃未製品である。以上の出土遺物から本址の年代を確定することは困難であり、時期は不明である。

F 5号掘立柱建物 (Fig.13)

IV C 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。1間×1間の形態で、N-8°-Wに長軸方位をとり、桁行長2.47m、梁間長2.05m、面積5.05㎡、柱根径φ16cmの規模である。出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

3 土坑

D 1号土坑 (Fig.14)

IV D 1グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-57°-Wにとり、長軸長1.85m、単軸長0.95m、壁残高0.27m、面積0.62㎡の規模である。遺物は胎土に繊維を含む縄文土器の深鉢片が2点出土した。1は波状口縁でR(L2)縄文が施文される。2はL(R2)縄文が施文される。以上の出土遺物から本址は縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

D 2号土坑 (Fig.14)

I E 5グリットで検出された。F2に切られる。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-90°-Eにとり、長軸長1.34m、単軸長1.30m、壁残高0.25m、面積1.06㎡の規模である。遺物は胎土に繊維を含む縄文土器の深鉢片が1点出土した。R(l2)+L(r2) 繫糸の2本揃巻の単軸絡条体が施文される。以上の出土遺物から本址は縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

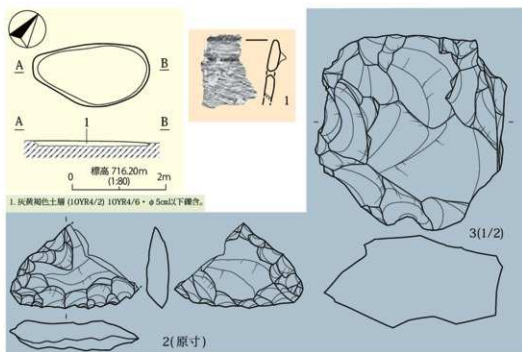
D 3号土坑 (Fig.14)

IV E 1グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-90°-Eにとり、長軸長1.50m、単軸長1.43m、壁残高0.20m、面積1.21㎡の規模である。遺物は表裏に平行沈線文が施され、外面平行沈線間にR(L2)縄文が施文される縄文時代後期加曾利B式の鉢片が1点出土した。以上の出土遺物から本址の所産期を確定することは困難であり、本址の時期は不明である。

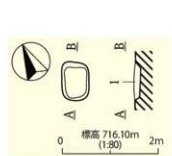
D 4号土坑 (Fig.14)

I E 5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-0°-Eにとり、長軸長1.51m、単軸長1.44m、壁残高0.19m、面積1.41㎡の規模である。遺物は弥生土器と石器が出土している。弥生土器には甕と壺の器種が存在する。甕は全てのものが外面に条痕

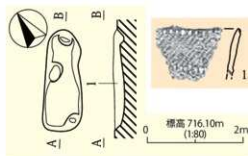
が施される。1は口唇部に内側から押捺を加え、小波状口縁を作出する。2は口唇部外側から押捺を加え、小波状口縁を作出する。3は口唇部に竹管と思われる工具による刺突列が加えられる。4は口唇部に内外交互に押捺を加え、小波状口縁を作出する。また、4は胎土に雲母を多含する。壺5と同一個体と思われる破片が少なからず出土しているが、接合しない。体部下半には条痕が施され、体部上半には沈線文による工字文状の区画内に横



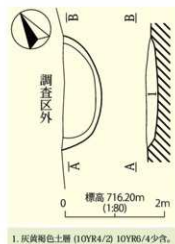
D 46



D 49



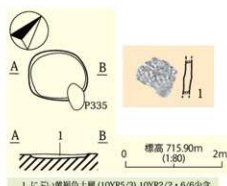
D 50



D 51



D 52



D 53

Fig.20 土坑(7)

位波状文が施文される。地紋はR(L2)縄文で、沈線間に半載竹管による刺突列が加飾される。6は口縁部の破片である。5と同一個体の可能性もある。口唇部を含む外面にはR(L2)縄文が施され、沈線文が描かれる。石器は黒曜石製の打製石鏃が1点出土している。

以上の出土遺物から本址は弥生時代中期前半の所産と考えられる。

D 5号土坑 (Fig.14)

II A 5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-47°-Eにとり、長軸長1.40m、単軸長1.04m、壁残高0.21m、面積0.84㎡の規模である。

遺物は弥生土器が出土している。弥生土器には甕と壺の器種が存在する。甕は全てのもが外面に条痕が施される。壺は4が1点のみ出土した。横位沈線により区画された下半には条痕、上半にはR(L2)縄文が施文される。

以上の出土遺物から本址は弥生時代中期前半の所産と考えられる。

D 6号土坑 (Fig.14)

II A 5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-50°-Wにとり、長軸長1.20m、単軸長1.05m、壁残高0.24m、面積0.56㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 7号土坑 (Fig.15)

II A 5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-0°-Eにとり、長軸長0.89m、単軸長0.88m、壁残高0.25m、面積0.42㎡の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は全て深鉢である。1は口縁部に付加された隆帯が剝離したもので、隆帯上にはR(L2)燃色の単軸絡糸体が施文され、口縁部文様帯には半載竹管による沈線が施文される。2・4・6は半載竹管による沈線文が施文される。2・6はR(L2)縄文が地紋として施される。3・5はR(L2)縄文が施される。石器は打製石斧と黒曜石製の石鏃未製品が出土している。

以上の出土遺物から本址は縄文時代中期初頭の所産と考えられる。

D 8号土坑 (Fig.15)

V A 1グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-90°-Eにとり、長軸長1.32m、単軸長1.22m、壁残高0.14m、面積1.02㎡の規模である。

遺物は縄文土器と弥生土器が出土している。縄文土器は深鉢で、R(L2)縄文が施され、胎土には繊維を含む。弥生土器は壺片で、沈線と刺突列が施される。

以上の出土遺物から本址の所産期を確定することは困難であり、本址の時期は不明である。

D 9号土坑 (Fig.14)

II A 5グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-0°-Eにとり、長軸長1.18m、単軸長1.14m、壁残高0.08m、面積0.82㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 10号土坑 (Fig.15)

II A 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-34°-Wにとり、長軸長1.41m、単軸長0.87m、壁残高0.34m、面積0.30㎡の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は深鉢で、地紋にL(R2)縄文が施され、半載竹管による沈線文が施文される。石器は安山岩の石核が1点出土した。

以上の出土遺物から本址は、縄文時代中期初頭の所産である可能性が高いが、不明であると言わざるを得ない。

D 11号土坑 (Fig.15)

II A 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-74°-Wにとり、長軸長1.71m、単軸長1.30m、壁残高0.33m、面積1.05㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 12 号土坑 (Fig.15)

II A 4 グリットで検出された。P25 に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-58°-W にとり、長軸長 0.97 m、単軸長 0.83 m、壁残高 0.42 m、面積 0.20m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 13 号土坑 (Fig.15)

IV D 1 グリットで検出された。P61 に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-45°-E にとり、長軸長 0.96 m、単軸長 0.74 m、壁残高 0.10 m、面積 0.48m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 14 号土坑 (Fig.15)

I D 5 グリットで検出された。F1 に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-15°-W にとり、長軸長 0.90 m、単軸長 0.75 m、壁残高 0.10 m、面積 0.36m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 15 号土坑 (Fig.15)

I D 5 グリットで検出された。F1、P5・P61 に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-0°-E にとり、長軸長 1.38 m、単軸長 1.25 m、壁残高 0.18 m、面積 1.00m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 16 号土坑 (Fig.15)

I E 5 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-57°-W にとり、長軸長 1.06 m、単軸長 0.66 m、壁残高 0.23 m、面積 0.23m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 17 号土坑 (Fig.16)

V A 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-19°-W にとり、長軸長 1.34 m、単軸長 0.88 m、壁残高 0.34 m、面積 0.57m² の規模である。遺物は縄文土器の深鉢片が 1 点出土した。R(r2) と L(r2) の燃糸を 2 本合わせて巻いた単軸絡条体が施文され、胎土に繊維を含む。以上出土遺物 1 点から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 18 号土坑 (Fig.16)

IV A 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-90°-E にとり、長軸長 1.17 m、単軸長 1.14 m、壁残高 0.14 m、面積 0.75m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 19 号土坑 (Fig.16)

II A 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-62°-E にとり、長軸長 1.52 m、単軸長 1.33 m、壁残高 0.25 m、面積 0.86m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 20 号土坑 (Fig.16)

II A 4 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N-0°-E にとり、長軸長 0.85 m、単軸長 0.83 m、壁残高 0.29 m、面積 0.24m² の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 21 号土坑 (Fig.16)

V B 1 グリットで検出された。P90 に切られる。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 90° - E にとり、長軸長 0.90 m、単軸長 0.89 m、壁残高 0.13 m、面積 0.28m²の規模である。

遺物は縄文土器の深鉢片が 1 点出土した。胎土に繊維を含み、L(R2) 縄文が施文される。

土器は前期初頭の所産と思われるが、1 点のみの出土遺物で、本址の所産期を確定するのは困難であり、時期不明と言わざるを得ない。

D 22 号土坑 (Fig.16)

V C 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位を N - 18° - E にとり、長軸長 3.09 m、単軸長 1.54 m、壁残高 0.56 m、面積 3.10m²の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土した。縄文土器は深鉢片で胎土に繊維を含む。2 点共に L(R2) 縄文が施文される。石器は黒曜石製の石鏃未製品が 3 点出土した。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代前期初頭の所産と思われる。

D 23 号土坑 (Fig.16)

V C 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 78° - E にとり、長軸長 1.26 m、単軸長 0.91 m、壁残高 0.11 m、面積 0.47m²の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 24 号土坑 (Fig.16)

V A 1 グリットで検出された。P101・P102・P110 に切られる。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 82° - E にとり、長軸長 2.91 m、単軸長 2.71 m、壁残高 0.26 m、面積 5.50m²の規模である。

遺物は黒曜石製の石鏃が 1 点出土したが、1 点のみの出土遺物で本址の所産期を確定するのは困難であり、時期不明と言わざるを得ない。

D 25 号土坑 (Fig.16)

V C 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 20° - E にとり、長軸長 1.24 m、単軸長 0.87 m、壁残高 0.10 m、面積 0.56m²の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 26 号土坑 (Fig.17)

V C 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位を N - 76° - E にとり、長軸長 2.61 m、単軸長 0.91 m、壁残高 0.11 m、面積 1.33m²の規模である。

遺物は弥生土器と石器が出土した。弥生土器は沈線文が施される壺片が 1 点出土した。石器は黒曜石製の石鏃 2 点と貝殻製の石刃が 1 点出土した。石刃は旧石器の可能性もある。両側縁に使用痕が認められることからサイドスクレイパーと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址の所産期を確定することは困難であり、時期不明と言わざるを得ない。

D 27 号土坑 (Fig.17)

V A 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 63° - W にとり、長軸長 1.33 m、単軸長 1.24 m、壁残高 0.07 m、面積 0.96m²の規模である。

遺物はチャート製の石匙が 1 点出土した。1 点のみの出土遺物ではあるが、本址の所産期は縄文時代前期初頭の可能性が高いものと思われる。

D 28 号土坑 (Fig.17)

V B 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位を N - 49° - E にとり、長軸長 1.21 m、単軸長 0.70 m、壁残高 0.22 m、面積 0.31m²の規模である。

遺物は縄文土器深鉢片が 3 点出土した。3 点全てが胎土に繊維を含む。1 は R(L2) 縄文が、2 は L(R2) 縄文、

3は器面が剥落しており縄文施文であることしか判断できない。なお、3は肥厚口縁である。以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 29号土坑 (Fig.17)

V C 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-90°-Eにとり、長軸長2.02 m、単軸長1.19 m、壁残高0.15 m、面積0.23㎡の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 30号土坑 (Fig.17)

V C 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-20°-Eにとり、長軸長1.58 m、単軸長0.85 m、壁残高0.37 m、面積0.85㎡の規模である。遺物は胎土に繊維を含む縄文土器深鉢片とチャート製の石礫未製品が3点出土した。縄文土器はL(R2) 縄文が施される。以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 31号土坑 (Fig.18)

V C 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-72°-Wにとり、長軸長1.76 m、単軸長0.98 m、壁残高0.14 m、面積0.82㎡の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 32号土坑 (Fig.18)

V A 2グリットで検出された。P214・P216・P218・P219に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-0°-Eにとり、長軸長1.58 m、単軸長1.54 m、壁残高0.13 m、面積1.49㎡の規模である。遺物は打製石斧片と台石が各1点出土した。以上の出土遺物から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 33号土坑 (Fig.18)

V C 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-17°-Eにとり、長軸長1.74 m、単軸長0.94 m、壁残高0.21 m、面積0.84㎡の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 34号土坑 (Fig.18)

V A 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。壁残高0.10 mの規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 35号土坑 (Fig.18)

V C 3グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-54°-Wにとり、長軸長1.51 m、単軸長1.29 m、壁残高0.29 m、面積0.60㎡の規模である。出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 36号土坑 (Fig.18)

V C 1グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は不整形、断面は逆梯形の形態である。壁残高0.23 mの規模である。遺物は胎土に繊維を含み、L(R2) 縄文が施される縄文時代前期初頭の深鉢片が1点出土した。以上の出土遺物1点から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 37 号土坑 (Fig.18)

V C 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-61°-Wにとり、長軸長1.90 m、単軸長1.72 m、壁残高0.38 m、面積1.73㎡の規模である。

遺物はチャート製の石鏝が1点出土したが、出土遺物1点から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 38 号土坑 (Fig.18)

II D 4 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-13°-Eにとり、長軸長2.82 m、単軸長0.93 m、壁残高0.29 m、面積1.26㎡の規模である。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土した。縄文土器は3点全てが深鉢片で胎土に繊維を含む。1はL[R2]縄文が、2はR[L2]縄文、3はR[L2]燃系の単軸絡条体が施文される。なお、2は肥厚口縁である。土師器は器面が剥落しており調整痕等は不明であるが、古墳時代の環と思われるものが1点出土した。石器は黒曜石製の使用痕が認められる剥片が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 39 号土坑 (Fig.18)

II D 5 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-12°-Eにとり、長軸長2.32 m、単軸長0.88 m、壁残高0.42 m、面積0.88㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 40 号土坑 (Fig.19)

II D 5 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-72°-Eにとり、長軸長1.58 m、単軸長0.82 m、壁残高0.18 m、面積0.38㎡の規模である。

遺物はチャート製の石鏝と石鏝未製品が各1点出土した。

以上の出土遺物から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 41 号土坑 (Fig.19)

II C 4 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-69°-Wにとり、長軸長1.62 m、単軸長0.94 m、壁残高0.37 m、面積0.43㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 42 号土坑 (Fig.19)

II D 4 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-90°-Eにとり、長軸長0.96 m、単軸長0.93 m、壁残高0.26 m、面積0.49㎡の規模である。

遺物はチャート製の石鏝未製品が1点出土したが、出土遺物1点から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 43 号土坑 (Fig.19)

II D 4 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-31°-Eにとり、長軸長2.08 m、単軸長0.66 m、壁残高0.17 m、面積0.79㎡の規模である。

遺物はチャート製の石鏝が1点出土したが、出土遺物1点から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 44 号土坑 (Fig.19)

IV B 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-30°-Eにとり、長軸長0.92 m、単軸長0.85 m、壁残高0.29 m、面積0.48㎡の規模である。

遺物は胎土に繊維を含む、縄文土器深鉢片が1点出土した。R[L2]縄文による菱形構成施文である。

以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 45 号土坑 (Fig.19)

IV B 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-42°-Eにとり、長軸長0.90 m、単軸長0.55 m、壁残高0.16 m、面積0.27㎡の規模である。

遺物は胎土に繊維を含み、R(L)2、L(R)2 縄文が菱形構成に施される縄文時代前期初頭の深鉢片が1点出土した。以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 46 号土坑 (Fig.20)

IV B 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-56°-Eにとり、長軸長2.50 m、単軸長1.23 m、壁残高0.12 m、面積3.77㎡の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は胎土に繊維を含み、R(L)2、L(R)2 摺糸の2本合せ単軸絡糸体が施文される深鉢片が1点出土した。石器は石匙片と石核が各1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

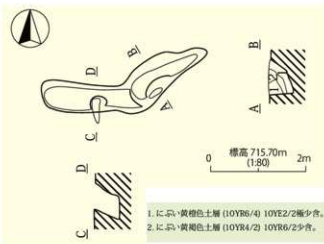


Fig.21 M1号溝址

D 47 号土坑 (Fig.19)

IV C 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は長方形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-29°-Eにとり、長軸長1.08 m、単軸長0.74 m、壁残高0.65 m、面積0.50㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 48 号土坑 (Fig.19)

IV C 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は長方形、断面は鍋底の形態である。長軸方位をN-69°-Eにとり、長軸長1.33 m、単軸長0.87 m、壁残高0.46 m、面積0.34㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 49 号土坑 (Fig.20)

IV C 3 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は長方形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-27°-Wにとり、長軸長0.80 m、単軸長0.55 m、壁残高0.13 m、面積0.28㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

D 50 号土坑 (Fig.20)

IV C 2 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-37°-Eにとり、長軸長2.14 m、単軸長0.81 m、壁残高0.21 m、面積0.67㎡の規模である。

遺物は胎土に繊維を含み、R(L)2、L(R)2 縄文が羽状に施文され、その羽状変換部分と口唇部に棒状工具による刺突列が施文される縄文土器深鉢片が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

D 51 号土坑 (Fig.20)

IV B 2 グリットで検出された。西方向に調査区外に延びるため全様は不明である。断面は逆梯形の形態である。壁残高0.24 mの規模である。

出土遺物は皆無であり本址の所産期は不明である。

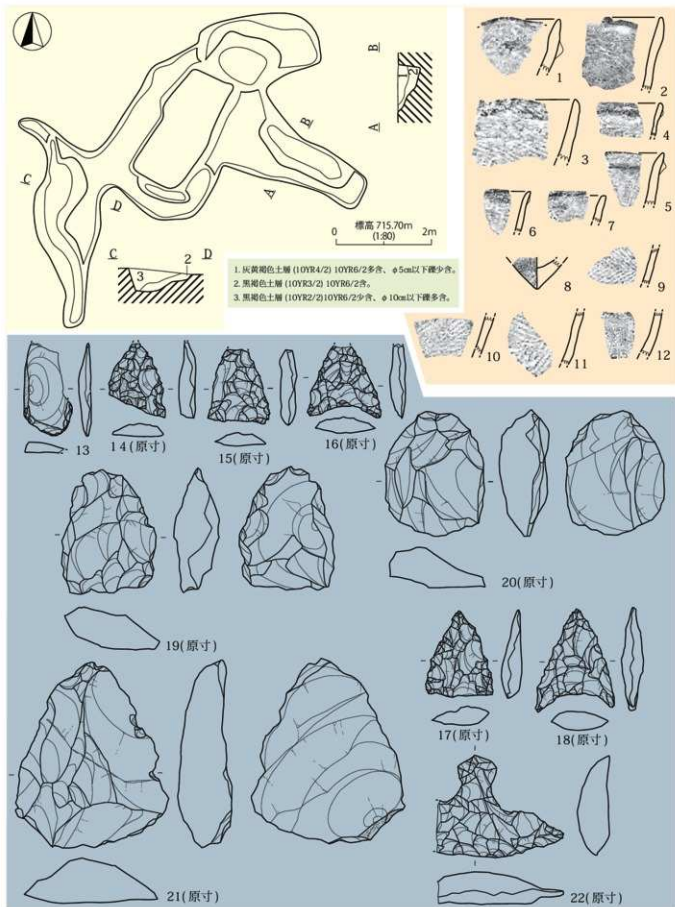


Fig.22 M2号溝址

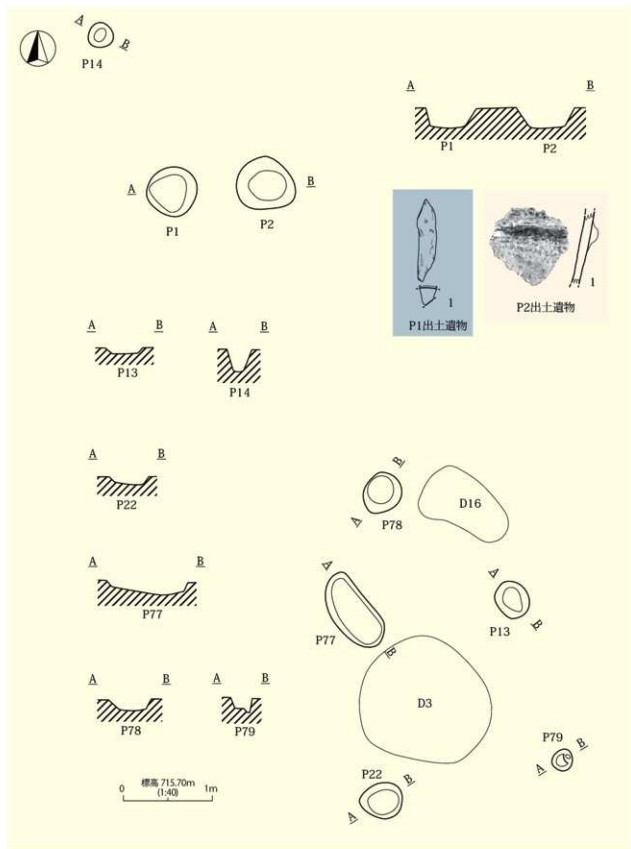


Fig.23 P1-2・P13-14・P22-77～79号ピット

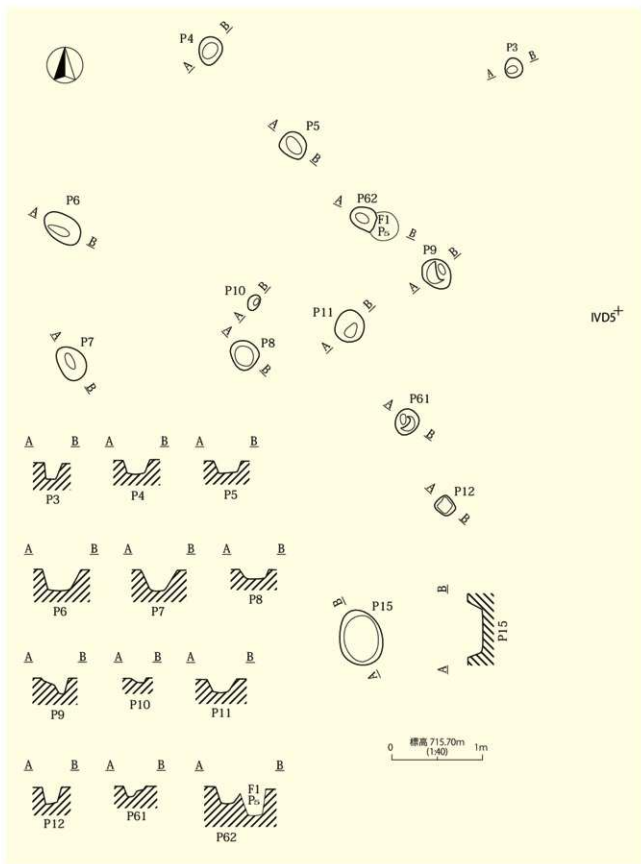


Fig.24 P3～12・15・61・62号ピット

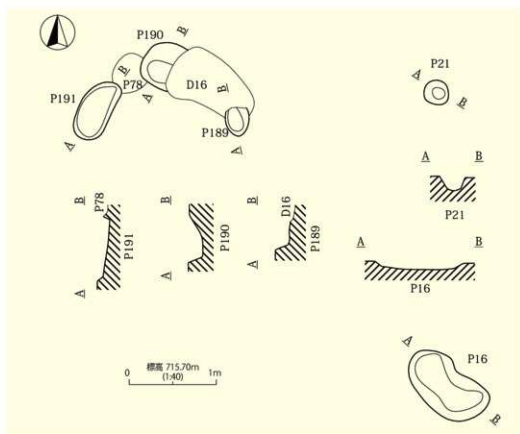


Fig.25 P16-21・189～191号ピット

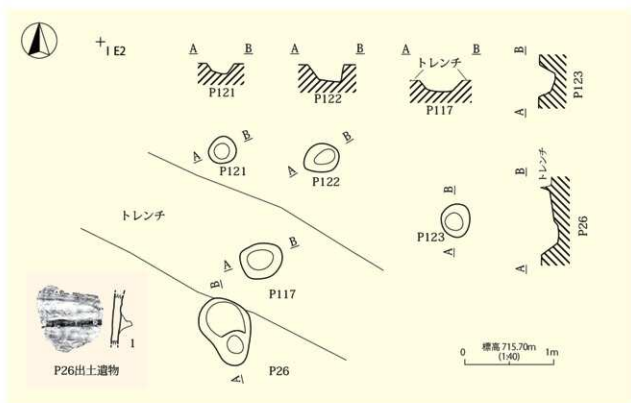


Fig.26 P26・117・121～123号ピット

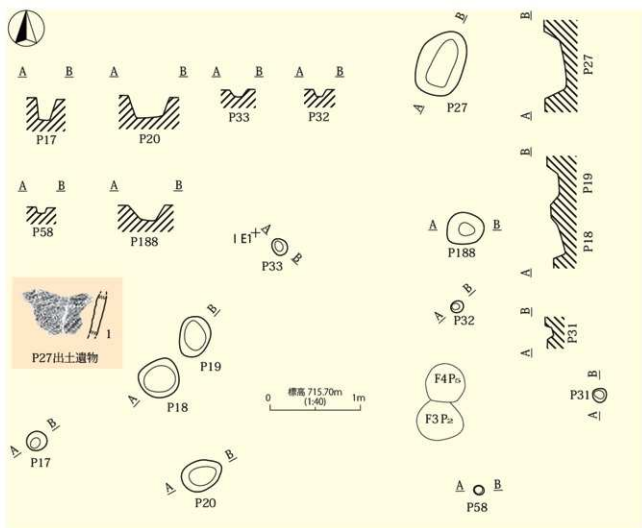


Fig.27 P17～20・31～33・58・188号ビット

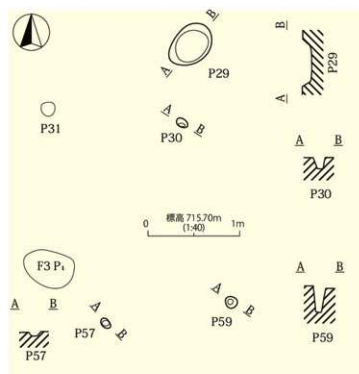


Fig.28 P29・30・57・59号ビット

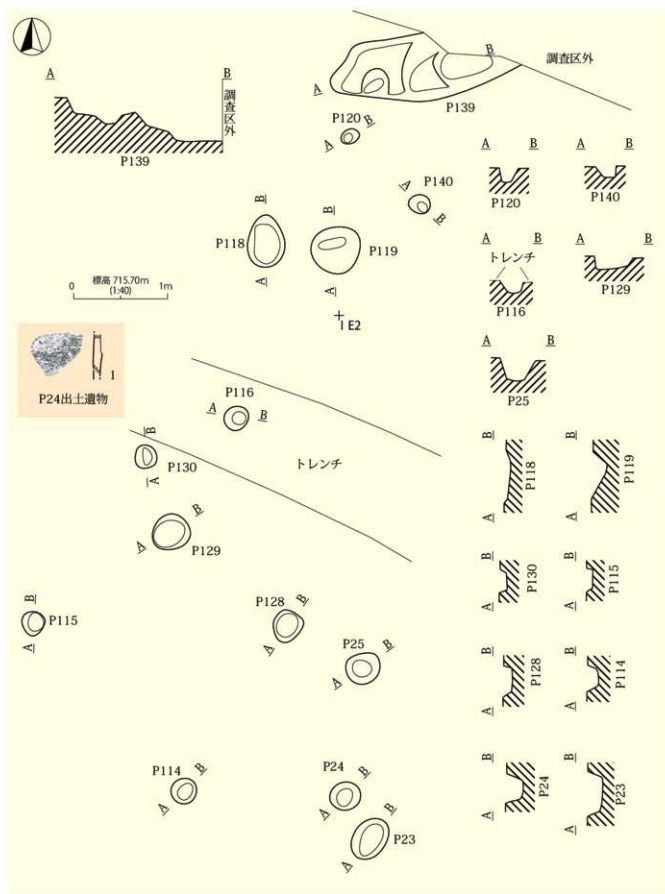


Fig.29 P23～25・114～116・118～120・128～130・139・140号ピット

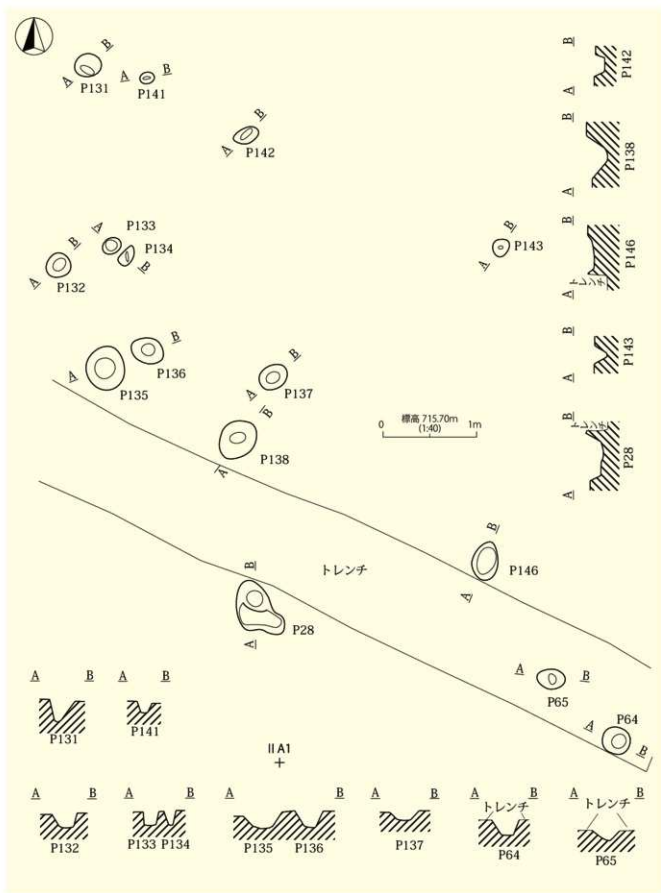


Fig.30 P28・64・65・131～138・141～143・146号ピット

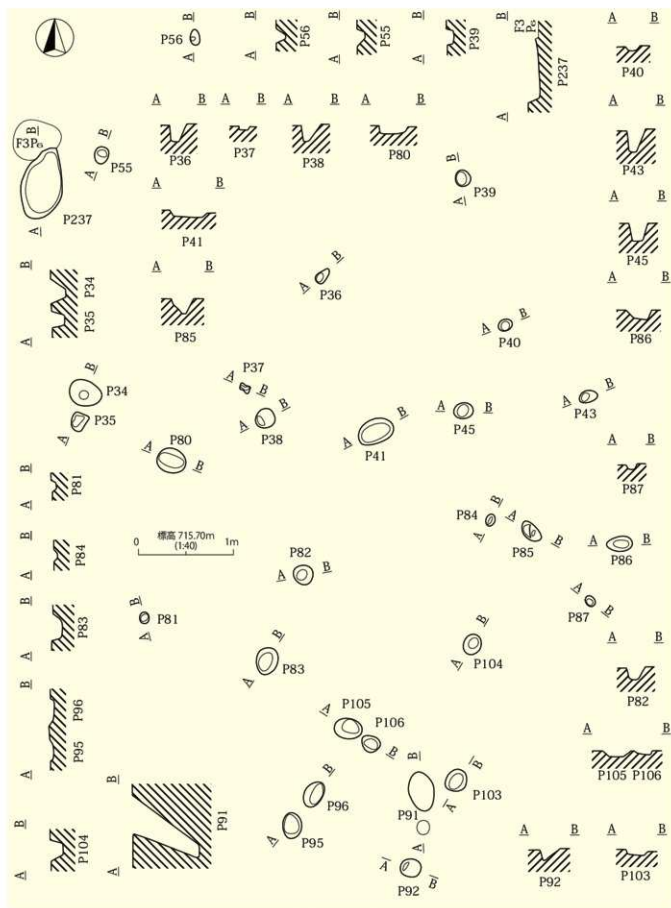


Fig.31 P34～41・43・45・55・56・80～87・91・92・95・96・103・106・237号ビット

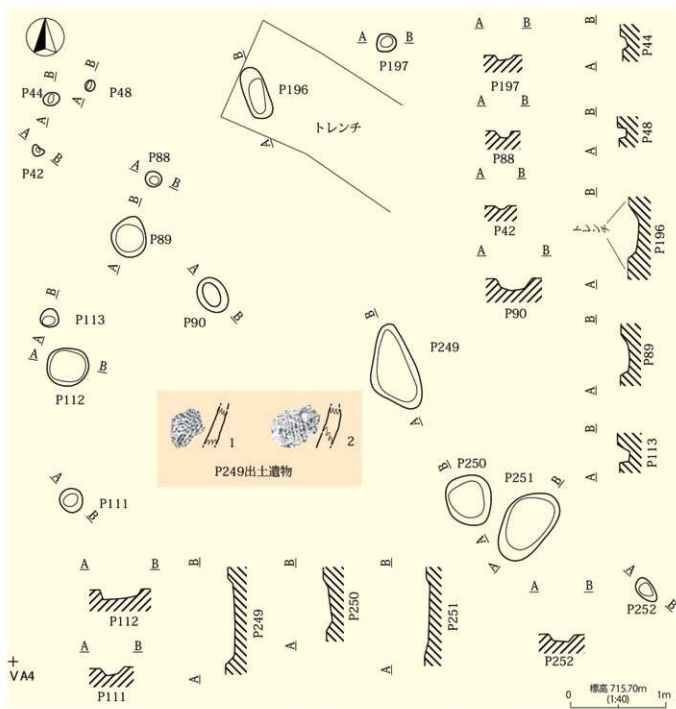


Fig.32 P42・44・48・88～90・111～113・196・197・249～252号ピット

D 52号土坑 (Fig.20)

IV D 1 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-15°-Wにとり、長軸長1.14 m、単軸長0.93 m、壁残高0.08 m、面積0.68m²の規模である。

遺物は胎土に雲母を含み、条痕が施される弥生土器の裏片と沈線と棒状工具による刺突が施される縄文土器深鉢片が各1点出土した。

以上の出土遺物から本址の所産期を確定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

D 53号土坑 (Fig.20)

IV D 2 グリットで検出された。P335に切られる。平面は楕円形、断面は逆梯形の形態である。長軸方位をN-50°-Eにとり、長軸長1.22 m、単軸長1.03 m、壁残高0.08 m、面積0.89m²の規模である。

遺物は胎土に繊維を含み、R(L2) 縄文が施文される縄文土器深鉢片が1点出土した。

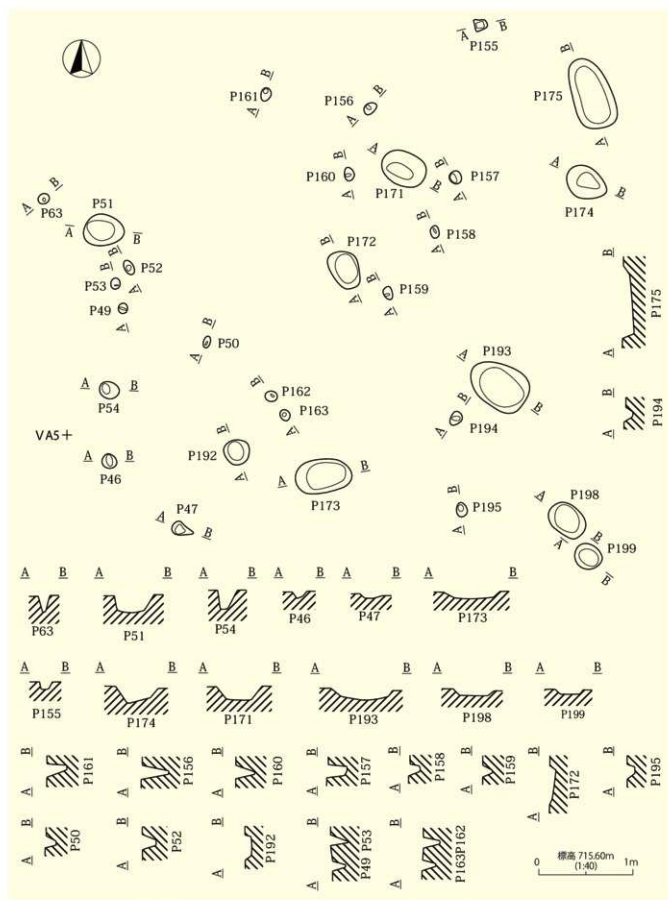


Fig.33 P46・47・49～54・63・155～163・171～175・192～195・198・199号ピット

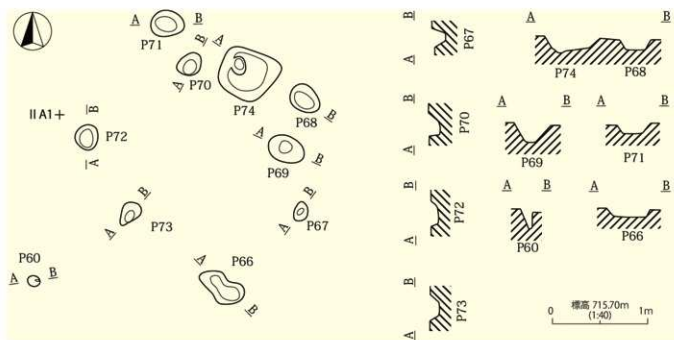


Fig.34 P60-66～74号ピット

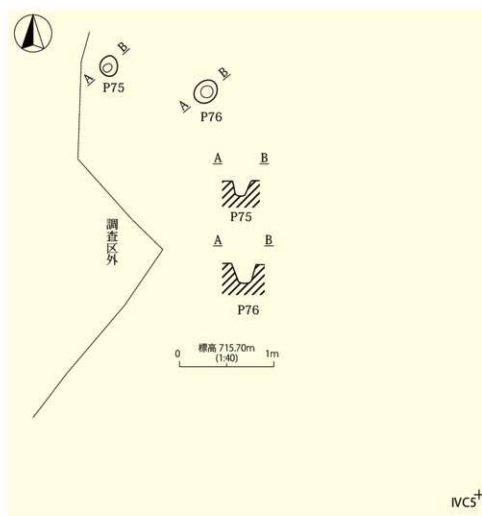


Fig.35 P75-76号ピット

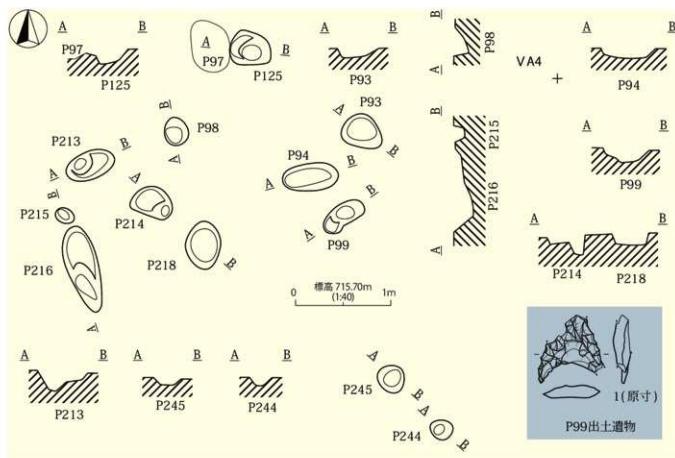


Fig.36 P93-94-98-99-125-213-216-218-244-245号ビット

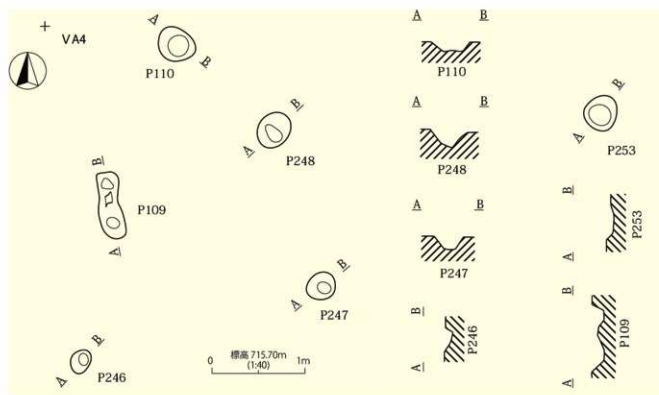


Fig.37 P109-110-246-247-248-253号ビット

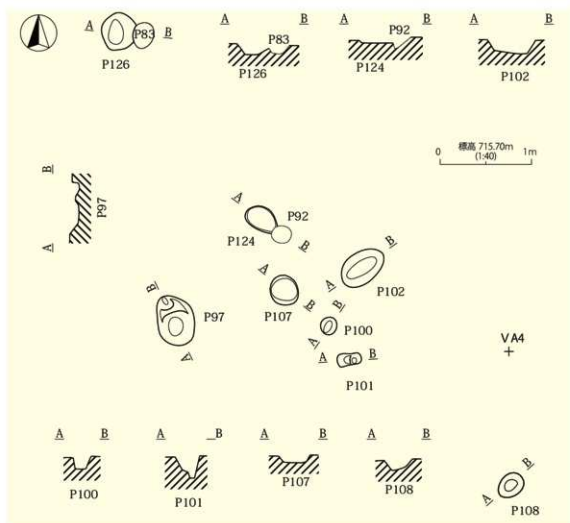


Fig.38 P97-100～102・107・108・124・126号ピット

以上の出土遺物の特徴から、本址の所産期は縄文時代前期初頭と考えられる。

4 溝址

M 1号溝址 (Fig.21)

Ⅱ A 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。最大長 3.74 m、最大幅 0.77 m、最大深度 0.51 m の規模である。

出土遺物は皆無であり、時期・性格ともに不明であるが、倒木痕の可能性も否定できない。

M 2号溝址 (Fig.22)

Ⅱ B 2グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。最大長 6.31 m、最大幅 4.23 m、最大深度 0.47 m の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土した。縄文土器は全てのものが胎土に繊維を含む。文様は縄文であり、原体は単節あるいは撚り方向の異なる撚糸 2 本合わせの単軸絡条体による。口縁部の残るものは肥厚口縁が多く、波状を呈するものも目立つ。底部は尖底である。石器は黒曜石やチャートを素材とする石鏃あるいはその未製品が多く出土している。石匙や打製石斧片も各 1 点ずつ認められた。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代前期初頭の所産と考えられるが、性格は不明である。

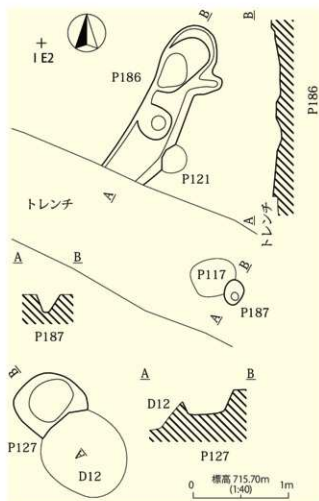


Fig.39 P127・186・187号ビット

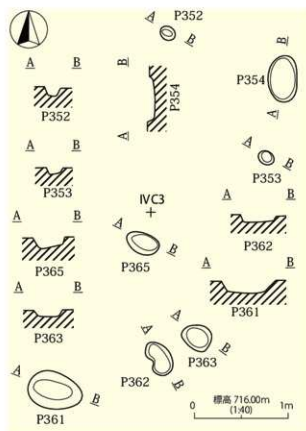


Fig.40 P352～354・361～363・365号ビット

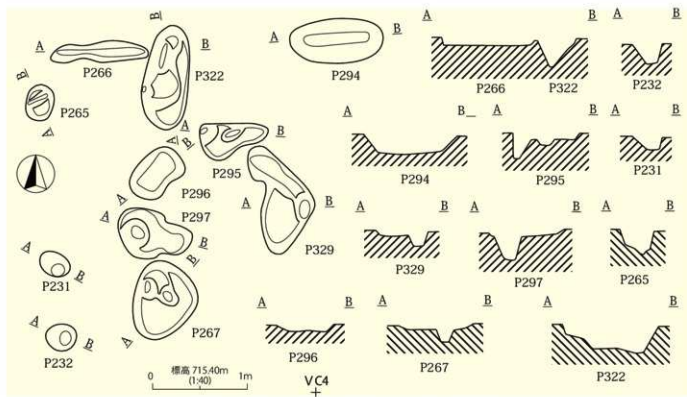


Fig.41 P231・232・265～267・P294～297・322・329号ビット

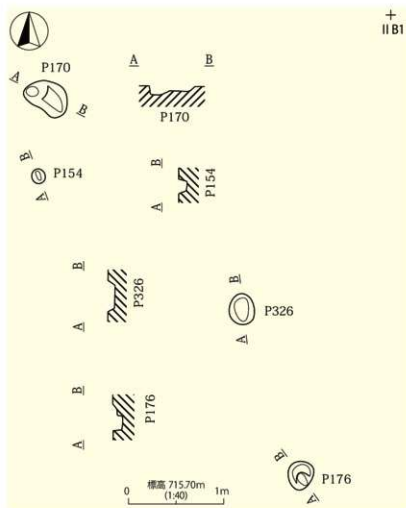


Fig.42 P154・170・176・326号ピット

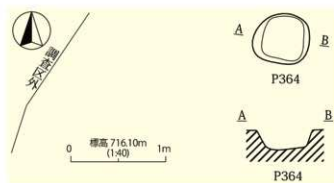


Fig.43 P364号ピット

5 ピット (Fig.23～61)

調査区全域で検出された。総数 365 基である。平面形態的には楕円形ものが大半を占めている。遺物の出土が認められないものがほとんどであるため、時期は確定できないが、規模、形状から中世のものが多く含まれているものと思われる。性格的には柱穴あるいはそれに類するものと思われ、認識できなかった掘立柱建物なども含まれているものと思われる。詳細については表を参照されたい。

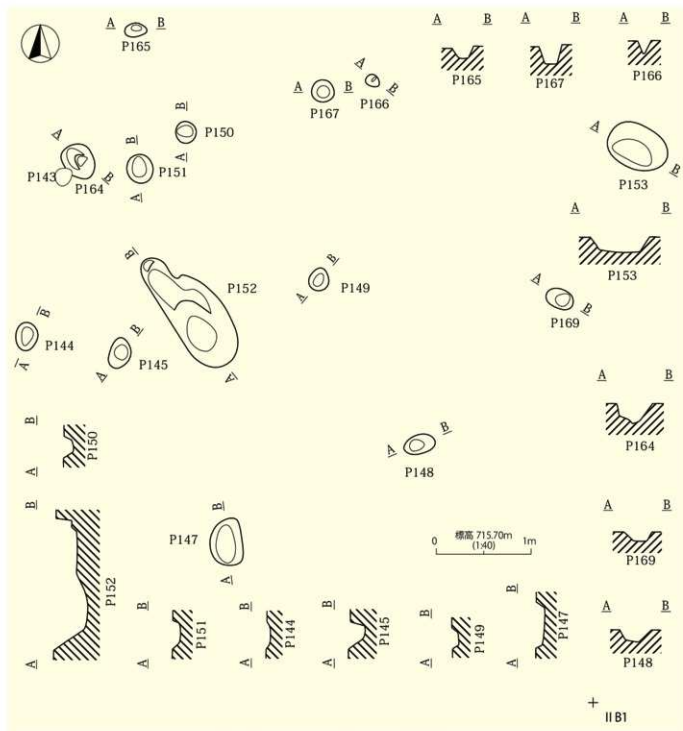


Fig.44 P144・145・147～153・164～167・169号ピット

6 遺構外出土遺物 (Fig.62～78)

縄文土器 (Fig.62)

そのほとんどを占めるのは前期初頭の塚田式～中道式土器である。胎土には繊維を含み、口縁部が肥厚あるいは、隆帯文が付されるものがほとんどであり、波状を呈するものが多い。底部は尖底である。文様は撚りの異なる、撚糸2本の単軸絡条体や単節縄文の菱形構成である。土器器面の状態が極めて悪く、文様が判然としないものが多い。

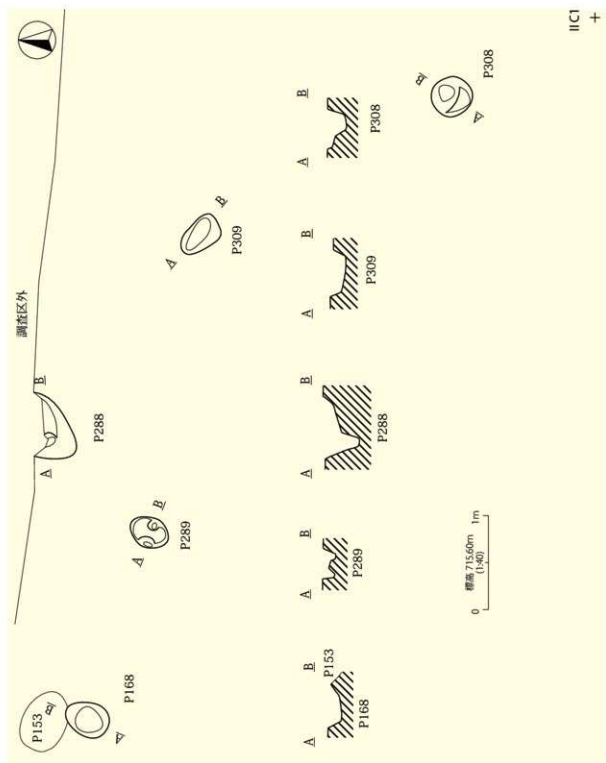


Fig.45 P168・288・289・308・309号ピット

その他に、前期諸磯式や中期初頭の土器、中期後半、後期前半の土器が認められる。北方向に離接する反田遺跡では中期後半の竪穴建物が検出されており、その影響か同時期の土器がやや多い。

前期初頭以降小山崎遺跡には断続的ではあるが、後期初頭まで人々の活動の痕跡が認められる。

弥生土器 (Fig.63)

中期前半の土器片が少量出土している。北に隣接する反田遺跡からも同時期の土器片が出土しており、片貝川

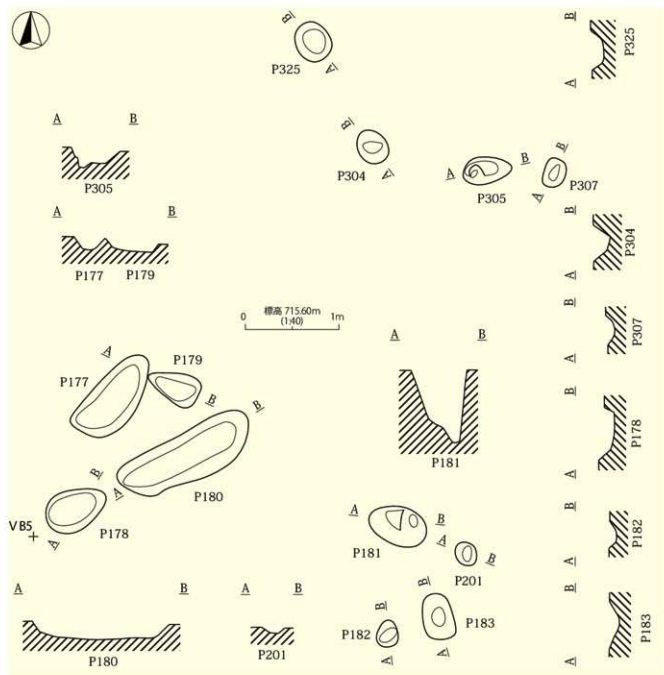


Fig.46 P177～183・201・304・305・307・325号ピット

流域では、下流の桜井宮浦遺跡で同時期の竪穴建物が検出されている。長野県埋蔵文化財センターが調査を行った中部横断自動車道関係の調査でも、寺家遺跡から前期のまとまった量の土器が出土している。湯川流域と共に早くから弥生時代の人々の痕跡が確認される地域である。

土師器 (Fig.64)

古墳時代後期、平安時代10世紀以降のものが出土している。竪穴建物の年代よりは古い10世紀のものが多く、これは北に隣接する反田遺跡の同時期の集落の影響であろう。

須恵器 (Fig.65)

土師器同様に平安時代のものである。量的には少ない。

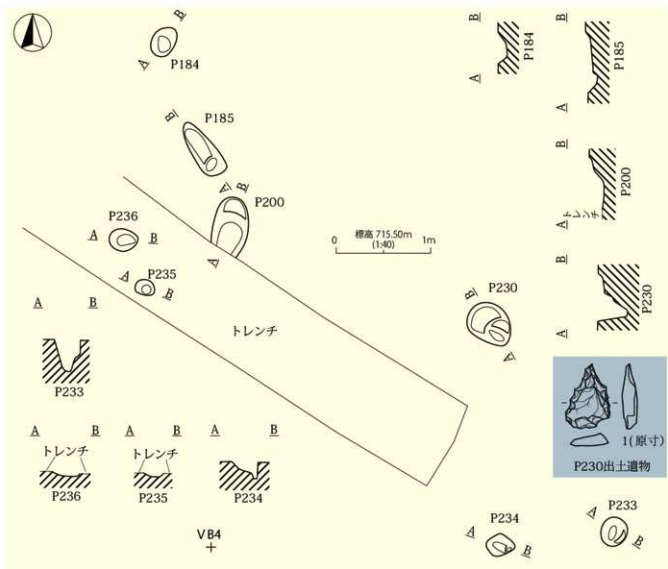


Fig.47 P184・185・200・230・233～236号ピット

陶磁器 (Fig.66)

灰軸陶器や、瀬戸美濃系と思われる陶器、常滑焼、中国製青磁などが出土している。

金属器 (Fig.67)

銅銭及び器種不明の銅製品以外は鉄器・鉄製品である。器種的には釘が多い。12の鋤や、13の鑿は新しいものかもしれない。

石器・石製品 (Fig.68～78)

石鏃及び石鏃未製品が大半を占める。法量的には長さ 1.1cmから 3.3cm、重量 0.27 g～2.38g と多岐にわたる。形態的には全て無茎凹基である。石材的にはチャートが最も多いが、黒曜石や石英なども認められる。

石鏃以外では石槍と思われるものや、石錐、石匙、楔形石器、打製石斧、横刃形石器、スクレイパー、磨石、台石、敲石、砥石、石核、使用痕あるいは二次加工痕のある剥片などが認められた。179・180は石刃としたが、時期は不明である。また、石製品として白玉片1点と管玉1点が出土した。付近あるいは調査範囲内に古墳が存在したのかもしれない。

小型の石器の未製品の量の多さは当遺跡で製作されていた証である。遺構はシルト質土の堆積部分に構築されるが、シルト質土が堆積していない部分には礫が厚く堆積しており、この礫の中にチャートが豊富に存在し

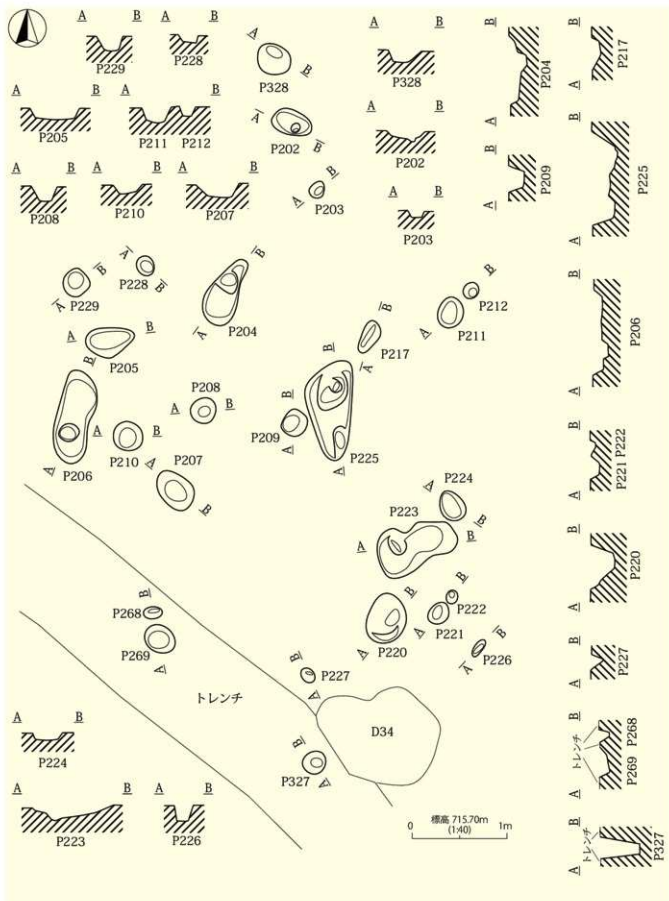


Fig.48 P202～212・217・220～229・268・269・327・328号ピット

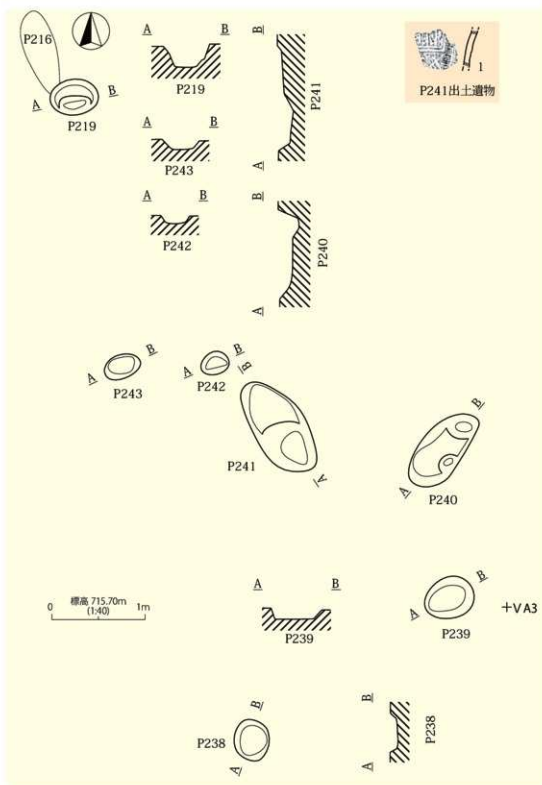


Fig.49 P219-238 ~ 243号ビット

たのであろう。しかし、圃場整備や傾斜地形の影響などにより、製作址を把握出来る状況ではなかった。結果礫上層に存在した黒色土や礫の間から石器や未製品、剥片などを採取するような調査となった。

以上の石器群、特に当遺跡で製作されたと思われる小型の石器の年代であるが、形態的にはH3・H4と同時期の縄文時代前期初頭のものと思われる。

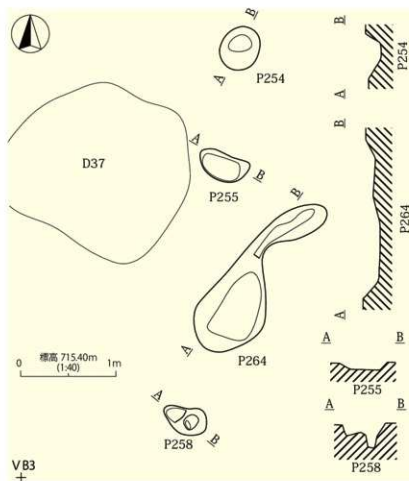


Fig.50 P254・255・258・264号ピット

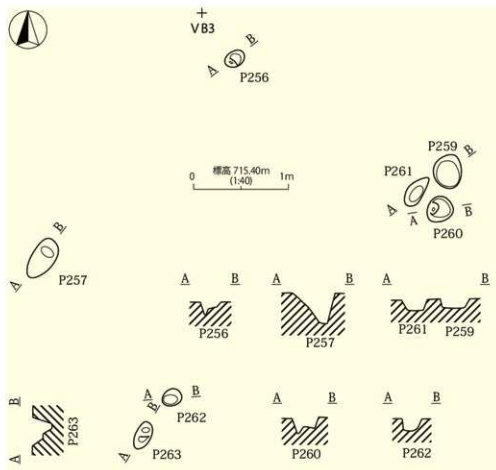


Fig.51 P256・257・259～263 号ピット

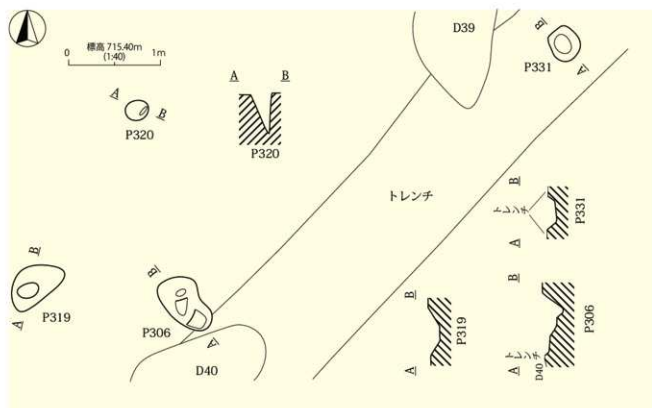


Fig.52 P306・319・320・331 号ピット

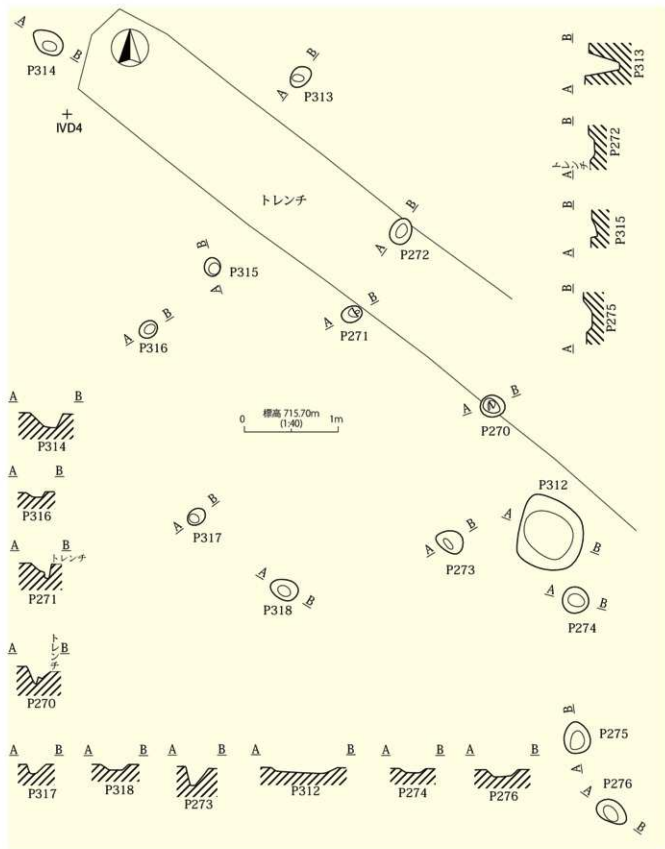


Fig.53 P270～276-312～318号ビット

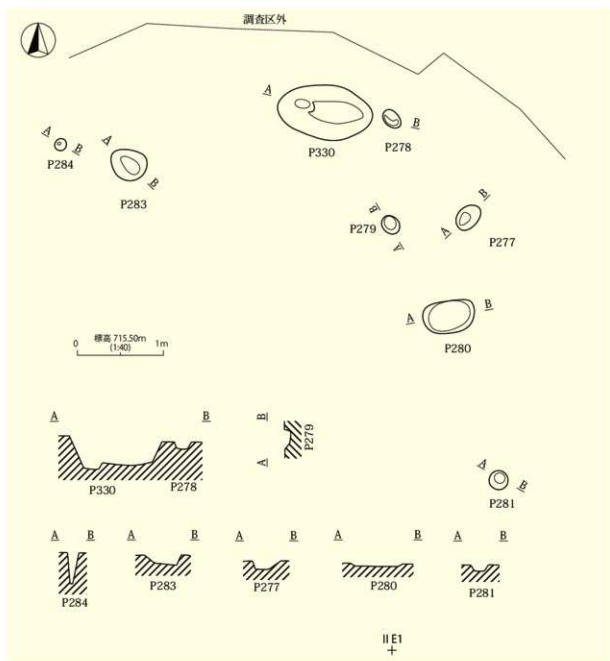


Fig.54 P277～281・283・284・330号ピット

+ IID1

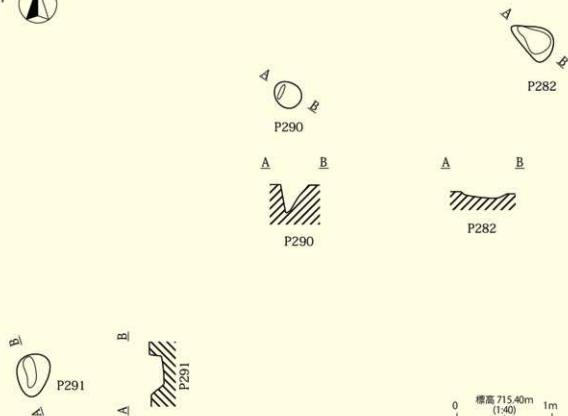


Fig.55 P282・290・291号ピット

+ VCS

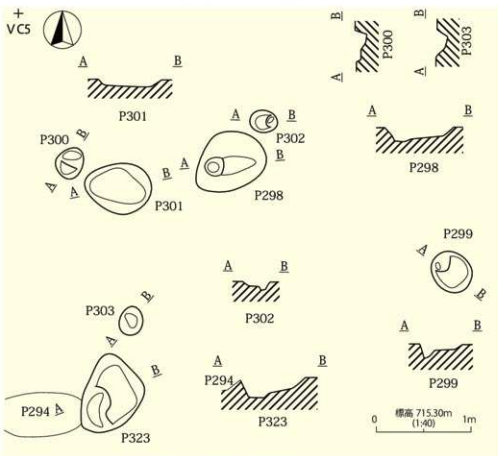


Fig.56 P298～303・323号ピット

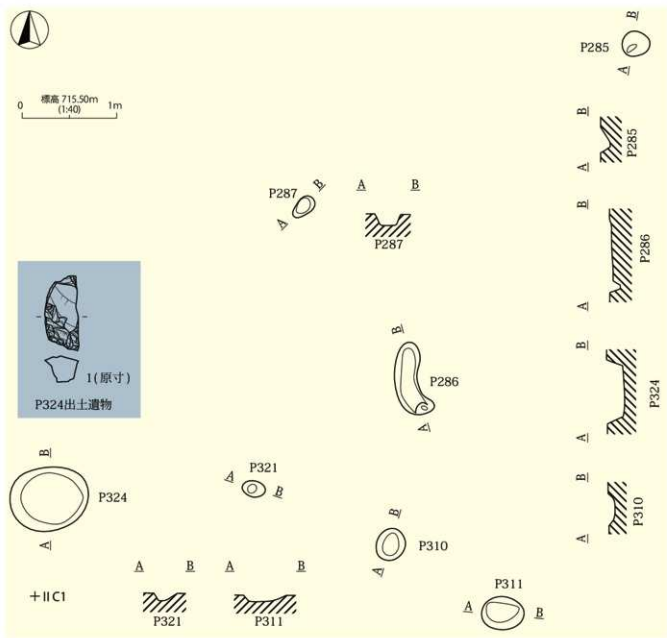


Fig.57 P285～287・310・311・321・324号ピット

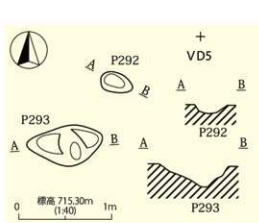


Fig.58 P292-293号ピット

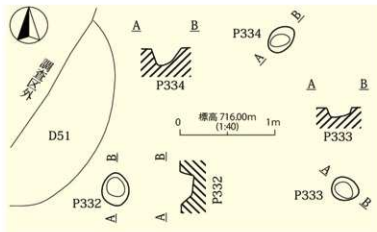


Fig.59 P332～334号ピット

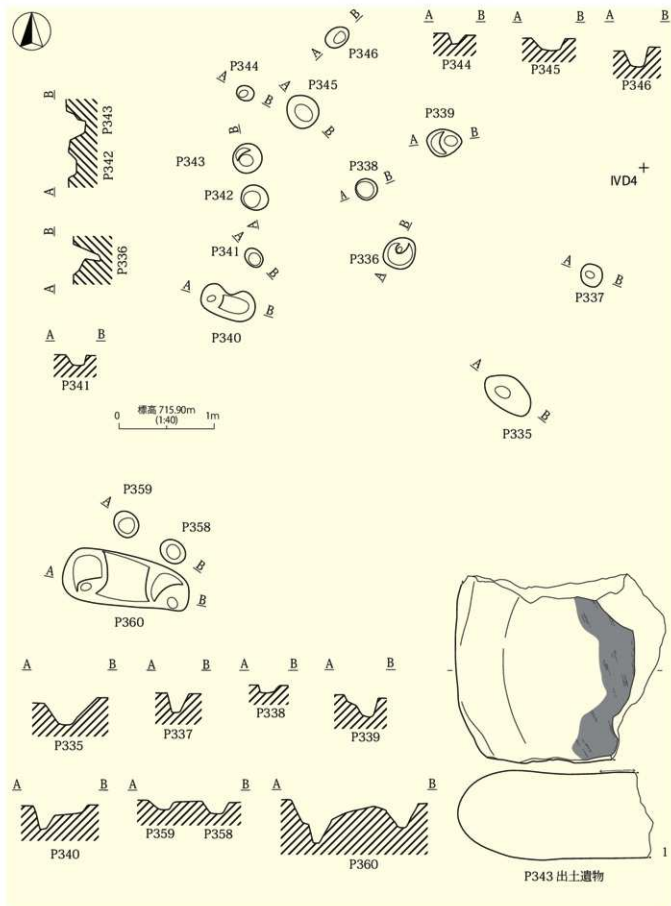


Fig.60 P335～346・358～360号ビット

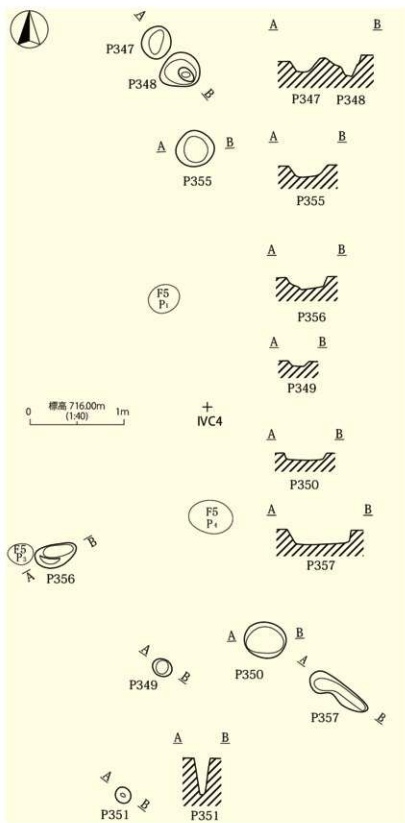


Fig.61 P347～351・355～357号ピット

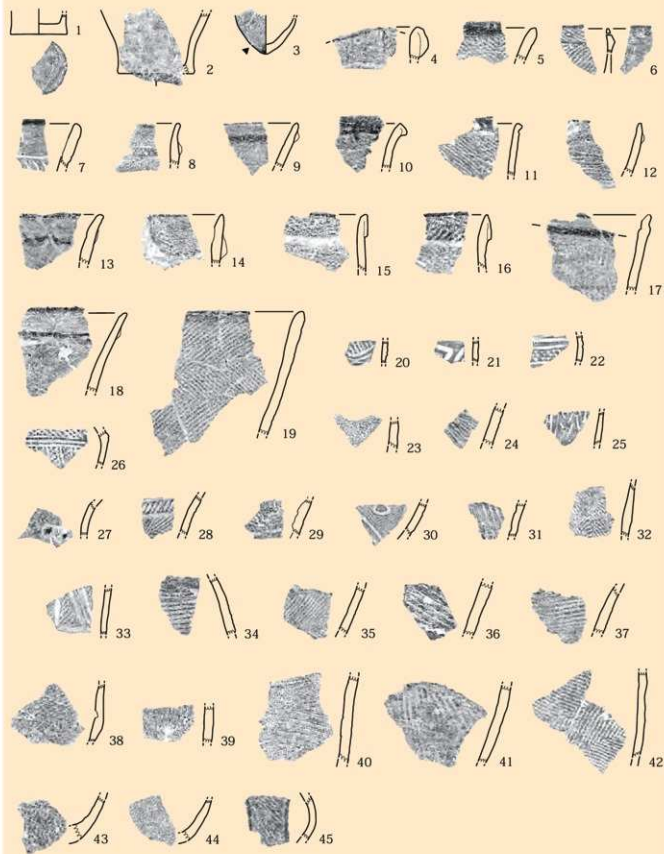


Fig.62 遺構外出土縄文土器

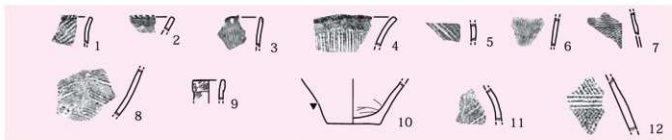


Fig.63 遺構外出土弥生土器



Fig.64 遺構外出土土師器

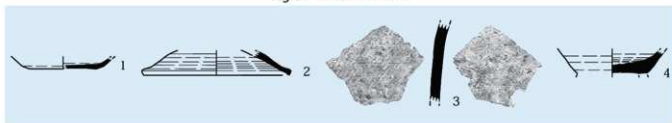


Fig.65 遺構外出土須惠器

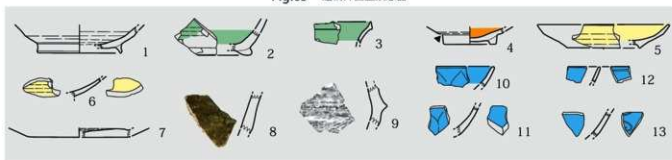


Fig.66 遺構外出土陶磁器

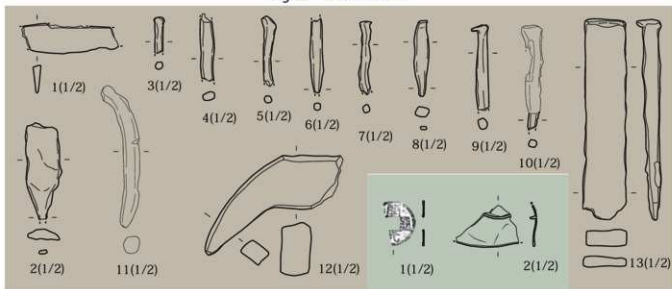


Fig.67 遺構外出土金属器

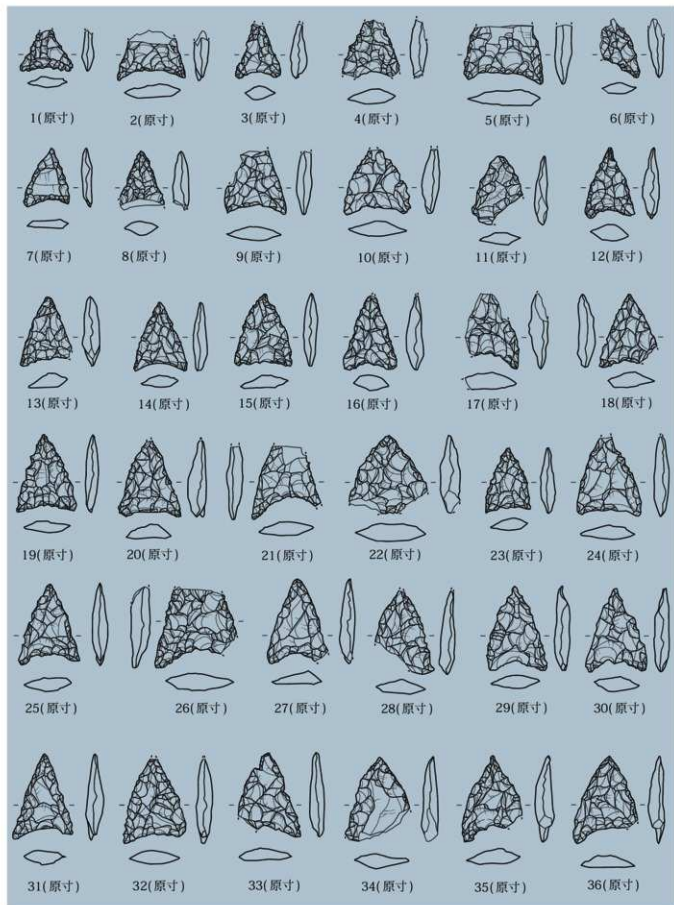


Fig.68 遺構外出土石器(1)

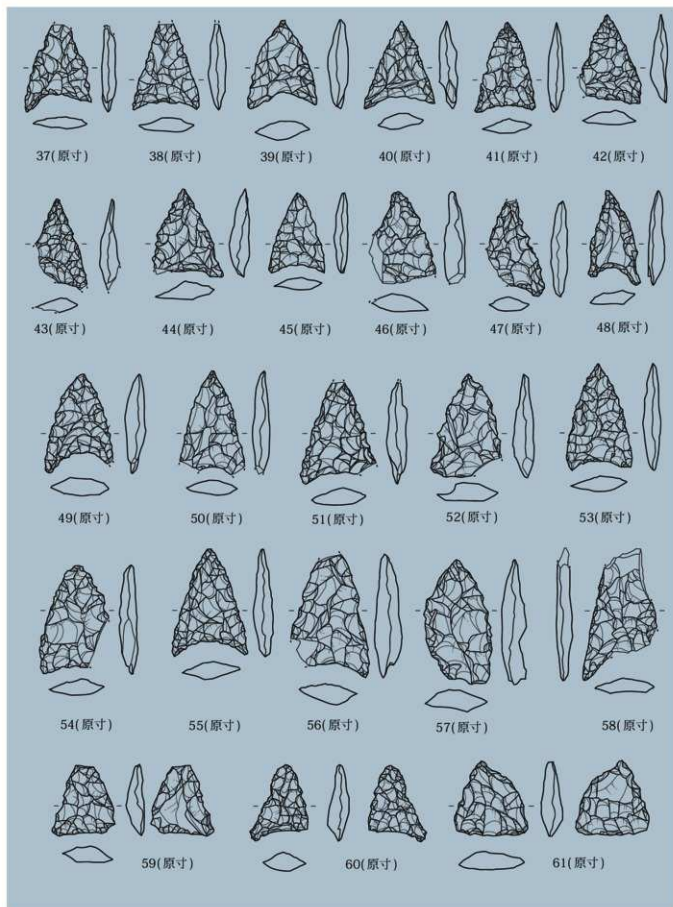


Fig.69 遺構外出土石器(2)

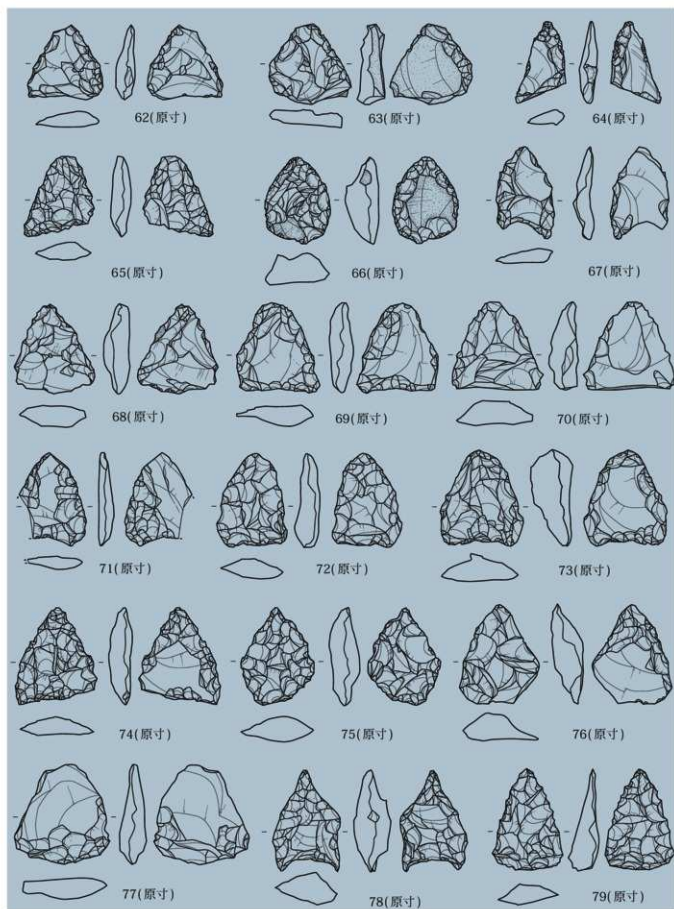


Fig.70 遺構外出土石器(3)

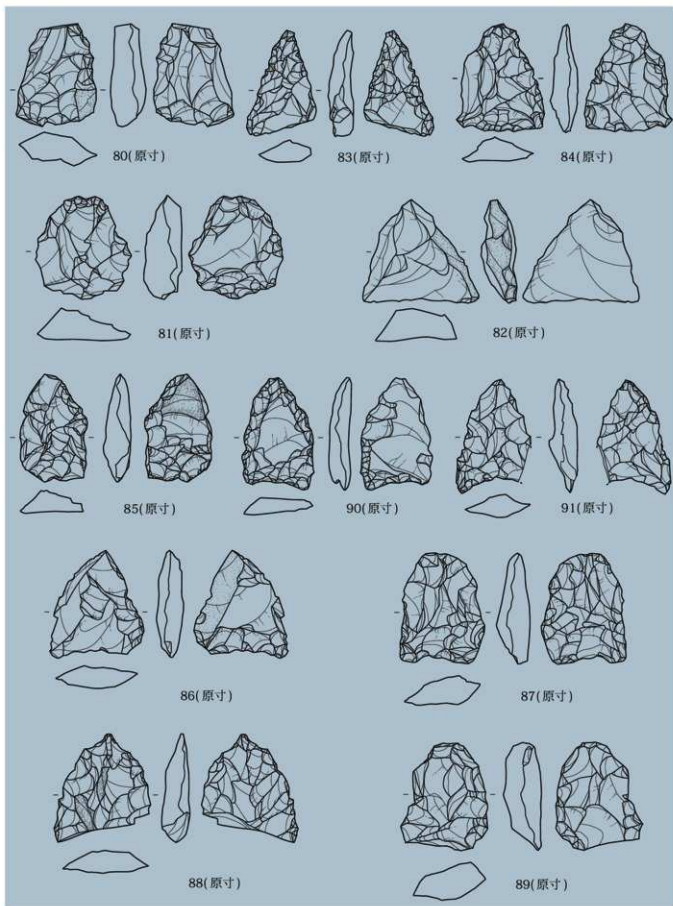


Fig.71 道溝外出土石器(4)

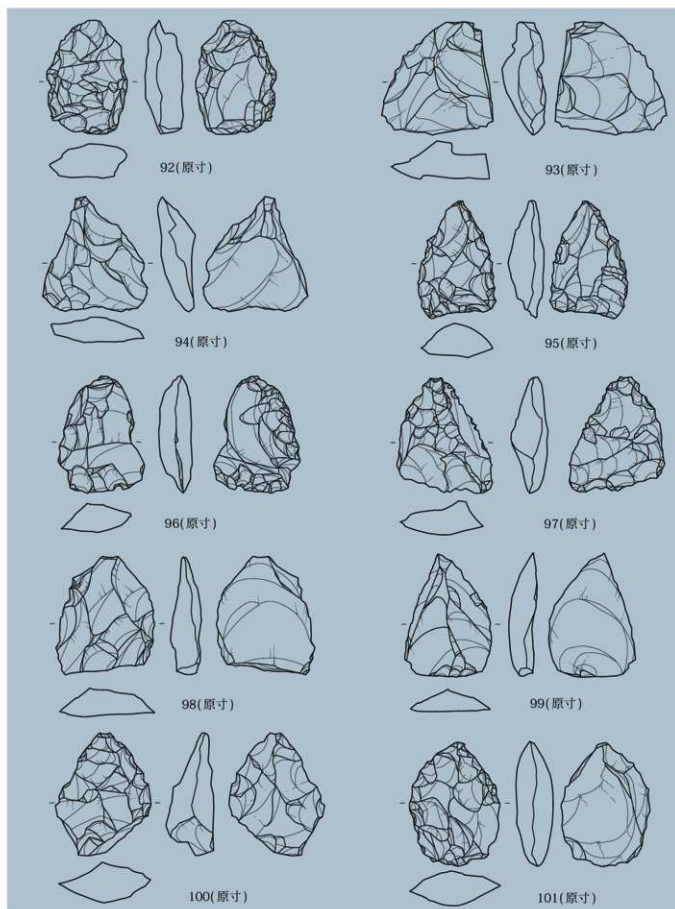


Fig.72 遺構外出土石器(5)

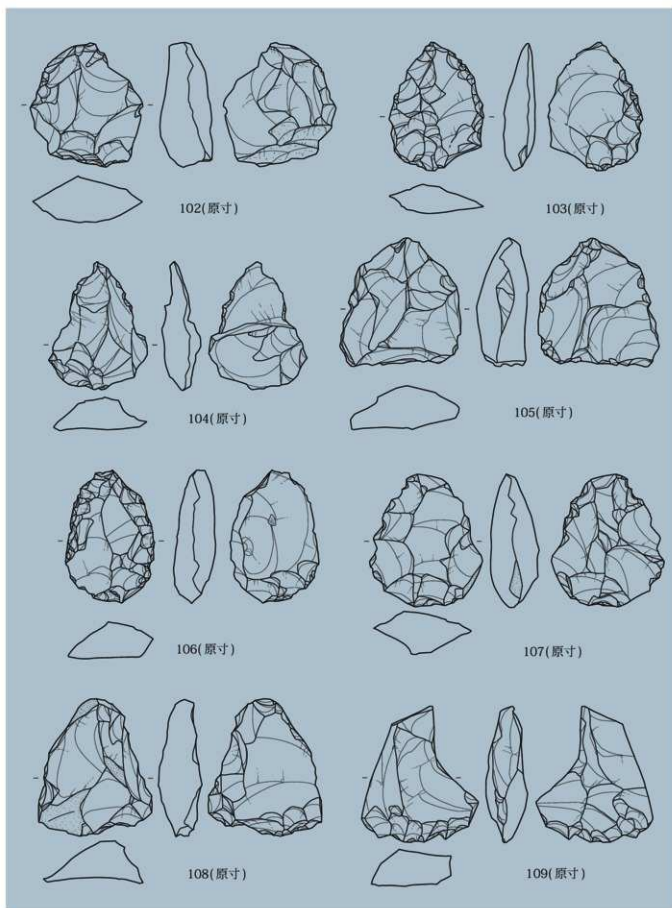


Fig.73 遺構外出土石器(6)

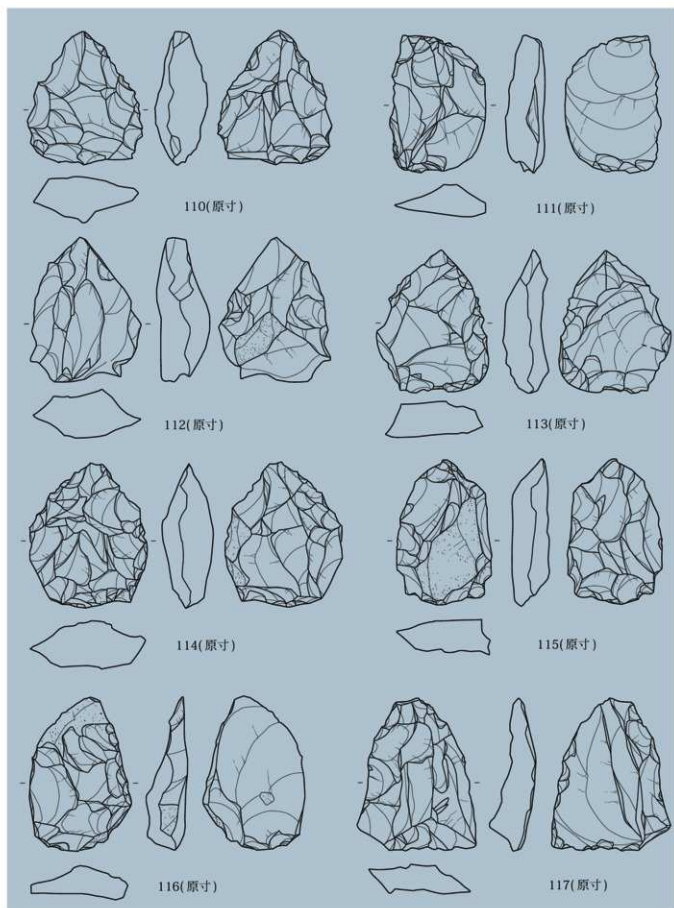


Fig.74 遺構外出土石器(7)

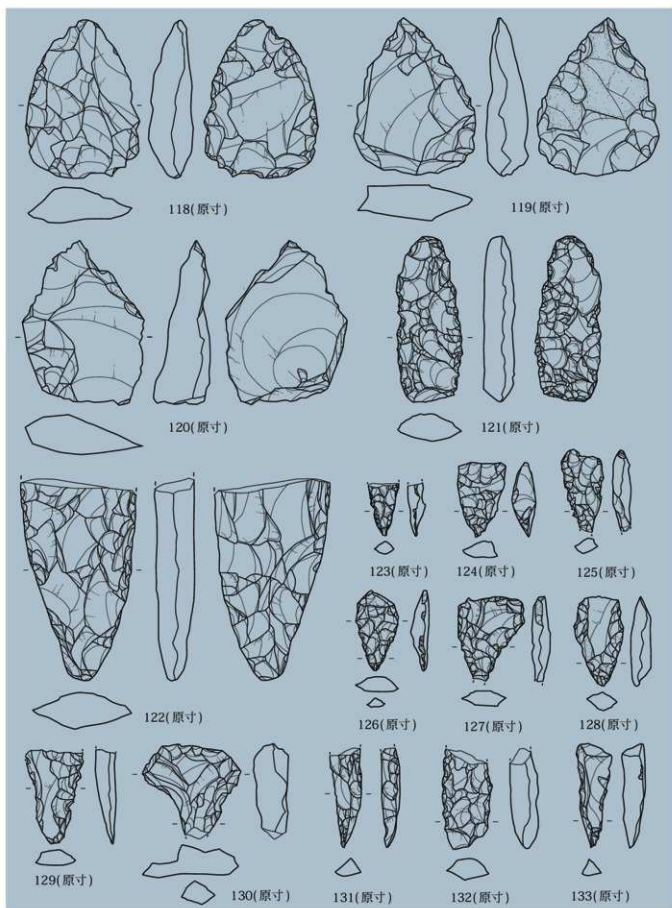


Fig.75 遺構外出土石器(8)

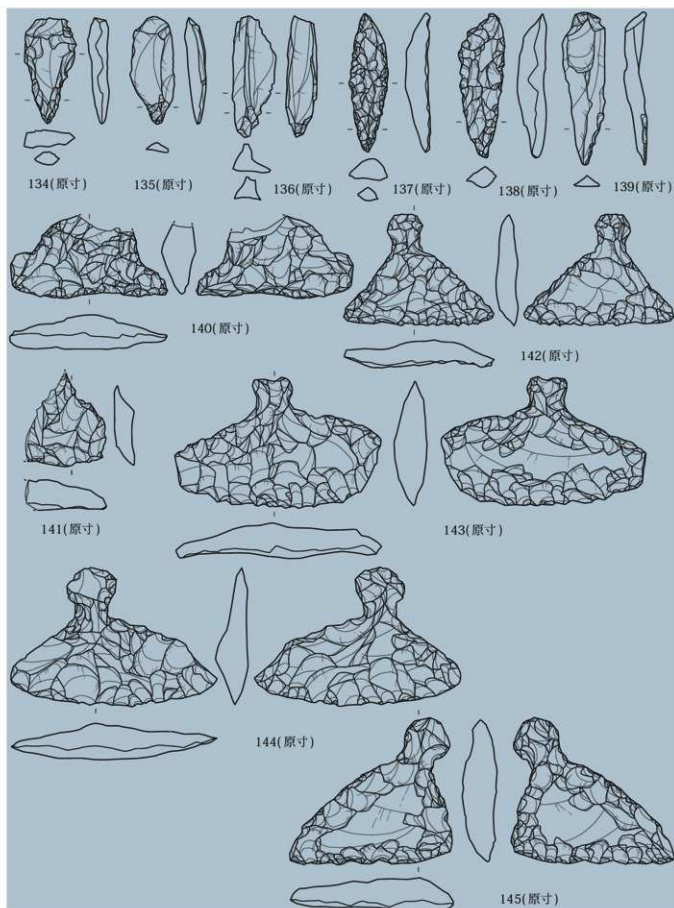


Fig.76 遺構外出土石器(9)

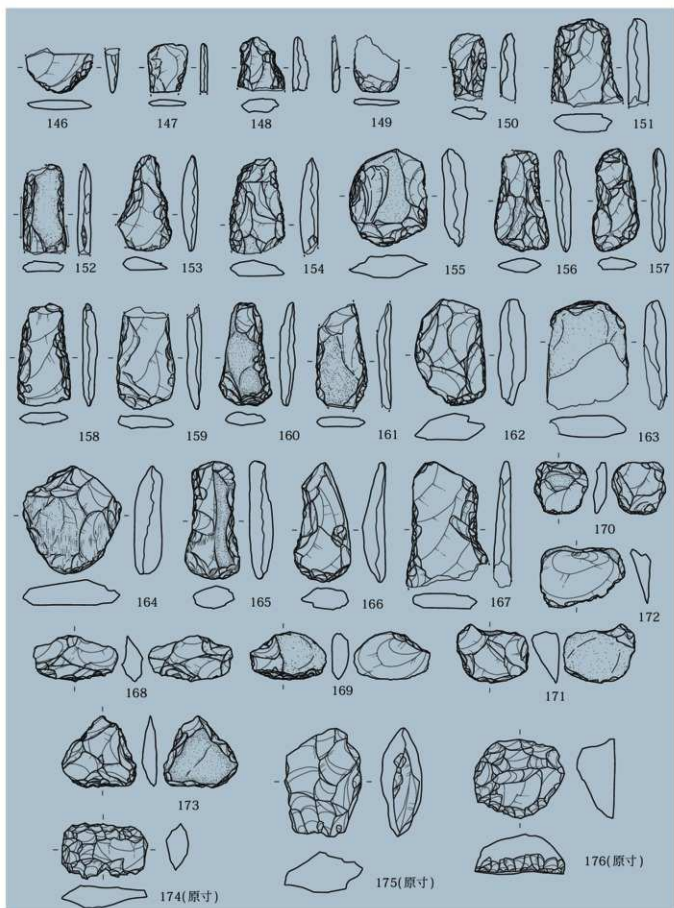


Fig.77 遺構外出土石器(10)

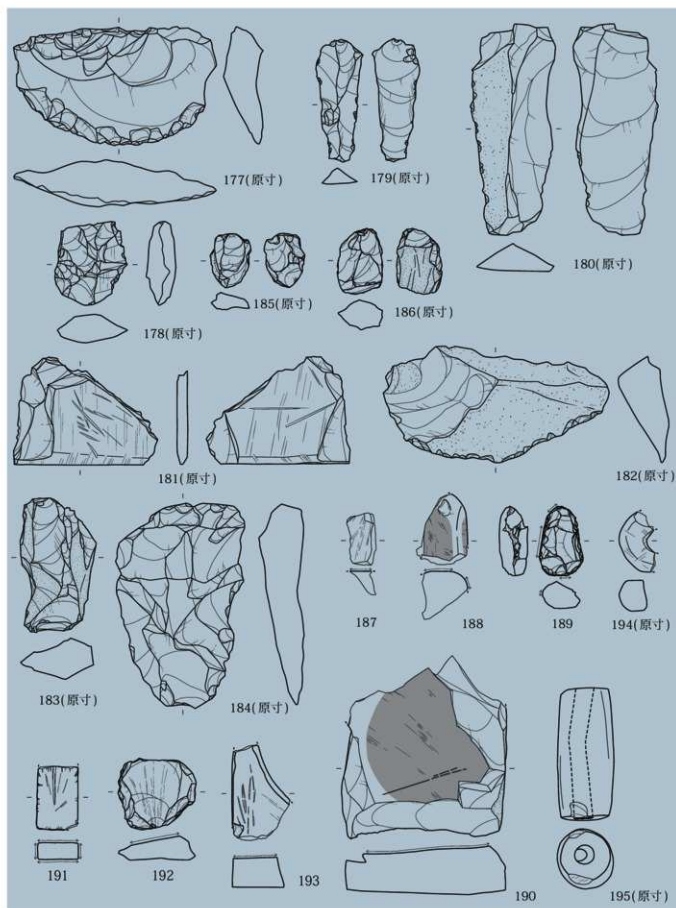


Fig.78 遺構外出土石器(11)

壁穴建物計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	ピット	付置施設	備考	時期
H1	—	N-139°-E	4.53	4.18	0.09	16.53	13	東側隅カマド	—	平安
H2	—	N-110°-E	3.87	3.44	0.07	12.53	—	東側隅カマド	—	平安
H3	カクランに切られる	N-41°-E	(4.85)	3.16	0.17	(14.08)	2	—	—	縄文前期初頭
H4	調査区に切られる	—	—	—	0.19	—	—	—	—	縄文前期初頭

垂直柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	所行長 (m)	梁間長 (m)	面積 (㎡)	柱径 (m)	柱間寸法 (m)	梁間寸法 (m)	備考	時期
F1	D14、15、P62を切る	N-25°-W	3.01	2.29	6.85	—	1.46~1.51	—	—	不明
F2	D2を切る	N-56°-E	2.80	2.22	6.21	—	1.27~1.51	—	—	不明
F3	F4P5、F2P7を切る	N-38°-E	4.18	2.48	10.35	—	1.22~1.47	—	—	不明
F4	P33、F3P2に切られる	N-32°-E	3.22	2.47	8.81	—	1.54~1.60	—	—	不明
F5	—	N-8°-W	2.47	2.05	5.05	—	—	—	—	不明

土坑計測表(1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)	面積 (㎡)	備考	時期
D1	—	不整形	N-57°-W	1.85	0.95	0.27	0.62	—	縄文時代前期初頭
D2	F2に切られる	円形	N-90°-E	1.34	(1.30)	0.25	(1.06)	—	縄文時代前期初頭
D3	—	円形	N-90°-E	1.50	1.43	0.20	1.21	—	不明
D4	—	円形	N-90°-E	1.51	1.44	0.19	1.41	—	縄文時代前期初頭
D5	—	楕円	N-47°-E	1.40	1.04	0.21	0.84	—	弥生時代中期前半
D6	—	楕円	N-50°-W	1.20	1.05	0.24	0.56	—	不明
D7	—	円形	N-0°-E	0.89	0.88	0.25	0.42	—	縄文時代前期初頭
D8	—	円形	N-90°-E	1.32	1.22	0.14	1.02	—	不明
D9	—	円形	N-0°-E	1.18	1.14	0.08	0.82	—	不明
D10	—	楕円	N-34°-W	1.41	0.87	0.34	0.30	—	不明
D11	—	不整形	N-74°-W	1.71	1.30	0.33	1.05	—	不明
D12	P25に切られる	楕円	N-58°-W	0.97	0.83	0.42	0.20	—	不明
D13	P61に切られる	楕円	N-45°-E	0.96	0.74	0.10	0.48	—	不明
D14	F1に切られる	楕円	N-15°-W	0.90	(0.75)	0.10	(0.36)	—	不明
D15	F1、P5、P62に切られる	楕円	N-0°-E	(1.38)	1.25	0.18	(1.00)	—	不明
D16	—	不整形	N-57°-W	1.06	0.66	0.23	0.23	—	不明
D17	—	不整形	N-19°-W	1.34	0.88	0.38	0.57	—	不明
D18	—	円形	N-90°-E	1.17	1.14	0.14	0.75	—	不明
D19	—	楕円	N-62°-E	1.52	1.33	0.25	0.86	—	不明
D20	—	円形	N-0°-E	0.85	0.83	0.29	0.24	—	不明
D21	P90に切られる	不整形	N-90°-E	0.90	0.89	0.13	0.28	—	不明
D22	—	楕円	N-18°-E	3.09	1.54	0.56	3.10	—	縄文時代前期初頭
D23	—	楕円	N-78°-E	1.26	0.91	0.11	0.47	—	不明
D24	P101、102、110に切られる	円形	N-82°-E	2.91	2.71	0.26	5.50	—	不明

土坑計測表(2)

遺構名	非視察区画	平面形態	長軸方位	長軸長(m)	短軸長(m)	径球高(m)	面積(m ²)	備考	時期
D25	トレンチに切られる	楕円	N-20°-E	(1.24)	0.87	0.10	0.56	-	不明
D26	-	楕円	N-76°-E	2.61	0.91	0.11	1.33	-	不明
D27	-	楕円	N-63°-W	1.33	1.24	0.07	0.96	-	縄文時代前期初頭
D28	-	楕円	N-49°-E	1.21	0.70	0.22	0.31	-	縄文時代前期初頭
D29	-	楕円	N-90°-E	2.02	1.19	0.15	0.23	-	不明
D30	-	楕円	N-20°-E	1.58	0.85	0.37	0.85	-	縄文時代前期初頭
D31	-	楕円	N-72°-W	1.76	0.98	0.14	0.82	-	不明
D32	P214、216、218、219に切られる	円形	N-0°-E	1.58	1.54	0.13	1.49	-	不明
D33	-	楕円	N-17°-E	1.74	0.94	0.21	0.84	-	不明
D34	トレンチに切られる	不整形	-	-	-	0.10	-	-	不明
D35	-	楕円	N-54°-W	1.51	1.29	0.29	0.60	-	不明
D36	-	不整形	-	-	-	0.23	-	-	不明
D37	-	楕円	N-61°-W	1.90	1.72	0.38	1.73	-	不明
D38	-	楕円	N-13°-E	2.82	0.93	0.29	1.26	-	縄文時代前期初頭
D39	-	楕円	N-12°-E	2.32	0.88	0.42	0.88	-	不明
D40	-	楕円	N-72°-E	1.58	0.82	0.18	0.38	-	不明
D41	-	円形	N-69°-W	1.62	0.94	0.37	0.43	-	不明
D42	-	円形	N-90°-E	0.96	0.93	0.26	0.49	-	不明
D43	-	楕円	N-31°-E	2.08	0.66	0.17	0.79	-	不明
D44	-	円形	N-30°-E	0.92	0.85	0.29	0.48	-	不明
D45	-	楕円	N-42°-E	0.90	0.55	0.16	0.27	-	不明
D46	-	楕円	N-56°-E	2.50	1.23	0.12	3.77	-	縄文時代前期初頭
D47	-	長方形	N-29°-E	1.08	0.74	0.65	0.50	-	不明
D48	-	楕円	N-69°-E	1.33	0.87	0.46	0.34	-	不明
D49	-	長方形	N-27°-W	0.80	0.55	0.13	0.28	-	不明
D50	-	楕円	N-37°-E	2.14	0.81	0.21	0.67	-	不明
D51	調査区外に延びる	不整形	-	-	-	0.24	-	-	不明
D52	-	楕円	N-15°-W	1.14	0.93	0.08	0.68	-	不明
D53	P335に切られる	楕円	N-50°-E	1.22	1.03	0.08	(0.89)	-	不明

ピット計測表(1)

遺構名	非視察区画	平面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	径球高(m)	通達名	非視察区画	平面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	径球高(m)
P1	-	円形	0.29	0.28	0.11	P9	-	楕円形	0.37	0.30	0.17
P2	-	円形	0.34	0.31	0.11	P10	-	楕円形	0.18	0.13	0.05
P3	-	楕円形	0.23	0.20	0.18	P11	-	楕円形	0.36	0.32	0.14
P4	-	楕円形	0.31	0.26	0.14	P12	-	長方形	0.22	0.19	0.18
P5	-	楕円形	0.30	0.27	0.14	P13	-	楕円形	0.22	0.19	0.04
P6	-	楕円形	0.47	0.30	0.23	P14	-	円形	0.14	0.14	0.12
P7	-	楕円形	0.40	0.30	0.23	P15	-	楕円形	0.63	0.48	0.17
P8	-	円形	0.34	0.31	0.10	P16	-	楕円形	1.04	0.51	0.08

ビット針測定表(2)

識別名	重複関係	平面形差	長軸長(m)	短軸長(m)	厚さ高(m)
P17	—	円形	0.23	0.21	0.24
P18	—	円形	0.45	0.41	0.13
P19	—	楕円形	0.45	0.33	0.12
P20	—	楕円形	0.47	0.33	0.24
P21	—	円形	0.29	0.28	0.16
P22	—	楕円形	0.24	0.21	0.04
P23	—	楕円形	0.49	0.35	0.16
P24	—	楕円形	0.34	0.30	0.17
P25	D12、P127を切る	楕円形	0.38	0.34	0.22
P26	—	楕円形	0.80	0.50	0.18
P27	—	楕円形	0.75	0.52	0.22
P28	—	不整形	0.68	0.39	0.17
P29	—	楕円形	0.54	0.39	0.10
P30	—	楕円形	0.14	0.09	0.12
P31	—	円形	0.16	0.15	0.08
P32	—	楕円形	0.15	0.13	0.08
P33	F4P4を切る	楕円形	0.19	0.17	0.08
P34	—	楕円形	0.35	0.28	0.16
P35	—	長方形	0.19	0.15	0.13
P36	—	楕円形	0.19	0.10	0.18
P37	—	長方形	0.11	0.06	0.04
P38	—	円形	0.21	0.20	0.17
P39	—	楕円形	0.18	0.16	0.08
P40	—	楕円形	0.16	0.12	0.05
P41	—	楕円形	0.39	0.26	0.06
P42	—	不整形	0.13	0.09	0.03
P43	—	楕円形	0.20	0.13	0.23
P44	—	楕円形	0.18	0.14	0.06
P45	—	楕円形	0.21	0.17	0.19
P46	—	円形	0.16	0.16	0.07
P47	—	不整形	0.24	0.11	0.05
P48	—	楕円形	0.12	0.10	0.09
P49	—	円形	0.11	0.10	0.14
P50	—	楕円形	0.13	0.07	0.12
P51	—	楕円形	0.43	0.33	0.19
P52	—	楕円形	0.17	0.09	0.15
P53	—	楕円形	0.12	0.10	0.19
P54	—	楕円形	0.21	0.18	0.20
P55	—	楕円形	0.18	0.15	0.09
P56	—	楕円形	0.17	0.10	0.10

識別名	重複関係	平面形差	長軸長(m)	短軸長(m)	厚さ高(m)
P57	—	楕円形	0.13	0.08	0.04
P58	—	円形	0.12	0.11	0.06
P59	—	円形	0.14	0.13	0.28
P60	—	楕円形	0.13	0.12	0.19
P61	D13を切る	楕円形	0.30	0.25	0.11
P62	D15を切る、F1P5に切られる	楕円形	(0.29)	0.25	0.18
P63	—	楕円形	0.13	0.11	0.18
P64	トレンヂに切られる	楕円形	0.31	0.28	0.16
P65	トレンヂに切られる	楕円形	0.30	0.22	0.10
P66	—	不整形	0.52	0.25	0.08
P67	—	楕円形	0.21	0.14	0.14
P68	—	楕円形	0.34	0.25	0.10
P69	—	楕円形	0.40	0.27	0.19
P70	—	楕円形	0.28	0.22	0.12
P71	—	楕円形	0.35	0.27	0.10
P72	—	楕円形	0.27	0.24	0.08
P73	—	不整形	0.29	0.17	0.10
P74	—	不整形	0.57	0.52	0.17
P75	—	楕円形	0.22	0.19	0.17
P76	—	楕円形	0.27	0.22	0.20
P77	P190、191を切る	楕円形	0.46	0.23	0.06
P78	—	楕円形	0.25	0.21	0.06
P79	—	円形	0.25	0.23	0.16
P80	—	楕円形	0.31	0.26	0.08
P81	—	円形	0.12	0.11	0.05
P82	—	円形	0.21	0.21	0.13
P83	P126を切る	楕円形	0.29	0.23	0.11
P84	—	楕円形	0.13	0.10	0.04
P85	—	楕円形	0.26	0.15	0.16
P86	—	楕円形	0.27	0.15	0.10
P87	—	楕円形	0.12	0.10	0.06
P88	—	円形	0.18	0.17	0.07
P89	—	楕円形	0.43	0.37	0.09
P90	D21を切る	楕円形	0.39	0.30	0.13
P91	—	楕円形	0.42	0.27	0.70
P92	P124を切る	楕円形	0.22	0.19	0.11
P93	—	不整形	0.45	0.34	0.10
P94	—	楕円形	0.59	0.29	0.11
P95	—	楕円形	0.27	0.20	0.04
P96	—	楕円形	0.29	0.20	0.05

ピット針測表 (B)

遺構名	非視測所	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	壁残高 (m)
P97	P125 を切る	楕円形	0.57	0.42	0.09
P98	—	楕円形	0.31	0.25	0.16
P99	—	不整形	0.49	0.21	0.14
P100	—	円形	0.20	0.19	0.13
P101	D24 を切る	長方形	0.27	0.13	0.24
P102	D24 を切る	楕円形	0.53	0.34	0.15
P103	—	円形	0.24	0.22	0.05
P104	—	楕円形	0.23	0.19	0.13
P105	—	楕円形	0.30	0.22	0.06
P106	—	楕円形	0.20	0.17	0.04
P107	—	楕円形	0.34	0.31	0.08
P108	—	楕円形	0.31	0.24	0.11
P109	—	不整形	0.72	0.21	0.14
P110	D24 を切る	楕円形	0.43	0.36	0.10
P111	—	円形	0.26	0.25	0.07
P112	—	円形	0.44	0.40	0.10
P113	—	円形	0.19	0.19	0.12
P114	—	円形	0.28	0.28	0.12
P115	—	円形	0.26	0.24	0.07
P116	トレンチに切られる	円形	0.27	0.25	—
P117	トレンチに切られる	楕円形	0.48	0.40	—
P118	—	楕円形	0.56	0.40	0.05
P119	—	円形	0.53	0.50	0.16
P120	—	楕円形	0.20	0.15	0.15
P121	—	円形	0.31	0.31	0.20
P122	—	楕円形	0.41	0.33	0.20
P123	—	楕円形	0.38	0.32	0.17
P124	P92 に切られる	楕円形	(0.37)	0.26	(0.05)
P125	P97 に切られる	不整形	0.44	0.34	(0.14)
P126	P83 に切られる	—	0.41	(0.36)	(0.12)
P127	D12、P25 に切られる	—	0.65	(0.54)	(0.27)
P128	—	円形	0.35	0.32	0.09
P129	—	円形	0.41	0.38	0.14
P130	—	円形	0.25	0.23	0.09
P131	—	楕円形	0.29	0.25	0.24
P132	—	円形	0.27	0.26	0.15
P133	—	楕円形	0.21	0.17	0.15
P134	—	楕円形	0.23	0.13	0.16
P135	—	楕円形	0.47	0.42	0.16
P136	—	楕円形	0.37	0.27	0.18
P137	—	楕円形	0.33	0.26	0.10
P138	—	楕円形	0.46	0.38	0.20
P139	—	楕円形	—	(0.72)	(0.47)
P140	D19 を切る	楕円形	0.24	0.21	0.12
P141	—	楕円形	0.15	0.12	0.11
P142	—	楕円形	0.29	0.17	0.11
P143	P164 を切る	円形	0.19	0.18	0.13
P144	—	楕円形	0.31	0.24	0.04
P145	—	楕円形	0.33	0.23	0.17
P146	—	楕円形	0.41	0.28	0.07
P147	—	楕円形	0.50	0.34	0.09
P148	—	楕円形	0.34	0.20	0.13
P149	—	円形	0.23	0.21	0.07
P150	—	円形	0.24	0.22	0.10
P151	—	楕円形	0.31	0.28	0.09
P152	—	楕円形	1.40	0.54	0.35
P153	P168 を切る	楕円形	0.66	0.47	0.17
P154	—	楕円形	0.16	0.14	0.08
P155	—	不整形	0.13	0.11	0.09
P156	—	楕円形	0.16	0.11	0.29
P157	—	円形	0.14	0.13	0.21
P158	—	楕円形	0.14	0.09	0.12
P159	—	楕円形	0.14	0.10	0.10
P160	—	楕円形	0.15	0.10	0.20
P161	—	楕円形	0.15	0.11	0.21
P162	—	楕円形	0.13	0.11	0.18
P163	—	楕円形	0.12	0.10	0.15
P164	P143 に切られる	楕円形	0.40	(0.31)	0.21
P165	—	楕円形	0.23	0.15	0.12
P166	—	楕円形	0.16	0.13	0.14
P167	—	円形	0.24	0.23	0.19
P168	P153 に切られる	楕円形	0.48	0.37	(0.14)
P169	—	楕円形	0.30	0.20	0.10
P170	—	楕円形	0.50	0.30	0.09
P171	—	楕円形	0.49	0.36	0.15
P172	—	楕円形	0.43	0.30	0.07
P173	—	楕円形	0.61	0.36	0.07
P174	—	楕円形	0.46	0.33	0.17
P175	—	楕円形	0.78	0.41	0.12
P176	—	楕円形	0.30	0.27	0.10

ビット針測定表(4)

装置名	非程箇所	平面形差	長軸長 (mm)	短軸長 (mm)	厚さ高 (mm)
P177	—	楕円形	1.05	0.49	0.13
P178	—	楕円形	0.69	0.43	0.13
P179	—	不整形	0.58	0.29	0.11
P180	—	楕円形	1.53	0.50	0.18
P181	—	楕円形	0.65	0.41	0.78
P182	—	楕円形	0.29	0.22	0.08
P183	—	楕円形	0.51	0.33	0.11
P184	—	楕円形	0.34	0.25	0.10
P185	—	楕円形	0.64	0.24	0.10
P186	—	—	—	—	(0.11)
P187	—	楕円形	0.27	0.21	(0.18)
P188	—	楕円形	0.41	0.35	0.17
P189	D16 に切られる	楕円形	(0.33)	0.28	0.15
P190	D16, P78 に切られる	—	(0.42)	0.55	0.17
P191	P78 に切られる	楕円形	0.74	0.38	0.06
P192	—	円形	0.28	0.27	0.07
P193	—	楕円形	0.66	0.46	0.12
P194	—	楕円形	0.16	0.11	0.08
P195	—	楕円形	0.15	0.12	0.09
P196	トレンチに切られる	楕円形	0.57	0.24	(0.11)
P197	—	楕円形	0.21	0.19	0.06
P198	—	楕円形	0.44	0.32	0.06
P199	—	円形	0.29	0.28	0.05
P200	トレンチに切られる	—	(0.64)	0.38	(0.16)
P201	—	楕円形	0.28	0.22	0.06
P202	—	楕円形	0.42	0.27	0.11
P203	—	楕円形	0.19	0.15	0.07
P204	—	不整形	0.76	0.31	0.19
P205	—	楕円形	0.52	0.31	0.12
P206	—	不整形	0.99	0.35	0.17
P207	—	楕円形	0.47	0.32	0.15
P208	—	円形	0.28	0.27	0.16
P209	—	円形	0.27	0.25	0.17
P210	—	円形	0.32	0.31	0.09
P211	—	楕円形	0.43	0.27	0.16
P212	—	楕円形	0.18	0.16	0.10
P213	—	楕円形	0.53	0.29	0.22
P214	D32 を切る	楕円形	0.44	0.31	0.20
P215	—	楕円形	0.21	0.16	0.11
P216	P219 を切る	楕円形	0.94	0.33	0.21
P217	—	楕円形	0.35	0.18	0.09
P218	D32 を切る	楕円形	0.51	0.37	0.12
P219	D32 を切る、P216 に切られる	楕円形	0.52	0.39	0.25
P220	—	楕円形	0.52	0.41	0.26
P221	—	楕円形	0.25	0.21	0.09
P222	—	楕円形	0.14	0.12	0.05
P223	—	不整形	0.85	0.36	0.15
P224	—	楕円形	0.34	0.25	0.08
P225	—	不整形	1.10	0.50	0.27
P226	—	楕円形	0.21	0.09	0.17
P227	—	楕円形	0.17	0.13	0.13
P228	—	楕円形	0.21	0.18	0.07
P229	—	円形	0.30	0.29	0.16
P230	—	楕円形	0.52	0.40	0.31
P231	—	楕円形	0.34	0.25	0.13
P232	—	楕円形	0.33	0.29	0.21
P233	—	楕円形	0.31	0.28	0.34
P234	—	不整形	0.31	0.23	0.17
P235	トレンチに切られる	楕円形	0.20	0.17	(0.04)
P236	トレンチに切られる	楕円形	0.30	0.24	(0.04)
P237	F3P6 に切られる	楕円形	0.78	0.44	(0.13)
P238	—	楕円形	0.46	0.38	0.08
P239	—	楕円形	0.55	0.45	0.12
P240	—	楕円形	0.98	0.47	0.22
P241	—	楕円形	1.15	0.56	0.17
P242	—	楕円形	0.31	0.24	0.09
P243	—	楕円形	0.40	0.25	0.10
P244	—	楕円形	0.24	0.21	0.09
P245	—	楕円形	0.30	0.28	0.08
P246	—	楕円形	0.27	0.21	0.08
P247	—	楕円形	0.33	0.29	0.14
P248	—	楕円形	0.41	0.34	0.18
P249	—	楕円形	0.94	0.48	0.09
P250	—	楕円形	0.54	0.47	0.07
P251	—	楕円形	0.83	0.50	0.04
P252	—	楕円形	0.29	0.17	0.08
P253	—	楕円形	0.39	0.34	0.06
P254	—	楕円形	0.48	0.41	0.15
P255	—	不整形	0.51	0.28	0.08
P256	—	楕円形	0.22	0.17	0.13

ピット針測表(5)

遺跡名	非視関係	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	壁残高(m)	遺跡名	非視関係	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	壁残高(m)
P257	-	楕円形	0.46	0.24	0.32	P297	-	不整形	0.80	0.50	0.31
P258	-	不整形	0.48	0.28	0.26	P298	-	楕円形	0.80	0.61	0.15
P259	-	楕円形	0.36	0.30	0.10	P299	-	楕円形	0.46	0.40	0.16
P260	-	楕円形	0.29	0.26	0.16	P300	-	楕円形	0.34	0.28	0.12
P261	-	楕円形	0.37	0.17	0.11	P301	-	楕円形	0.72	0.53	0.08
P262	-	楕円形	0.21	0.18	0.13	P302	-	楕円形	0.29	0.24	0.09
P263	-	楕円形	0.31	0.17	0.20	P303	-	楕円形	0.30	0.25	0.12
P264	-	不整形	1.95	0.37	0.17	P304	-	楕円形	0.39	0.32	0.17
P265	-	楕円形	0.39	0.30	0.25	P305	-	楕円形	0.53	0.29	0.21
P266	-	不整形	1.04	0.20	0.08	P306	トレンチに切られる	不整形	(0.72)	0.41	(0.22)
P267	-	楕円形	0.81	0.64	0.19	P307	-	楕円形	0.31	0.23	0.09
P268	トレンチに切られる	楕円形	0.19	0.13	(0.11)	P308	-	円形	0.45	0.44	0.20
P269	トレンチに切られる	楕円形	0.34	0.28	(0.11)	P309	-	楕円形	0.49	0.29	0.15
P270	トレンチに切られる	楕円形	0.27	0.24	(0.18)	P310	-	楕円形	0.35	0.31	0.07
P271	-	楕円形	0.23	0.17	0.16	P311	-	楕円形	0.45	0.36	0.07
P272	トレンチに切られる	楕円形	0.29	0.22	(0.06)	P312	-	楕円形	0.85	0.74	0.06
P273	-	不整形	0.29	0.23	0.20	P313	-	楕円形	0.26	0.19	0.36
P274	-	円形	0.29	0.28	0.04	P314	-	楕円形	0.36	0.25	0.15
P275	-	楕円形	0.34	0.28	0.08	P315	-	楕円形	0.20	0.17	0.07
P276	-	楕円形	0.34	0.23	0.08	P316	-	楕円形	0.21	0.18	0.06
P277	-	楕円形	0.33	0.24	0.09	P317	-	楕円形	0.21	0.17	0.11
P278	-	楕円形	0.25	0.17	0.08	P318	-	楕円形	0.30	0.22	0.06
P279	-	楕円形	0.23	0.20	0.07	P319	-	楕円形	0.64	0.39	0.11
P280	-	楕円形	0.60	0.37	0.04	P320	-	楕円形	0.26	0.22	0.44
P281	-	円形	0.23	0.23	0.07	P321	-	楕円形	0.25	0.17	0.08
P282	-	不整形	0.50	0.28	0.05	P322	-	楕円形	1.12	0.47	0.29
P283	-	楕円形	0.43	0.36	0.12	P323	不整形	不整形	(0.79)	0.58	0.20
P284	-	円形	0.15	0.14	0.36	P324	-	楕円形	0.83	0.68	0.19
P285	-	楕円形	0.29	0.27	0.10	P325	-	楕円形	0.43	0.37	0.13
P286	-	不整形	0.77	0.24	0.12	P326	-	楕円形	0.33	0.27	0.07
P287	-	楕円形	0.28	0.16	0.12	P327	トレンチに切られる	円形	0.25	0.23	(0.41)
P288	調査区に切られる	-	-	-	0.37	P328	-	楕円形	0.38	0.32	0.12
P289	-	楕円形	0.43	0.33	0.14	P329	-	不整形	1.14	0.49	0.15
P290	-	楕円形	0.31	0.26	0.29	P330	-	楕円形	1.11	0.64	0.37
P291	-	楕円形	0.45	0.33	0.14	P331	-	楕円形	0.40	0.34	0.10
P292	-	楕円形	0.36	0.21	0.10	P332	-	楕円形	0.36	0.29	0.14
P293	-	楕円形	0.83	0.43	0.23	P333	-	楕円形	0.29	0.25	0.10
P294	P323を切る	楕円形	1.00	0.48	0.21	P334	-	楕円形	0.33	0.24	0.18
P295	-	不整形	0.73	0.28	0.28	P335	D53を切る	楕円形	0.57	0.34	0.26
P296	-	不整形	0.62	0.38	0.08	P336	-	楕円形	0.37	0.33	0.29

ビット針測表(6)

遺構名	重埋関係	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	壁残高(m)	遺構名	重埋関係	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	壁残高(m)
P337	-	円形	0.25	0.23	0.20	P352	-	楕円形	0.17	0.15	0.10
P338	-	円形	0.23	0.22	0.08	P353	-	楕円形	0.18	0.14	0.07
P339	-	楕円形	0.37	0.29	0.21	P354	-	楕円形	0.50	0.31	0.08
P340	-	不整形	0.59	0.26	0.24	P355	-	円形	0.41	0.39	0.13
P341	-	楕円形	0.22	0.17	0.11	P356	-	楕円形	0.46	0.25	0.13
P342	-	楕円形	0.29	0.26	0.08	P357	-	不整形	0.69	0.17	0.15
P343	-	円形	0.31	0.31	0.19	P358	-	楕円形	0.29	0.24	0.13
P344	-	楕円形	0.19	0.16	0.11	P359	-	楕円形	0.29	0.24	0.09
P345	-	楕円形	0.37	0.33	0.13	P360	-	楕円形	0.35	0.53	0.45
P346	-	楕円形	0.26	0.21	0.20	P361	-	楕円形	0.59	0.39	0.14
P347	-	楕円形	0.35	0.31	0.13	P362	-	不整形	0.39	0.20	0.08
P348	-	楕円形	0.44	0.37	0.22	P363	-	楕円形	0.32	0.27	0.07
P349	-	楕円形	0.22	0.18	0.06	P364	-	楕円形	0.62	0.54	0.21
P350	-	楕円形	0.45	0.39	0.08	P365	-	楕円形	0.37	0.22	0.12
P351	-	円形	0.18	0.17	0.39						

H1号竪穴建物出土遺物調査表(1)

No.	器種	形状	法	位置	内面	外面	備考	出土部位
			口径(長)<底径(短)>高<厚>重量等					
1	土師器	杯	-	(6.8)	<1.5>	ナテ	回転実測	II区
2	土師器	碗	-	7.7	<2.8>	付高台	完全実測	P9
3	土師器	碗	-	7.8	<3.1>	付高台	完全実測	P9
4	土師器	小皿	(8.3)	4.0	1.8	方向不明回転糸切	完全実測	I区
5	土師器	小皿	8.3	4.6	1.7	右回転糸切	完全実測	No1
6	土師器	小皿	8.4	4.0	2.0	右回転糸切	完全実測	I区
7	土師器	小皿	-	(4.4)	<1.8>	右回転糸切	回転実測	II区
8	灰陶器	碗	-	-	-	施釉	破片実測	I区ホリ
9	土師器	羽釜	-	-	-	ナテ	破片実測	I区ホリ
10	土師器	壺	(11.6)	<2.5>	-	付高台、底部に環付着(右側として再利用か)	回転実測	P9
11	土師器	鍋	(15.2)	(11.0)	<10.6>	下部ケズリ、把手欠損	回転実測	I区
12	土師器	鍋	-	(12.4)	<1.8>	ハラケズリ	回転実測	II区
13	土師器	鍋	-	(14.0)	<3.4>	ナテ	回転実測	P9
14	須恵器	甕	-	-	<8.2>	ナテ、自然釉付着	回転実測	I、II、IV区
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	縄文山(R2)、中期後半	破片実測	拓本
16	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 P10
17	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 II区
18	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 I区
19	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 III区
20	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 P7
21	弥生土器	甕	-	-	条痕		破片実測	拓本 I区

H 1 号竪穴建物出土遺物調査表 (2)

No	器種	形状	法		量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短)	器高(厚)	重量等	重数等				
22	石器	砥石	<6.5>	<2.5>	<1.7>	<44.1>	一部欠損、砥面数6		完全未測	No2
23	石器	石鏝	2.7	2.2	0.7	4.2	チャート		完全未測	P8
24	石器	剥片	5.2	3.2	1.0	21.3	両側上部使用の削器か?、チャート		完全未測	P7

H 2 号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短)	器高(厚)	重量等	重数等				
1	土師器	杯	—	(5.6)	<1.3>	—	ロクロナデ	回転糸切	回転未測	IV区
2	土師器	杯	—	(6.0)	<1.8>	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転未測	IV区
3	灰輪陶器	碗	—	—	—	—	旋軸	旋軸	破片未測	IV区

H 3 号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短)	器高(厚)	重量等	重数等				
1	縄文土器	深鉢(尖底)	(26.4)	—	(28.0)	—	波状口縁、縄文[R(2)]による菱形構成、含磁維		回転未測	III区
2	石器	磨石	14.5	9.3	6.4	1025.8	全体に磨り		完全未測	IV区

H 4 号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		量		内面	外面	備考	出土層位
			口径(長) 底径(短)	器高(厚)	重量等	重数等				
1	縄文土器	深鉢	(13.0)	—	<27.3>	—	ナデ	R(L2)・R(R2)の羽状口縁、含磁維	回転未測	E区
2	縄文土器	深鉢	(14.4)	—	<23.5>	—	ナデ	縄文[L(2)0]段多、器内縁位菱形構成、波状凹口縁、穿孔あり(底部後)、含磁維	回転未測	N区
3	縄文土器	深鉢	(19.2)	—	<18.4>	—	ナデ	L(L2)・R(R2)の2本合わせ短輪筋帯体の菱形構成、波状凹口縁、含磁維	回転未測	E区
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	R(R2)短輪筋帯体、条痕、含磁維	破片未測、拓本	E区	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	L(L2)・R(R2)の2本合わせ短輪筋帯体、含磁維	破片未測、拓本	E区	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	条痕、含磁維	破片未測、拓本	E区	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	含磁維	破片未測、拓本	N区	
8	石器	打製石斧	10.2	9.1	3.5	356.0	礫面残る		完全未測	N区
9	石器	石鏝	<2.50>	<1.80>	<0.35>	<1.17>	黒曜石、片脚欠損		完全未測	E区
10	石器	石鏝未成品	4.2	2.1	0.9	7.36	チャート		完全未測	N区
11	石器	使用痕のある剥片	2.3	1.8	0.35	1.94	右側に使用痕、黒曜石		完全未測	N区
12	石器	剥片	5.0	3.5	1.3	28.69	石核?、チャート		完全未測	N区
13	石器	使用痕のある剥片	5.5	4.9	2.6	58.7	縁辺に使用痕		完全未測	N区
14	石器	使用痕のある剥片	5.7	7.5	1.7	75.2	縁辺に敲打痕		完全未測	覆土
15	石器	使用痕のある剥片	6.0	7.4	2.1	111.7	縁辺に敲打痕		完全未測	E区
16	石器	石核	5.9	9.1	6.0	437.0	礫面残る		完全未測	N区

F 1号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	弥生土器	甕	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	沈線文			破片実測、拓本 P2	

F 2号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	弥生土器	甕	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	条痕、金雲母多含			破片実測、拓本 P5	

F 3号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	弥生土器	甕	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	赤彩、縄文 R(L2)、沈線文			破片実測、拓本 P6W	

F 4号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	弥生土器	甕	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等				備	出土層位
2	弥生土器	甕			凹形浮文貼付、条痕			破片実測、拓本 P6W	
3	石器	石鏃	<1.8>	1.1	0.3	<0.47>	黒曜石、先端欠損	完全実測	P6
4	石器	石鏃未製品	2.1	1.7	0.7	2.4	黒曜石	完全実測	P6

D 1号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等				備	出土層位
2	縄文土器	深鉢			波状口縁、縄文 R(L2)、含鐵雜			破片実測、拓本 覆土	
					縄文 L(R2)、含鐵雜			破片実測、拓本 覆土	

D 2号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等				備	出土層位
					車輪跡系体 R(L2)+L(R2)の2本揃巻き?含鐵雜			破片実測、拓本 覆土	

D 3号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法	重量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	縄文土器	鉢	口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等				備	出土層位
					表面ともに横位沈線、表に縄文 R(L2) を加飾、後期加曾利 B 式			破片実測、拓本 覆土	

D 4号土坑出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		重	面			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重	内面		
1	弥生土器	甕	(29.0)	—	(8.8)	—	—	—	凹底実測、拓本 E	E
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
5	弥生土器	竇	—	—	—	—	—	—	凹底実測、拓本 No1	No1
6	弥生土器	竇	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
7	石器	石鏃	<1.6>	<1.2>	<0.35>	—	—	—	完全実測	覆土

D 5号土坑出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		重	面			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重	内面		
1	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土

D 7号土坑出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		重	面			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重	内面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 E	E
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
7	石器	打製石斧	9.3	4.5	0.9	43.86	—	—	完全実測	覆土
8	石器	石鏃未成器	3.2	1.7	0.8	3.75	黒曜石、中央に磨減痕小	—	完全実測	覆土

D 8号土坑出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		重	面			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重	内面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土
2	弥生土器	竇	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 覆土	覆土

D 10号土坑出土遺物総覧表

No	器種	形状	法		重	面			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重	内面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本 S	S
2	石器	石核	5.7	8.8	2.9	150.01	—	—	完全実測	S

D 17 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	R1(2)とL1(2)の2本合せ車輪格条体、含鐵雜		備	出土層位
							完全実測、拓本	E

D 21 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	縄文L(R2)、含鐵雜		備	出土層位
							完全実測、拓本	覆土

D 22 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	縄文R(L2)、含鐵雜		備	出土層位
2	縄文土器	深鉢	—	—	縄文R(L2)、含鐵雜		備	出土層位
3	石器	石鏃未成品	<1.55> <1.90>	<0.35>	黒曜石、上部欠損		完全実測	覆土
4	石器	石鏃未成品	2.2 1.7	0.4	1.11 黒曜石		完全実測	覆土
5	石器	石鏃未成品	2.4 2.9	0.6	2.31 黒曜石		完全実測	覆土

D 24 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位	
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	石器	石鏃	<2.45>	<1.40>	<0.35>	黒曜石、基部、先端欠損		完全実測	覆土

D 26 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	弥生土器	甕	—	—	比類文		備	出土層位
2	石器	石鏃	<1.6> <1.9>	<0.5>	黒曜石、先端、片脚欠損		完全実測、拓本	覆土
3	石器	石鏃	<2.3> <2.0>	<0.4>	黒曜石、片脚欠損		完全実測	W
4	石器	石刀	4.9 1.7	0.4	4.39 礫面残る、側刃に使用痕		完全実測	W

D 27 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位	
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面			
1	石器	石鏃	5.5	3.0	0.8	10.08	チャート	完全実測	N

D 28 尊土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法	重	成	形・調整	備考	出土層位
			□径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	縄文R(L2)、含鐵雜		備	出土層位
2	縄文土器	深鉢	—	—	縄文L(R2)、含鐵雜		備	出土層位
3	縄文土器	深鉢	—	—	肥厚口縁、縄文有が器面剥落、含鐵雜		備	出土層位
							完全実測、拓本	覆土

D 30 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文LR2)、含繊維				破片実測、拓本	覆土
2	石器	石礫未成品	2.6	1.8	0.4	223チャート				完全実測	覆土
3	石器	石礫未成品	3.0	3.1	1.0	7.74チャート				完全実測	覆土
4	石器	石礫未成品	3.5	3.1	1.1	12.23チャート				完全実測	覆土

D 32 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	石器	打製石斧	<7.7>	<5.0>	<1.0>	<38.6> 刃部欠損				完全実測	E
2	石器	台石	<11.9>	<6.3>	<4.4>	<51.20> 全面欠損、使用面1				完全実測	E

D 36 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文LR2)?、含繊維				破片実測、拓本	覆土

D 37 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	石器	石礫	<2.7>	<1.8>	<0.4>	<3.14> 片割欠損、チャート				完全実測	N

D 38 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文LR2)、含繊維				破片実測、拓本	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	肥厚口縁、縄文R(1)?、含繊維				破片実測、拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	単軸絡条体、R(2)、含繊維				破片実測、拓本	覆土
4	土師器?	坏?	—	—	—	器面摩滅		器面摩滅		破片実測、拓本	覆土
5	石器	使用痕のある剥片	5.2	2.2	1.3	10.87 黒曜石、縁辺に使用痕				完全実測	覆土

D 40 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	石器	石礫	2.6	1.6	0.5	1.97チャート				完全実測	S
2	石器	石礫未成品	4.1	2.3	0.9	8.56チャート				完全実測	S

D 42 号土坑出土遺物調査表

No	器種	形状	法		重量等	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)	器高(厚)		
1	石器	石礫未成品	2.7	2.0	0.8	<4.39>チャート				完全実測	覆土

D 43 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	石器	石鏡	2.8	1.4	0.4	(1.23)	先端欠損、チャート			完全実測	覆土

D 44 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 R(L2) による菱形構成、含鐵維			破片実測、拓本	覆土

D 45 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 R(L2)、L(R2) の菱形構成、含鐵維			破片実測、拓本	覆土

D 46 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁に横位階帯、L(R2)、R(L2) の 2 本合せ、単軸絡条体、焼成後穿孔 1ヶ所、含鐵維			破片実測、拓本	覆土
2	石器	石匙	<2.3>	<3.5>	<0.7>	<4.8>	右側欠損			完全実測	覆土
3	石器	石核	10.5	10.3	5.0	599.0	—			完全実測	覆土

D 50 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 R(L2)、L(R2) の羽状構成、羽状変換点と口唇部に棒状工具による刺突、含鐵維			破片実測、拓本	覆土

D 52 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈殿、棒状工具による刺突			破片実測、拓本	覆土
2	弥生土器	甗	—	—	—	—	条痕、金盃母合			破片実測、拓本	覆土

D 53 卑土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重厚等	調整	調整		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 R(L2)、含鐵維			破片実測、拓本	覆土

M2号溝出土土器観察表

No.	器 種	器 形	法		量	重 量	内 面		外 面		備 考	出 土 層 位
			口径(長)	底径(短)			器高(厚)	重 量	内 面	外 面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	肥厚口縁、波状、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	I区
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	波状口縁、縄文あるが器面剥落、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	I区
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文LR2)、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	肥厚口縁、縄文あるが器面剥落、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	I区
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	肥厚口縁、縄文あるが器面剥落、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	I区
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	肥厚口縁、縄文あるが器面剥落、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	I区
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口内面取、縄文あるが器面剥落、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文LR2)、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	II区
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文LR2)、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	II区
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	黒輪帯状体R(2) + Lr(2)の2本脚巻き、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	II区
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文LR2)、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	II区
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文LR2)、含繊維	—	—	—	破片実測、拓本	II区
13	石器	打製石斧	<9.8>	<5.2>	<1.1>	<70.05>	基部～右側欠損、礫面残	—	—	—	完全実測	II区
14	石器	石鏃	<2.0>	<1.5>	0.4	<1.03>	黒曜石、先端、基部欠損	—	—	—	完全実測	II区
15	石器	石鏃	<2.0>	1.6	0.4	<1.35>	黒曜石、先端欠損	—	—	—	完全実測	II区
16	石器	石鏃	<2.0>	1.9	0.4	<1.30>	黒曜石、先端欠損	—	—	—	完全実測	II区
17	石器	石鏃	2.3	1.8	0.6	1.79	黒曜石、完形	—	—	—	完全実測	II区
18	石器	石鏃	2.7	2.1	0.5	2.15	チャート、完形	—	—	—	完全実測	II区
19	石器	石鏃未成品	3.3	2.5	1.1	9.89	チャート	—	—	—	完全実測	II区
20	石器	石鏃未成品	3.3	2.6	1.2	11.79	チャート	—	—	—	完全実測	I区
21	石器	石鏃未成品	4.9	4.1	1.3	24.17	チャート	—	—	—	完全実測	覆土
22	石器	石鏃	<3.4>	<2.8>	<0.8>	<6.55>	チャート、片端欠損	—	—	—	完全実測	II区

ピット出土土器観察表

No.	器 種	器 形	法		量	重 量	内 面		外 面		備 考	出 土 層 位
			口径(長)	底径(短)			器高(厚)	重 量	内 面	外 面		
1	石器	磨石	<9.4>	<2.2>	<41.95>	全周欠損、磨面1	—	—	—	—	完全実測	P1
1	土師器	羽釜	—	—	—	ナデ	—	ナデ	—	—	破片実測、拓本	P2
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P24
1	土師器	羽釜	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P26
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P27
1	石器	石鏃	<1.80>	<1.70>	<0.35>	<0.68>	先端、片端欠損	—	—	—	完全実測	P99
1	石器	石鏃未成品	1.70	1.20	0.35	0.67	—	—	—	—	完全実測	P230
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P241
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P249
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	P249
1	石器	二次加工のある剥片	2.0	0.9	0.7	1.51	黒曜石、正面に二次加工	—	—	—	完全実測	P324
1	石器	台石	<20.0>	<22.3>	<10.5>	<6500>	上部～右側欠損、正面に磨面	—	—	—	完全実測	P343

遺構外出土縄文土器総覧表(1)

No	器種	器形	法		重	成	形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)					
1	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	<2.1>	—	中層初頭	回転実測、拓本	ケンS
2	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	<6.4>	—	—	回転実測、拓本	II D1
3	縄文土器	深鉢	—	—	<3.7>	—	—	回転実測、拓本	V B3ケン
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B3ケン
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケンS
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	I F2
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II D1
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II E1
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケンS
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	Z
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II D1
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B3
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B3
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V C5
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4ケン
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケンS
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケン中
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	Z
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	Z
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II C1
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケンN
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B5
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V C4
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B5
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B5ケン
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II C1
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケンS
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II E1
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B5
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B4
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	V B5
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II C1
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II D1
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	II E2

遺構外出土土器総覧表(2)

No	器種	器形	法		量	成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)				
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	単軸格条体 R(R2) + L(R2) の 2 本揃置き、含繊維	破片実測、拓本	II E2
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文 L(R2)、含繊維	破片実測、拓本	V C5
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文 L(R2)、R(L2) による羽状輪成、含繊維	破片実測、拓本	ケン中
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文 L(R2)、含繊維、尖底部	破片実測、拓本	V B5
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	縄文 L(R2)、含繊維	破片実測、拓本	II D1
45	縄文土器	把手	—	—	—	縄文 L(R2)	破片実測、拓本	ケン中

遺構外出土弥生土器総覧表

No	器種	器形	法		量	成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)				
1	弥生土器	甕	—	—	—	縄文 L(R2)	破片実測、拓本	IV D5
2	弥生土器	甕	—	—	—	縄文 L(R2)	破片実測、拓本	V C5
3	弥生土器	甕	—	—	—	口唇部に刻目、条線	破片実測、拓本	ケン S
4	弥生土器	甕	—	—	—	沈線文	破片実測、拓本	V B5
5	弥生土器	甕	—	—	—	沈線文	破片実測、拓本	ケン中
6	弥生土器	甕	—	—	—	条痕	破片実測、拓本	IV D2
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケン N
8	弥生土器	甕	—	—	—	柳摺	破片実測、拓本	V D5
9	弥生土器	甕	3.4	—	<2.1>	折返口縁、縄文 L(R2)	完全実測	II E1
10	弥生土器	甕	—	5.6	<4.4>	ヘラナデ、摩耗	—	V B5
11	弥生土器	甕	—	—	—	沈線文	破片実測、拓本	V B5
12	弥生土器	甕	—	—	—	縄文 R(L2)、沈線	破片実測、拓本	V B4

遺構外出土土師器総覧表

No	器種	器形	法		量	成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)				
1	土師器	坏	—	(6.6)	(1.7)	ロクロナデ	回転実測	II D1
2	土師器	坏	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片実測	II C1
3	土師器	坏?	—	—	—	ロクロナデ	破片実測	I F2
4	土師器	碗	—	7.2	<2.5>	ミガキ→黒色処理	完全実測	V C5
5	土師器	碗	—	(8.2)	(1.7)	ミガキ?→黒色処理	回転実測	V C4
6	土師器	碗	—	—	(2.0)	黒色処理	回転実測	V B5
7	土師器	土師皿	(11.2)	—	(1.6)	ロクロナデ	回転実測	II C1
8	土師器	高坏	—	—	(5.6)	ナデ?	回転実測	V C5
9	土師器	甕	—	—	—	ナデ	甲斐型、ハケメ	ケン N
10	土師器	甕	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ→ナデ	V B4

遺構外出土銅器観察表

No	器種	器形	法		量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等					
1	須臾器	坏	—	(7.0)	<1.1>	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測		V C4
2	須臾器	坏蓋	(15.4)	—	(2.5)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測		V B5
3	須臾器	環	—	—	—	—	ナデ	平行叩目→ナデ	破片実測、拓本		II E2
4	須臾器	竈	—	—	(2.3)	—	ロクロナデ	右回転糸切→付高台(高台欠損)	回転実測		V B4

遺構外出土陶器観察表

No	器種	器形	法		量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等					
1	灰釉陶器	碗	—	(8.6)	<2.8>	—	ロクロナデ	ロクロナデ、付高台	回転実測		II E2
2	灰釉陶器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ、施軸	付高台、施軸	破片実測		II C1
3	灰釉陶器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ、施軸	付高台、施軸	回転実測		V A3
4	鉄釉陶器	碗	—	5.4	<1.7>	—	施軸	回転ヘラケズリ→付高台	完全実測		II E1
5	陶器	皿	(14.0)	(7.6)	(2.5)	—	ロクロナデ、施軸	削出高台、ロクロナデ、施軸	回転実測		V A3
6	陶器	皿	—	—	—	—	ロクロナデ、施軸	ロクロナデ、施軸	破片実測、中世		V C4
7	陶器	甕	—	—	<0.9>	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測		II E1
8	陶器	?	—	—	—	—	—	—	破片実測、拓本		II E2
9	青磁	碗	—	—	—	—	施軸	蓮弁文、施軸	破片実測		V B5
10	青磁	碗	—	—	—	—	沈殿、施軸	施軸	破片実測		II E1
11	青磁	碗	—	—	—	—	施軸	蓮弁文、施軸	破片実測		II E2
12	青磁	碗	—	—	—	—	沈殿、施軸	施軸	破片実測		II D1

遺構外出土金属器観察表

No	器種	器形	法		量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等					
1	鉄器	刀子	<5.1>	<1.5>	<0.4>	<8.29>	両端欠損	—	—	完全実測	II E1
2	鉄器	短頭鎌	<5.1>	1.9	0.7	<8.7>	頭部欠損	—	—	完全実測	ケンS
3	鉄製品	角釘	<1.9>	<0.6>	<0.6>	<0.72>	先端欠損	—	—	完全実測	ケンS
4	鉄製品	角釘	<3.6>	<0.7>	<0.6>	<2.67>	頭部、先端欠損	—	—	完全実測	V C5
5	鉄製品	角釘	<3.7>	<0.6>	<0.65>	<1.77>	先端欠損	—	—	完全実測	ケンS
6	鉄製品	角釘	<3.9>	<0.6>	<0.6>	<5.18>	頭部、先端欠損	—	—	完全実測	V B5
7	鉄製品	角釘	<3.9>	<0.65>	<0.65>	<1.83>	先端欠損	—	—	完全実測	ケンS
8	鉄製品	角釘	4.0	0.8	0.5	3.53	—	—	—	完全実測	V B5
9	鉄製品	角釘	<4.55>	<0.9>	<0.8>	<4.12>	先端欠損	—	—	完全実測	ケンS
10	鉄製品	角釘	<5.6>	<1.0>	<1.0>	<5.36>	先端、他欠損	—	—	完全実測	ケンS
11	鉄製品	角釘	7.5	0.9	1.0	<9.61>	一部欠損	—	—	完全実測	ケンS
12	鉄器	錘	<7.3>	<2.9>	<1.9>	<155.13>	片側欠損	—	—	完全実測	ケンS
13	鉄器	撃	10.6	2.3	1.3	<85.21>	一部欠損	—	—	完全実測	ケン
1	銅製品	占錢	<2.4>	<1.8>	<0.1>	<1.82>	φ 2.4、約 1/2 欠損	—	—	完全実測	II D1
2	銅製品	不明	<3.35>	<2.20>	<0.15>	<3.18>	下辺以外欠損	—	—	完全実測	V B5

遺構外出土石器調査表(1)

No.	器具	形状	法	量	重等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	石器	石鏃	<1.10>	1.40	0.30	<0.27>先端欠損			完全表測	V B4
2	石器	石鏃	<1.30>	<1.80>	<0.35>	<0.85>先端欠損			完全表測	V B3
3	石器	石鏃	<1.45>	1.02	0.40	<0.52>先端欠損			完全表測	V B5
4	石器	石鏃	<1.50>	<1.50>	<0.45>	<0.72>黒曜石、先端と両脚欠損			完全表測	ケン
5	石器	石鏃	<1.50>	<2.10>	<0.40>	<1.42>上部欠損			完全表測	V C5
6	石器	石鏃	<1.55>	<1.05>	<0.40>	<0.40>黒曜石、片脚のみ残存			完全表測	ケンN
7	石器	石鏃	1.55	1.20	0.25	0.44			完全表測	Z
8	石器	石鏃	<1.55>	<1.20>	<0.40>	<0.54>基部欠損			完全表測	V C5
9	石器	石鏃	<1.65>	1.65	0.40	<0.80>先端～側面欠損			完全表測	II E2
10	石器	石鏃	<1.70>	1.80	0.40	<1.09>先端欠損			完全表測	II D1
11	石器	石鏃	<1.80>	<1.35>	<0.30>	<0.61>基部欠損			完全表測	V C5
12	石器	石鏃	1.85	1.30	0.45	0.65 黒曜石			完全表測	V B5
13	石器	石鏃	<1.85>	<1.35>	<0.40>	<0.79>片脚欠損			完全表測	Z
14	石器	石鏃	1.85	1.40	0.35	0.64			完全表測	V B4
15	石器	石鏃	1.90	1.50	0.35	0.79 黒曜石			完全表測	V B5
16	石器	石鏃	<1.95>	1.40	0.40	<0.94>先端欠損			完全表測	II E2
17	石器	石鏃	<2.00>	<1.40>	<0.45>	<0.98>上部～片脚欠損			完全表測	ケンN
18	石器	石鏃	<2.00>	<1.55>	<0.45>	<1.07>片脚欠損			完全表測	V A3
19	石器	石鏃	2.00	1.60	0.30	0.89 黒曜石			完全表測	V B5
20	石器	石鏃	2.00	1.65	0.40	1.19			完全表測	ケン中
21	石器	石鏃	<2.00>	<1.85>	<0.35>	<0.96>先端、片脚欠損			完全表測	IV E5
22	石器	石鏃	<2.05>	<2.05>	<0.50>	<1.81>黒曜石、両脚欠損			完全表測	V C4
23	石器	石鏃	2.05	1.20	0.40	0.59			完全表測	V A2
24	石器	石鏃	<2.10>	1.70	0.40	<1.17>先端欠損			完全表測	Z
25	石器	石鏃	2.15	1.65	0.40	0.97			完全表測	Z
26	石器	石鏃	<2.15>	<2.15>	<0.50>	<1.81>黒曜石、先端と片脚欠損			完全表測	ケン
27	石器	石鏃	<2.20>	<1.60>	<0.35>	<1.08>片脚欠損			完全表測	V B5
28	石器	石鏃	<2.20>	<1.60>	<0.35>	<1.12>片脚欠損			完全表測	V B3
29	石器	石鏃	2.20	1.60	0.40	1.06 黒曜石			完全表測	V B4
30	石器	石鏃	2.20	1.60	0.40	1.20			完全表測	V B4
31	石器	石鏃	2.20	1.60	0.45	1.04			完全表測	Z
32	石器	石鏃	<2.20>	<1.70>	0.30	<1.19>先端、脚先端欠損			完全表測	II D1
33	石器	石鏃	<2.25>	<1.65>	<0.35>	<1.12>片脚欠損			完全表測	II E2
34	石器	石鏃	<2.25>	<1.70>	<0.40>	<1.18>黒曜石、基部欠損			完全表測	V B5
35	石器	石鏃	<2.30>	<1.60>	<0.40>	<1.27>片脚欠損			完全表測	V C5
36	石器	石鏃	<2.30>	<1.65>	0.35	<1.11>			完全表測	Z
37	石器	石鏃	<2.30>	<2.30>	1.75	0.35	<1.17>黒曜石、先端欠損		完全表測	V B4
38	石器	石鏃	<2.30>	1.80	0.45	<1.39>先端欠損			完全表測	V B5
39	石器	石鏃	2.30	1.80	0.50	1.59			完全表測	I D2

遺構外出土石鑑録表(2)

No.	器 種	形 式	法 口径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	内 面	成 形・調 整	外 面	備 考	出土層位
40	石器	石鏃	2.30	1.90	0.45	1.62	—	完全表測	V B3
41	石器	石鏃	2.35	1.60	0.40	1.12	—	完全表測	ケンS
42	石器	石鏃	<2.35>	<1.65>	<0.40>	<1.27>	片脚欠損	完全表測	ケンS
43	石器	石鏃	<2.40>	<1.40>	<0.55>	<1.11>	両脚～裏面欠損	完全表測	Z
44	石器	石鏃	<2.40>	<1.90>	<0.50>	<1.67>	片脚欠損	完全表測	V C4
45	石器	石鏃	2.45	1.50	0.35	0.92	—	完全表測	V B2
46	石器	石鏃	<2.45>	<1.50>	<0.55>	<1.89>	黒曜石、下部欠損	完全表測	ケン
47	石器	石鏃	<2.50>	<1.50>	0.40	<1.51>	先端、片脚欠損	完全表測	V B5
48	石器	石鏃	2.55	1.40	0.60	1.21	—	完全表測	V B3
49	石器	石鏃	<2.60>	<1.80>	0.40	<1.76>	脚先端欠損	完全表測	II D1
50	石器	石鏃	<2.70>	<1.70>	<0.40>	<1.60>	両脚欠損	完全表測	V B4
51	石器	石鏃	<2.70>	<2.05>	<0.45>	<2.11>	片脚欠損	完全表測	II E2
52	石器	石鏃	<2.75>	<1.90>	<0.60>	<2.50>	片脚欠損	完全表測	V B3
53	石器	石鏃	2.80	1.70	0.45	1.72	—	完全表測	ケンS
54	石器	石鏃	<2.85>	<1.80>	<0.45>	<1.89>	黒曜石、右側欠損	完全表測	V B4
55	石器	石鏃	2.85	2.00	0.50	2.04	—	完全表測	V A3
56	石器	石鏃	<3.25>	<2.10>	<0.60>	<3.65>	先端、片脚欠損	完全表測	V B4
57	石器	石鏃	3.30	1.80	0.60	3.34	左側～裏面欠損後再生か	完全表測	V B4
58	石器	石鏃	<3.50>	<2.00>	<0.35>	<2.38>	先端、脚部欠損	完全表測	II E2
59	石器	石鏃未成品	1.90	1.60	0.50	1.43	—	完全表測	V B3
60	石器	石鏃未成品	2.00	1.55	0.50	1.21	—	完全表測	Z
61	石器	石鏃未成品	2.00	1.95	0.55	2.03	—	完全表測	V B5
62	石器	石鏃未成品	2.00	2.00	0.50	1.82	—	完全表測	ケン
63	石器	石鏃未成品	2.10	2.20	0.60	1.53	黒曜石、自然面残る	完全表測	V B4
64	石器	石鏃未成品	2.15	1.35	0.45	0.76	黒曜石	完全表測	ケン
65	石器	石鏃未成品	2.15	1.90	0.50	1.74	—	完全表測	ケン
66	石器	石鏃未成品	2.30	1.70	0.80	3.10	黒曜石	完全表測	ケン
67	石器	石鏃未成品	2.40	1.55	0.45	1.74	—	完全表測	V B5
68	石器	石鏃未成品	2.40	2.15	0.65	2.75	黒曜石	完全表測	V B5
69	石器	石鏃未成品	2.40	2.20	0.60	3.11	—	完全表測	II E2
70	石器	石鏃未成品	2.40	2.40	0.70	4.17	—	完全表測	V B2
71	石器	石鏃未成品	<2.45>	<1.75>	<0.35>	<1.45>	—	完全表測	ケンS
72	石器	石鏃未成品	2.50	1.85	0.55	2.75	—	完全表測	V B5
73	石器	石鏃未成品	2.50	2.20	1.00	5.17	—	完全表測	ケンS
74	石器	石鏃未成品	2.60	2.15	0.55	2.61	—	完全表測	ケンN
75	石器	石鏃未成品	2.60	2.00	0.70	3.05	黒曜石	完全表測	ケン
76	石器	石鏃未成品	2.65	2.10	0.80	3.64	—	完全表測	II E1
77	石器	石鏃未成品	2.65	2.50	0.65	4.46	—	完全表測	ケン
78	石器	石鏃未成品	2.70	1.80	0.85	3.26	—	完全表測	V D5
								完全表測	IV E4

遺構外出土石器観察表(3)

No	器種	器形	法量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)					
79	石器	右灘未成品	2.70	1.90	0.65	2.80	—	—	完全未調	V B5
80	石器	右灘未成品	2.70	2.15	0.80	6.04	—	—	完全未調	V B3
81	石器	右灘未成品	2.75	2.60	0.90	6.45	—	—	完全未調	V C4
82	石器	右灘未成品	2.75	3.10	0.85	6.50	—	—	完全未調	V B3
83	石器	右灘未成品	2.80	1.85	0.60	2.90	—	—	完全未調	V C5
84	石器	右灘未成品	2.85	2.30	0.65	3.93	—	—	完全未調	V B4
85	石器	右灘未成品	2.85	1.85	0.70	3.44	黒曜石	—	完全未調	ケンS
86	石器	右灘未成品	2.85	2.50	0.60	4.07	—	—	完全未調	ケンS
87	石器	右灘未成品	2.90	2.25	0.85	5.86	—	—	完全未調	V C5
88	石器	右灘未成品	2.90	2.55	0.70	4.39	—	—	完全未調	ケンS
89	石器	右灘未成品	2.90	2.30	1.00	7.17	—	—	完全未調	II E1
90	石器	右灘未成品	3.00	1.90	0.40	2.97	—	—	完全未調	V C5
91	石器	右灘未成品	<3.29>	<2.00>	<0.65>	<3.29>	片脚欠損	—	完全未調	V B5
92	石器	右灘未成品	3.00	2.10	1.00	7.78	筋理面残	—	完全未調	V C5
93	石器	右灘未成品	3.00	2.90	1.00	9.08	—	—	完全未調	V B3
94	石器	右灘未成品	3.05	2.80	0.85	6.00	—	—	完全未調	V B3
95	石器	右灘未成品	3.10	2.10	0.85	5.16	—	—	完全未調	V B4
96	石器	右灘未成品	3.10	2.30	0.85	5.84	—	—	完全未調	V C5
97	石器	右灘未成品	3.10	2.55	0.90	5.36	黒曜石	—	完全未調	V B5
98	石器	右灘未成品	3.15	2.65	0.75	6.45	—	—	完全未調	ケン
99	石器	右灘未成品	3.20	2.30	0.60	4.48	—	—	完全未調	II C1
100	石器	右灘未成品	3.25	2.55	1.20	7.70	—	—	完全未調	V B3
101	石器	右灘未成品	3.30	2.40	1.00	8.04	—	—	完全未調	V B3
102	石器	右灘未成品	3.30	3.00	1.30	12.05	筋理面残	—	完全未調	V C5
103	石器	右灘未成品	3.40	2.50	0.80	6.74	—	—	完全未調	ケンS
104	石器	右灘未成品	3.40	2.60	0.90	6.24	—	—	完全未調	V B3
105	石器	右灘未成品	3.40	3.20	1.20	14.49	—	—	完全未調	V C5
106	石器	右灘未成品	3.50	2.30	1.05	9.29	—	—	完全未調	Z
107	石器	右灘未成品	3.55	3.00	1.30	11.52	—	—	完全未調	V B4
108	石器	右灘未成品	3.60	3.00	0.95	11.11	—	—	完全未調	V B4
109	石器	右灘未成品	3.60	3.10	1.00	10.30	—	—	完全未調	V B4
110	石器	右灘未成品	3.60	3.10	1.30	12.50	—	—	完全未調	V B3
111	石器	右灘未成品	3.65	2.55	0.90	8.39	—	—	完全未調	II E2
112	石器	右灘未成品	3.80	2.90	1.15	14.47	—	—	完全未調	V C5
113	石器	右灘未成品	3.80	2.95	0.90	12.28	—	—	完全未調	V B3
114	石器	右灘未成品	3.85	3.10	1.25	14.37	—	—	完全未調	II E2
115	石器	右灘未成品	3.90	2.50	0.90	10.45	—	—	完全未調	V B5
116	石器	右灘未成品	4.05	2.75	1.00	11.40	—	—	完全未調	V B5
117	石器	右灘未成品	4.10	3.20	0.85	10.50	—	—	完全未調	Z

遺構外出土石器類数表(4)

No	器種	器形	法		重量	内面	外形・調整	外面	備考	出土層位
			□ 口径(長)	底径(短)						
118	石器	石鏃未成品	4.20	3.00	1.10	14.71			完全未測	V A2
119	石器	石鏃未成品	4.20	3.20	1.00	13.07			完全未測	II C1
120	石器	石鏃未成品	4.30	3.20	1.20	13.68			完全未測	ケン S
121	石器	石槍	4.40	1.70	0.75	6.50			完全未測	ケン W
122	石器	石鏃	<5.35>	<3.10>	<1.00>	<18.39>	上部欠損		完全未測	V C5
123	石器	石鏃	<1.40>	<0.80>	<0.40>	<0.38>	黒曜石、上部欠損		完全未測	V B4
124	石器	石鏃	2.00	1.80	0.60	1.62			完全未測	V B5
125	石器	石鏃	<2.15>	<1.15>	<0.45>	<1.05>	黒曜石、先端欠損		完全未測	V B4
126	石器	石鏃	2.20	1.15	0.40	1.07			完全未測	V B3
127	石器	石鏃	<2.30>	<1.80>	<0.50>	<1.65>	黒曜石、先端欠損		完全未測	II A2
128	石器	石鏃	2.40	1.30	0.55	1.71			完全未測	V B4
129	石器	石鏃	<2.50>	<1.60>	<0.50>	<1.96>	上部欠損		完全未測	II C1
130	石器	石鏃	<2.60>	<2.60>	<0.80>	<4.88>	先端欠損		完全未測	IV E3
131	石器	石鏃	<2.60>	<0.90>	<0.45>	<1.00>	上部欠損		完全未測	V B5
132	石器	石鏃	<2.70>	<1.30>	<0.65>	<2.57>	上部欠損		完全未測	V C5
133	石器	石鏃	2.75	0.95	0.50	1.19			完全未測	V B5
134	石器	石鏃	2.80	1.40	0.50	2.12			完全未測	II E2
135	石器	石鏃	2.85	1.20	0.40	1.50			完全未測	V C5
136	石器	石鏃	3.20	1.20	0.80	2.60			完全未測	IV D1
137	石器	石鏃	3.70	1.10	0.60	1.93			完全未測	Z
138	石器	石鏃	3.85	1.20	0.70	3.23			完全未測	V C4
139	石器	石鏃	4.05	1.10	0.45	1.59			完全未測	V D5
140	石器	石鏃	<2.20>	<4.15>	<0.90>	<7.06>	つまみ欠損		完全未測	V C5
141	石器	石匙	<2.40>	<2.10>	<0.75>	<3.80>	片側欠損		完全未測	II E2
142	石器	石匙	2.90	4.00	0.55	5.16			完全未測	V B4
143	石器	石匙	3.50	5.50	0.90	13.71			完全未測	V B5
144	石器	石匙	3.70	5.50	0.90	10.70			完全未測	V B5
145	石器	石匙	3.90	4.30	0.90	11.43			完全未測	ケン S
146	石器	打製石斧	<4.70>	<7.10>	<1.20>	<44.91>	刃部のみ残存		完全未測	V B5
147	石器	打製石斧	<5.20>	<4.20>	<0.70>	<24.23>	基部のみ残存、摩耗している		完全未測	II E1
148	石器	打製石斧	<6.10>	<4.90>	<1.60>	<50.34>	下部欠損		完全未測	V C5
149	石器	打製石斧	<5.70>	<5.80>	<0.80>	<24.52>	刃部のみ残存、摩耗あり		完全未測	II E2
150	石器	打製石斧	<7.10>	<4.00>	<1.60>	<51.17>	基部のみ残存		完全未測	V B4
151	石器	打製石斧	<9.30>	<7.50>	<2.10>	<197.44>	刃部欠損		完全未測	V B5
152	石器	打製石斧	<9.60>	<4.60>	<1.30>	<76.51>	刃部欠損、両側に潰れ痕、摩滅あり		完全未測	V B2
153	石器	打製石斧	<10.10>	<5.70>	<1.60>	<95.69>	一部欠損、刃部に摩滅あり		完全未測	IV D2
154	石器	打製石斧	<10.20>	<5.90>	<1.70>	<126.46>	刃部欠損		完全未測	V A4
155	石器	打製石斧	<10.30>	<8.20>	<2.40>	<264.55>	自然面残		完全未測	Z
156	石器	打製石斧	<10.70>	<5.70>	<1.50>	<105.40>	一部欠損、刃部に摩滅あり		完全未測	II E1

遺構外出土石器観察表(5)

No	器 種	器 形	法	重 量	成 形・調 整	備 考	出土 層位
			□径(長)・底径(短)・器高(厚)	重量等	内 面	外 面	
157	石器	打製石斧	10.80	4.90	1.30	87.35<刃部に磨減あり	V C5
158	石器	打製石斧	10.80	5.60	1.50	112.22<自然面残る	V C4
159	石器	打製石斧	<10.80>	<6.20>	<1.40>	<118.61>基部欠損、摩耗	V B5
160	石器	打製石斧	10.90	5.60	1.50	80.48<自然面残る	V C4
161	石器	打製石斧	<11.10>	<5.40>	<1.30>	<104.45>基部、刃部欠損	II E2
162	石器	打製石斧	11.20	7.40	2.90	272.31	V C5
163	石器	打製石斧	<11.50>	<8.60>	<2.30>	<321.11>下部欠損、自然面残る	ケン中
164	石器	打製石斧	11.50	10.40	2.80	390.96<刃部の厚減顯著	V B2
165	石器	打製石斧	12.40	5.80	2.40	171.95<自然面残る	V C4
166	石器	打製石斧	12.60	6.00	2.10	171.82	V B5
167	石器	打製石斧	<13.30>	<8.60>	<1.70>	<275.76>刃部欠損	II C1
168	石器	楕円型石器	4.30	9.00	2.30	82.25	V B5
169	石器	楕円型石器	5.10	8.10	1.80	73.05<自然面残る	ケンN
170	石器	楕円型石器	5.50	5.65	1.35	53.73<磨耗あり	V B4
171	石器	楕円型石器	6.20	7.60	2.90	125.90<自然面残る	V B3
172	石器	楕円型石器	6.40	8.90	1.70	113.50<正裏に自然面残る	II E2
173	石器	楕円型石器	7.60	7.80	1.60	97.67<自然面残る	V B5
174	石器	楕型石器	2.30	1.50	0.60	2.15<黒曜石	II E2
175	石器	楕型石器	2.90	2.10	1.10	5.62<黒曜石	V C5
176	石器	スケレイパー	2.10	2.40	1.00	5.40<黒曜石	V C4
177	石器	スケレイパー	3.15	5.40	1.10	19.45	V C4
178	石器	削刃	2.20	1.95	0.75	2.98<黒曜石	V C5
179	石器	石刃	3.25	1.20	0.45	1.28<黒曜石	V B4
180	石器	石刃	2.60	2.30	0.80	10.60<自然面残る	V C5
181	石器	二次加工のある剥片	2.90	3.80	0.25	4.23<正裏に擦痕、条痕あり	V A4
182	石器	使用痕のある剥片	3.10	6.00	1.10	19.33<縁辺に使用痕	ケンS
183	石器	二次加工のある剥片	3.60	2.00	1.10	7.01<黒曜石、自然面残る	V D5
184	石器	二次加工のある剥片	5.50	3.50	1.10	19.63	V B4
185	石器	石核	5.70	4.30	1.90	48.88<節理面残る	Z
186	石器	石核	7.00	4.80	3.20	139.32<自然面残る	Z
187	石器	磨石	<5.50>	<3.15>	<5.30>	<52.89>全周~裏面欠損、磨面1	V B4
188	石器	磨石	<7.40>	<5.40>	<5.10>	<176.42>側~裏面欠損、磨面2	II E2
189	石器	磨石	7.40	4.70	2.90	103.59<上下端部、左側に潰れ状の敲打痕	IV E5
190	石器	砧石	<19.50>	<17.50>	<5.30>	<2024.00>上部欠損、使用面1	V B4
191	石器	砧石	<6.80>	<4.50>	<1.80>	<94.33>上部欠損、砥面数4	II A2
192	石器	砥石	7.60	8.30	2.60	185.54<自然面残る	ケンN
193	石器	砥石	<10.10>	<6.20>	<3.40>	<339.65>上下欠損、砥面数1	Z
194	石製品	白玉	<1.60>	<0.95>	<0.85>	<1.00>孔径不明、約1/2欠損	ケン中
195	石製品	碧玉	1.60	1.50	3.50	12.10<孔φ0.5、両端から穿孔	ケン中
							H3E

IV 自然科学分析

小山崎遺跡出土遺物自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

<目次>

はじめに

1. 試料

2. 分析方法

(1) 樹種同定

(2) 放射性炭素年代測定

3. 結果

(1) 樹種同定

(2) 放射性炭素年代測定

4. 考察

引用文献

<表・図・図版>

表 1 分析試料一覧・樹種同定結果

表 2 放射性炭素年代測定結果

図 1 暦年校正結果

図版 1 炭化材

はじめに

今回の分析調査は、佐久市内の小山崎遺跡から出土した土器付着炭化物の年代測定を行う。また、西一本柳遺跡から出土した炭化材の樹種同定と年代測定を実施する。さらに、西八日町遺跡から検出された櫛の木片について、樹種同定と放射性炭素年代測定を実施する。

1. 試料

分析試料の一覧を、樹種同定結果とともに表 1 に示す。分析試料のうち、小山崎遺跡の土器付着炭化物 No.1 は、色調からみて炭素の割合は高いが、試料が微量である。このため、炭素の損耗を防ぐ目的で前処理を実施していない。また、No.3 は、色調が暗褐色で、炭素の濃度が少ないことから、アルカリの濃度を薄くした処理を実施する。西一本柳遺跡の炭化材 2 点は、量が多く、樹種同定ならびに放射性炭素年代測定双方の分析が可能である。西八日町遺跡の木片であるが、微細で木材組織が確認できないため、樹種同定はできなかった。すべての試料を年代測定に使用したが、試料が少ないことから、アルカリの濃度を薄くした処理を実施する。

2. 分析方法

(1) 樹種同定

炭化材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 割断面を作成する。双眼実体顕微鏡、電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

(2) 放射性炭素年代測定

炭化材は周囲を削り落として土などの不純物を取り除き、50mg 程度に調整する。土器付着炭化物は実体顕微鏡

で観察し、不純物を取り除いて分析用試料とする。生材は微量であるため、全てを分析用試料とする。塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。ただし、少ない試料に関しては、試料の損耗を防ぐためアルカリの濃度を薄くする (AaA と記載)。さらに少ない試料は AAA を行っていない。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX- II)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。δ 13C は試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma: 68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4 (Bronk, 2009)、較正曲線は IntCal20 (Reimer et al., 2020) である。

3. 結果

(1) 樹種同定

結果を表 1 に示す。先述したように、No.6 (西八日町 I H18-24) は、微小のため組織観察ができず、かつ試料全てを年代測定に用いたため、同定不能である。他の 2 点 (No.4、No.5) はコナラ亜属コナラ節であった。以下に検出された種類の木材解剖学的特徴を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔開部は 1 ~ 3 列、孔開外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性、単列、1 ~ 20 細胞高程度のもので複合放射組織とある。

(2) 放射性炭素年代測定

結果を表 2、図 1 に示す。同位体補正を行った値は、No.1 が 2265 ± 25BP、No.2 が 1030 ± 20BP、No.3 が 6540 ± 30BP、No.4 が 2090 ± 25BP、No.5 が 2130 ± 25BP、No.6 が 2035 ± 25BP である。

暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データベースは、IntCal20 (Reimer et al., 2020) を用いる。2σ の値は、No.1 が calBC396 ~ 208、No.2 が calAD991 ~ 1033、No.3 が 7561 ~ 7362 calBP、No.4 が calBC172 ~ 43、No.5 が calBC343 ~ 53、No.6 が calBC100 ~ AD60 である。

4. 考察

年代測定の結果を暦年代で見ると、小山崎遺跡の土器付着炭化物は No.1 が弥生時代前期頃、No.2 が平安時代、No.3 が縄文時代前期頃に相当する。No.3 の年代値が極端に古いのが、この試料は炭素が少なく、かつ付着物と素地との境界が明瞭でなかったことから、土器胎土に含まれる炭化物の影響を反映している可能性がある。

西一本柳遺跡の炭化材 2 点は、類似し、弥生時代中期頃の年代観を示す。種類は 2 点ともにコナラ亜属コナラ節である。ナラ材は、重硬で割裂しやすい特徴があるので、その特徴を生かして建築材や器具材として用いられる。また、火持ちが良く、火力も強いので、薪炭材としても有用である。生育環境は、明るい林地を好む傾向があり、林縁や人里近くに二次林を形成することが多い。さらに、クリやコナラなどともに「里山林」を構成する主要な種類でもある。里山林は、適度な伐採や粗朶の取替などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。このことから、遺跡近くに適度な人的干渉を受けた森林が存在し、そこから木材を得ていた可能性がある。県内の弥生時代の炭化材について、出土木製品用材データベース (伊東・山田編, 2012) をみると、西一本柳遺跡をはじめ後家山遺跡や根々井芝宮遺跡からコナラ節の炭化材が検出されている。

西八日町遺跡から検出された櫛の木片も、弥生時代中期頃の組成を示す。

表 1. 分析試料一覧・樹種同定結果

No.	試料名等	性状 (樹種)		備考
1	小山崎	D4-1	土器附着炭化物	微量
2	小山崎	HI-12	土器附着炭化物	
3	小山崎	H4	土器附着炭化物	炭素が少ない
4	西一本柳 XX IV	H8-1	炭化材 (コナラ亜属コナラ節)	
5	西一本柳 XX IV	H9-1	炭化材 (コナラ亜属コナラ節)	
6	西八日町 I	H18-24	木材 (微細のため、同定不能)	微量

表 2. 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	分析方法	測定年代 BP (暦年較正用)	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正年代			Code No.		
					年代値		確率 %			
No.1 小山崎 D4-1	土器附着炭化物	無処理	2265 ± 25 (2266 ± 23)	-24.77 ± 0.31	σ	cal BC 391 - cal BC 357	2340 - 2306	calBP 39.6	PAL- 14098	YU- 16181
						cal BC 278 - cal BC 258	2227 - 2207	calBP 17.4		
					Z	cal BC 246 - cal BC 233	2195 - 2182	calBP 11.3		
No.2 小山崎 HI-12	土器附着炭化物	AAA (1M)	1030 ± 20 (1030 ± 21)	-29.67 ± 0.28	σ	cal BC 396 - cal BC 351	2345 - 2300	calBP 46.4	PAL- 14099	YU- 16182
						cal AD 995 - cal AD 1028	956 - 926	calBP 68.3		
					Z	cal AD 991 - cal AD 1033	960 - 917	calBP 95.4		
No.3 小山崎 H4	土器附着炭化物	AaA (0.1M)	6540 ± 30 (6540 ± 29)	-25.54 ± 0.27	σ	cal BC 5530 - cal BC 5474	7479 - 7423	calBP 68.3	PAL- 14100	YU- 16183
						cal BC 5612 - cal BC 5592	7561 - 7541	calBP 4.6		
					Z	cal BC 5562 - cal BC 5472	7511 - 7421	calBP 87.5		
No.4 西一本柳 XX IV H8-1	炭化材 コナラ節	AAA (1M)	2090 ± 25 (2089 ± 23)	-29.10 ± 0.30	σ	cal BC 148 - cal BC 136	2097 - 2085	calBP 10.3	PAL- 14101	YU- 16184
						cal BC 113 - cal BC 51	2062 - 2000	calBP 58.0		
					Z	cal BC 172 - cal BC 43	2121 - 1992	calBP 95.4		
No.5 西一本柳 XX IV H9-1	炭化材 コナラ節	AAA (1M)	2130 ± 25 (2129 ± 23)	-29.16 ± 0.33	σ	cal BC 196 - cal BC 185	2145 - 2134	calBP 6.6	PAL- 14102	YU- 16185
						cal BC 179 - cal BC 103	2128 - 2052	calBP 61.6		
					Z	cal BC 343 - cal BC 322	2292 - 2271	calBP 7.6		
No.6 西八日町 I H18-24	木材 同定不能	AaA (0.0001M)	2035 ± 25 (2033 ± 23)	-32.78 ± 0.29	σ	cal BC 202 - cal BC 91	2151 - 2040	calBP 77.6	PAL- 14103	YU- 16186
						cal BC 79 - cal BC 53	2028 - 2002	calBP 10.2		
					Z	cal BC 49 - cal AD 10	1998 - 1941	calBP 68.3		
					σ	cal BC 100 - cal BC 68	2049 - 2017	calBP 8.7		
						cal BC 60 - cal AD 31	2009 - 1920	calBP 83.4		
						cal AD 41 - cal AD 60	1910 - 1890	calBP 8.3		

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 5,568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基準として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

4) AAAは酸-アルカリ一般処理、AaAはアルカリ濃度を薄くした処理を示す。

5) 暦年の計算には、Oxcal4.4を使用。

6) 暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。

7) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算がしやすいように、1桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は σ が68%、 Z が95%である。

引用文献

Bronk RC., 2001, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.

林 昭三, 1999, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

伊東隆夫・山田昌久 (編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R.,

Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S.,

Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C.,

Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S.,

Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編) ,2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .

島地 謙・伊東隆夫,1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.

Stuiver M., & Polach A.H., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編) ,1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

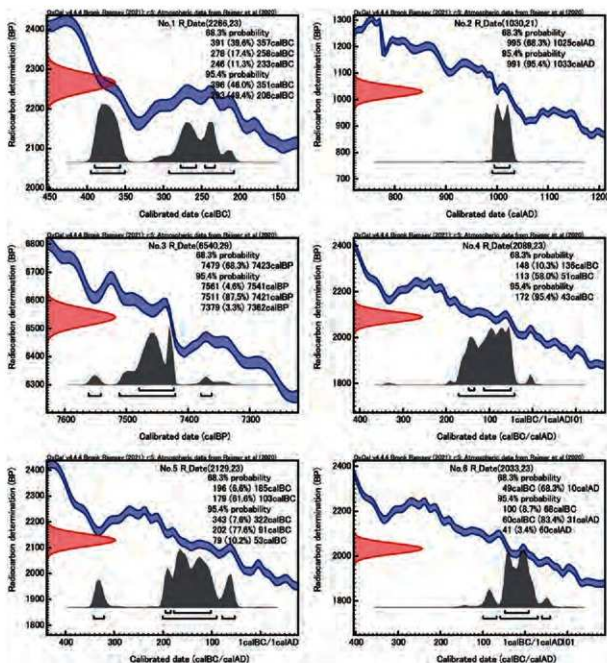
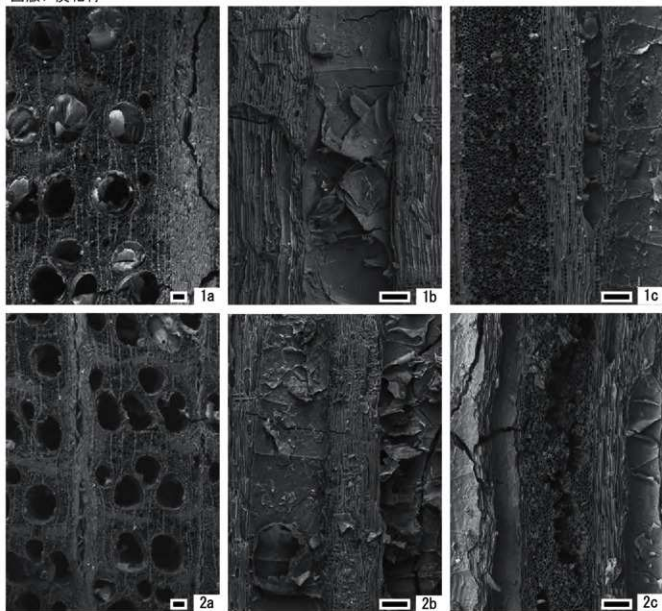


図1. 暦年校正結果

図版1 炭化材



1. コナラ垂属コナラ節 (No. 4)
2. コナラ垂属コナラ節 (No. 5)

a:木口 b:柾目 c:板目
スケールは100 μ m

V まとめ

圃場整備事業による地形の改変により、小山崎遺跡の残存状況は決して良好ではなかった。今回遺構が確認できた部分も、辛うじて消滅を免れただけであり大きな削平を受けている。

小山崎遺跡の最大の特徴は、縄文時代の石器製作址であることである。主に石鏃や石錐、石匙などの小型の打製石器が製作されており、石材はチャートが主体である。このチャートは片貝川により運ばれてきたものと思われる、氾濫原上に営まれている小山崎遺跡は、チャートが容易に入手出来る地の利が成立させたわけである。時期的には縄文時代前期の塚田、中道式期のものであり、状態は良くないが堅穴建物も検出されている。石器は遺構に伴うものは少なく、圃場整備により移動された黒色土中から多く出土している。このような状況の遺跡を石器製作址と判断した理由は、多量の石器未製品の存在からであるが、中部横断自動車道に伴う県埋文センターの調査でも同様な状況が看取される。縄文土器のほとんどは前期塚田、中道式であり、含繊維の胎土で尖底。文様は、

羽状縄文や撚糸の単軸絡糸体である。その他の時期の土器片も散見されたが数は少ない。放射性炭素年代測定からは7561-7362calBPの暦年較正年代が測定された。御代田町塚田遺跡や下弥堂遺跡の測定年代に比べ500～1000年ほど古い年代が示された。測定資料が土器片そのものであるという事に起因するのであろうか。データの蓄積を待ちたい。

二つ目の特徴として、弥生時代中期前半の遺構の検出があげられる。円形の土坑内から概期の甕、壺の複数個体分の破片が出土している。佐久市出土の概期の土器としては「宮浦遺跡」や「反田遺跡」土器群に先行するものと思われるが、既出資料が少ないため判断としない。放射性炭素年代測定からは2345-2157calBPの暦年較正年代が示された。また、本資料の土器片の中には所謂「金雲母」を胎土中に多含するものが認められる。山梨県の資料との比較が必要かもしれない。

三つ目の特徴は平安時代後期と思われる土器群の検出があげられる。器高の低い羽釜や、「かわらけ」を組成に含む土器群であり、羽釜の胎土は中世の内耳鍋に近い。竪穴建物は東南隅にカマドを有しており、中世のそれとは異なる。放射性炭素年代測定からは960-917calBPの暦年較正年代が示された。10世紀から11世紀前葉の実年代であり、聖原編年のIX期に該当する。

全体的に、今回の放射性炭素年代測定で示された年代は予想よりも古い印象であるが、資料の蓄積が必要なのであろう。相対的な比較資料として測定した西一本柳遺跡の中期後半栗林期終末期と思われる2例の竪穴建物出土の炭化材の年代は2121-1992calBPと2292-2002calBPであり、土器編年からは、古墳時代後期に比定される西八日町遺跡の竪穴建物出土の横櫛の年代は2049-1890calBPと弥生時代後期の年代が示された。西八日町例は試料の量が微量すぎたためと思われる。

最後に中世以降と思われる多くのビッドが検出された。遺物を伴わないため年代は不明であるが、その形態は当地方の中世遺構の特徴を具現していた。また、古墳時代の菅玉と白玉が出土している。周辺部に古墳が存在したのかもしれない。

引用・参考文献

- 1987年 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第25集 「金の尾遺跡 無名墳(きつね塚)」
山梨県教育委員会 日本道路公団
- 2005年 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第126集 「聖原遺跡 第5分冊」 佐久市教育委員会
- 2007年 埼玉弥生土器観覧 「埼玉の弥生土器」 六一書房
- 2008年 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第149集 「反田遺跡」 佐久市教育委員会
- 2014年 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第219集 「市道遺跡V・平馬塚遺跡II・北東遺跡II・宮浦遺跡I・北畑遺跡III」 佐久市教育委員会
- 2022年 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第287集 「西八日町遺跡I」 佐久市教育委員会
- 2022年 佐久市埋蔵文化財調査報告書 第289集 「西一本柳遺跡XIV」 佐久市教育委員会

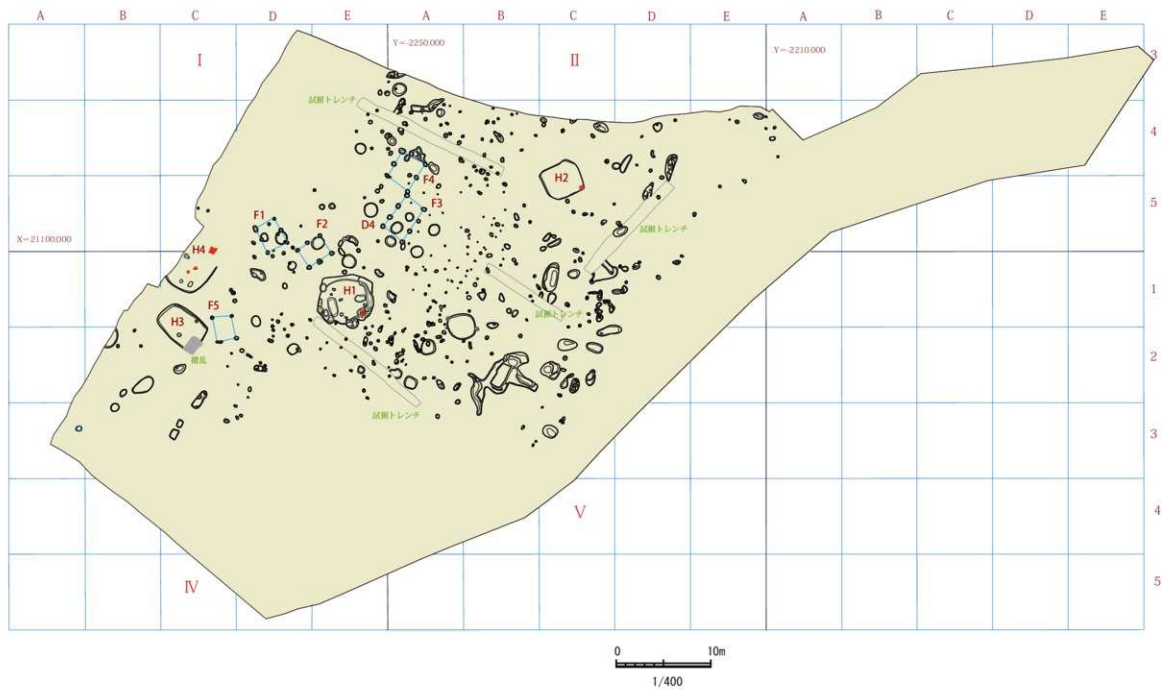


Fig.79 小山崎遺跡全体図



H 1号竪穴建物



H 1号竪穴建物カマド



H 2号竪穴建物



H 2号竪穴建物カマド



H 3号竪穴建物



H 4号竪穴建物



F 1号掘立柱建物



F 2号掘立柱建物



F 3号掘立柱建物



F 4号掘立柱建物



F 5号掘立柱建物



D 1号土坑



D 2号土坑



D 5号土坑



D 3号土坑



D 4号土坑



D 8号土坑



D 6号土坑



D 7号土坑



D 9号土坑



D 10 号土坑



D 11 号土坑



D 12 号土坑



D 13 号土坑



D 14 号土坑



D 15 号土坑



D 16 号土坑



D 17 号土坑



D 18 号土坑



D 19 号土坑



D 20 号土坑



D 21 号土坑



D 22 号土坑



D 23 号土坑



D 24 号土坑



D 26号土坑



D 27号土坑



D 28号土坑



D 31号土坑



D 32号土坑



D 29号土坑



D 34号土坑



D 35号土坑



D 38号土坑



D 33号土坑



D 37号土坑



D 41号土坑



D 36号土坑



D 39号土坑



D 42号土坑



D 43 号土坑



D 44 号土坑



D 45 号土坑



D 46 号土坑



D 47 号土坑



D 48 号土坑



D 49 号土坑



D 51 号土坑



D 52 号土坑



D 53 号土坑



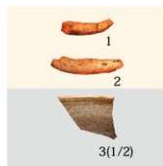
M 1 号溝



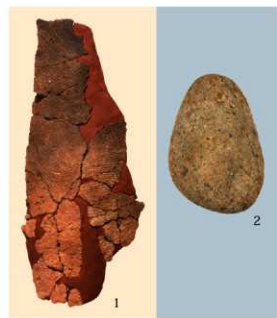
M 2 号溝



H 1号竪穴建物出土遺物



H 2号竪穴建物出土遺物



H 3号竪穴建物出土遺物



H 4号竪穴建物出土遺物 (1)





H 4号竖穴建物出土遺物 (1)



掘立柱建物出土遺物



D1号土坑出土遺物



D3号土坑出土遺物

D2号土坑出土遺物



D4号土坑出土遺物 (1)

土坑出土遺物 (1)



D4号土坑出土遺物(2)



D5号土坑出土遺物



D7号土坑出土遺物



D8号土坑出土遺物



D10号土坑出土遺物



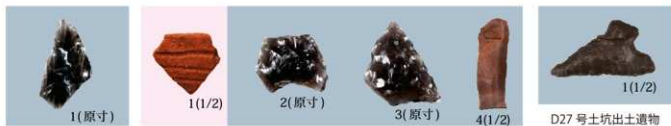
D17号土坑出土遺物

D21号土坑出土遺物



D22号土坑出土遺物

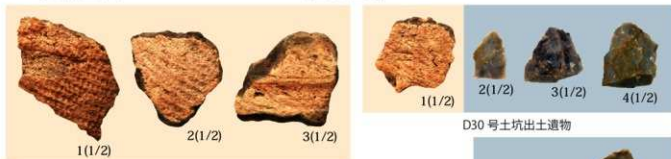
土坑出土遺物(2)



D24 号土坑出土遺物

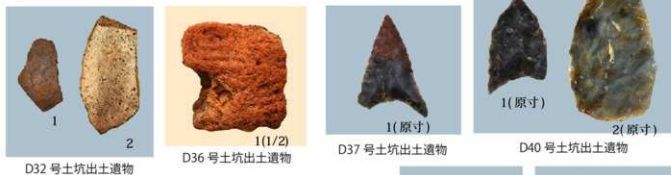
D26 号土坑出土遺物

D27 号土坑出土遺物



D28 号土坑出土遺物

D30 号土坑出土遺物



D32 号土坑出土遺物

D36 号土坑出土遺物

D37 号土坑出土遺物

D40 号土坑出土遺物



D38 号土坑出土遺物

D42 号土坑出土遺物

D43 号土坑出土遺物



D44 号土坑出土遺物

D45 号土坑出土遺物

D46 号土坑出土遺物

D46 号土坑出土遺物

土坑出土遺物 (3)



1(1/2)

D50 号土坑出土遺物



1(1/2)

2(1/2)

D52 号土坑出土遺物



1(1/2)

D53 号土坑出土遺物

土坑出土遺物 (4)



1(1/2)

2(1/2)

3(1/2)

4(1/2)

5(1/2)

6(1/2)

7(1/2)

8(1/2)

9(1/2)

10(1/2)

11(1/2)

12(1/2)



14(原寸)

16(原寸)

20(1/2)

13(1/2)

15(原寸)

17(原寸)

18(原寸)

19(1/2)

21(1/2)

22(原寸)

M 2 溝出土遺物



P1-1(1/2)



P2-1



P24-1(1/2)



P26-1



P27-1(1/2)



P99-1(原寸)

ビット出土遺物 (1)



P230-1(原寸)



P249-1(1/2)



P324-1(原寸)



P343-1



P241-1(1/2)



P249-2(1/2)

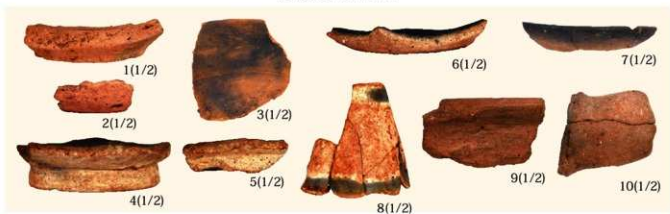
ビット出土遺物 (2)



遺構外出土縄文土器



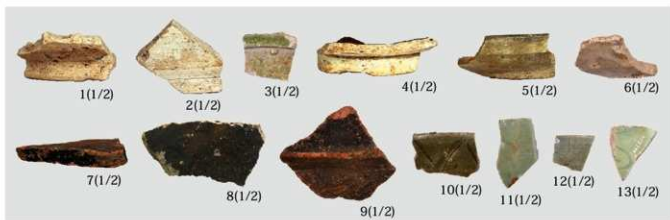
遺構外出土弥生土器



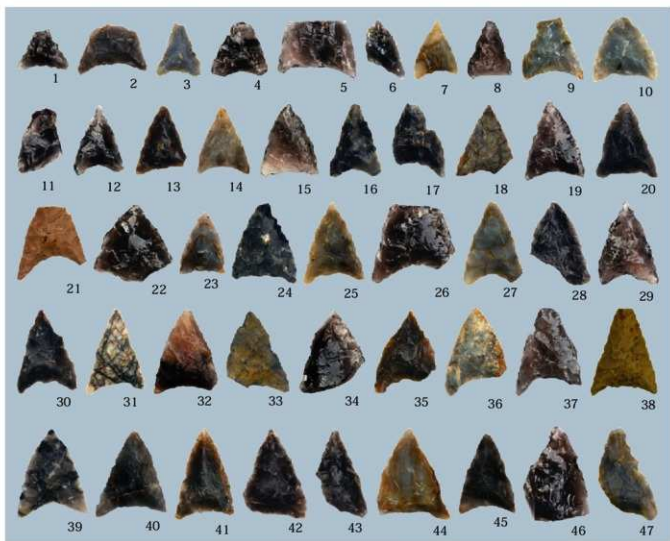
遺構外出土土師器



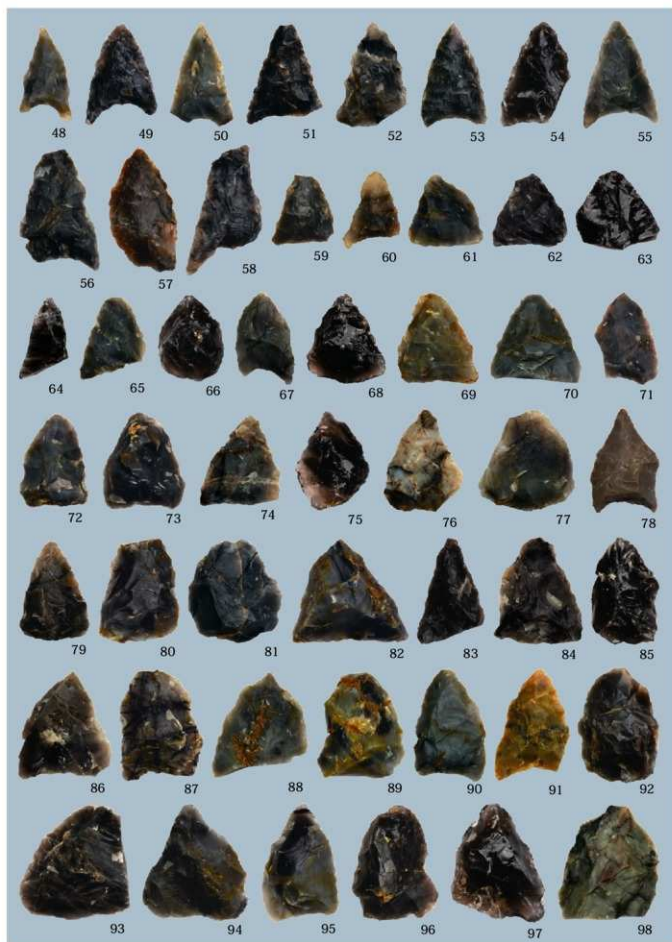
遺構外出土須恵器



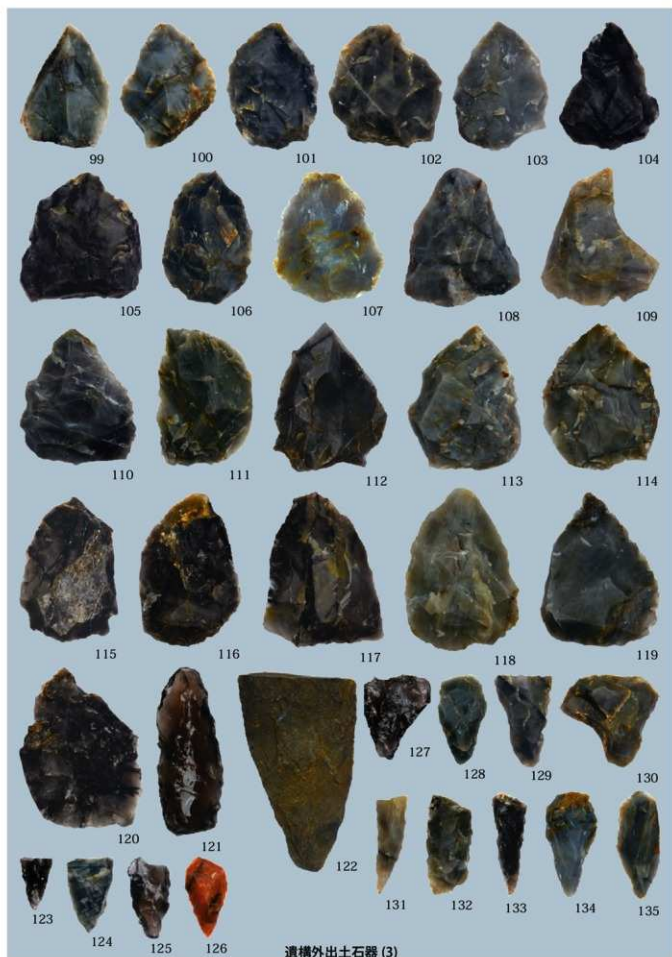
遺構外出土陶磁器

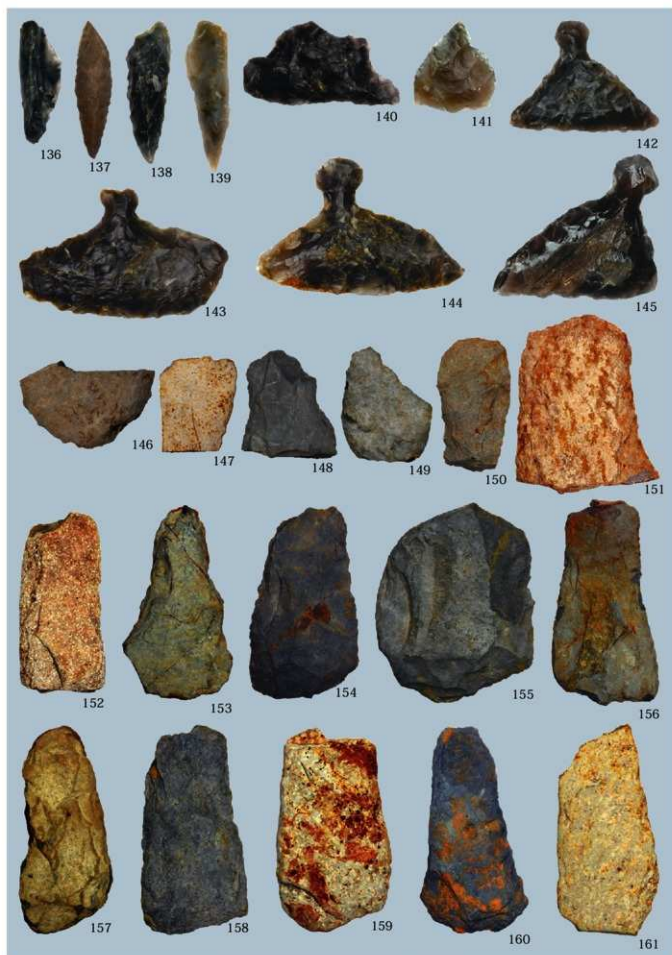


遺構外出土石器 (1)

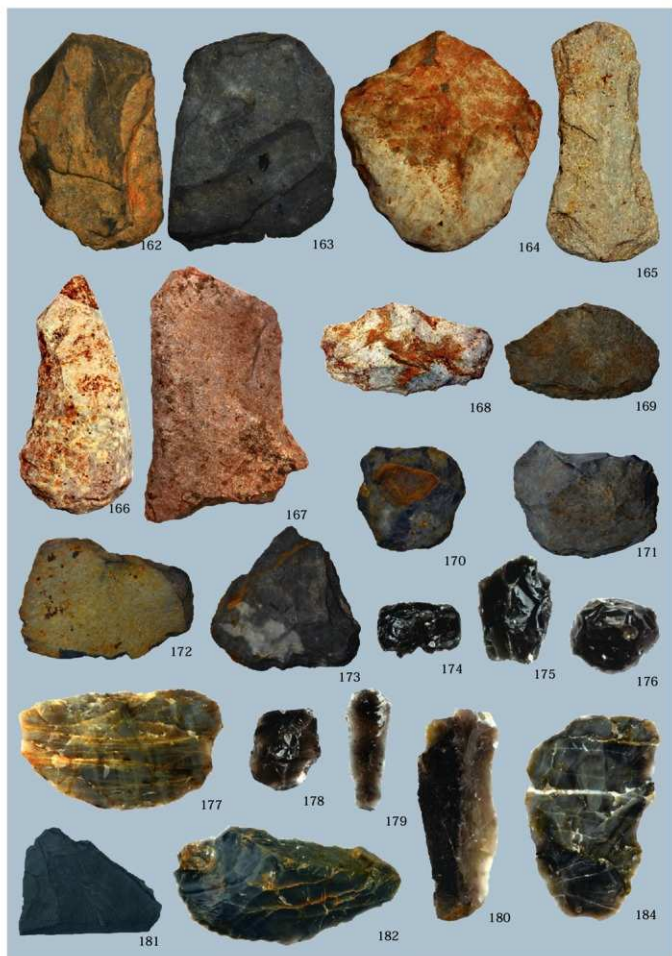


遺構外出土石器(2)





遺構外出土石器 (4)(145まで原寸、以降は 1/2)



遺構外出土石器 (5)(173まで 1/2、以降は原寸)



遺構外出土石器 (6)(183・194・195 原寸、190(1/4)、その他は 1/2)



遺構外出土金属器 (鉄は 1/2、銅は原寸)

ふりがな	こやまざきいせきぐん こやまざきいせき							
書名	小山崎遺跡群 小山崎遺跡							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 298 集							
編著者名	小林真寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 ℡ 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 5 年 (2023) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	36° 11' 24.66"	138° 28' 29.43"	20190820 ～ 20200807	3396㎡	学校建設
こやまざきいせき	〒185-0201 佐久市小田町 177-1 番	20217	609					
小山崎遺跡	佐久市下小田町 177-1 番							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
小山崎遺跡	集落址	縄文・弥生・平安・中世		竪穴建物 - 4 棟 掘立柱建物 - 5 棟 土坑 - 53 基 溝 - 2 条 ビット - 365 基		縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 石器・石製品 鉄器		縄文時代前期の集落、石器製作址。 弥生時代中期前半の遺構・遺物の検出。
要約	縄文時代前期の石器製作址である。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第298集

小山崎遺跡群 小山崎遺跡

2023年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

☎0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限公司
